

トータルブランディング方針について 別添資料

令和6年2月9日 データ活用部会（想定）

令和6年1月25日時点案

熊谷スマートシティ トータルブランディング方針 Ver.2.0

熊谷市が行うスマートシティ政策の
ブランドアイデンティティの統一に向けて

目次

1 . 熊谷スマートシティのブランドアイデンティティ、デザインルールと 政策企画方針（コンセプト）について	p 3
2 . 熊谷スマートシティの政策の構造（宣言、実行計画との関係等） . .	p 4
3 . デザインルールの構成	p 5
【1】やさしい未来発見に向けた3つの好循環	p 6
【2】ビジュアルの統一について	p 12
【3】スマートシティ関係部局を中心にした熊谷市版ITスキルの整理と普及 . . .	p 18
【4】熊谷スマートシティにおける「暑い」に類する表現の使い方について . . .	p 20
4 . 政策企画方針（コンセプト）の構成	p 21
【1】熊谷スマートシティの重視ポイントと基礎的な構成要素	p 22
【2】DXアイデア・事業創造の流れ	p 27
【3】ウェルビーイング指標の政策検討への活用（EBPM）	p 29
【4】コモンデータ・Webコモンスペースの考え方による公民連携のデータ活用 .	p 33
参考資料	p 36

1. 熊谷スマートシティのブランドアイデンティティ、デザインルールと政策企画方針（コンセプト）について

○熊谷スマートシティはスマートシティ宣言（令和5年7月）に沿って持続的な価値（ブランド）を確保するため、ビジュアル等を含むデザインルールと政策企画方針（コンセプト）の統合的な提示に取り組めます。これにより、市民・来訪者が利便性の高いシステムになじみやすい状況を目指すとともに、各システムの関係者が、スマートシティの全体像を思い浮かべつつ、開発・運用改善等に取り組める環境づくりを目指します。

○デザインの語源は「設計」であると言われており（注）、デザインルールに沿ってビジュアルの加工、情報発信等に関する専門性が発揮されることと、一定の企画方針（コンセプト）に沿って政策が企画されることは一体的であるべきと考えられます。ビジュアル等を含むデザインの提案とコンセプトに沿って企画を立案する政策担当者の応酬等のプロセスが適切に行われることで、市民の生活を支えていく、熊谷スマートシティの価値（ブランド）が持続的となることを意識して業務に取り組めます。

具体的には、ビジュアル等の加工、情報発信に関する専門性を有する関係者などに常に適切な情報提供を行いつつ、政策担当者同士・関係者同士が広い視野から、関連する政策を含めた全体像の構想・設計に取り組めるよう、ネットワークの形成、スケジュール確保に努めます。

○なお、デザインルールと政策企画方針（コンセプト）は、その時点での解に過ぎず、市民の多様性、変わりゆく地域社会に向けて常に変わり続ける必要があるとの認識の下で、新しい知見や、市民・地域社会の変化へ対応した生きたデザインルール、政策企画方針（コンセプト）のあり方を考え続けます。

（注）デザインという言葉の語源はラテン語の「Designare」にあるといわれています。Designareは「計画を記号に表す」つまり図面に書き表すという意味であったといわれています。これを踏まえると、当初デザインという言葉は「設計」という意味で用いられていたことが想像できます。（出典：公益財団法人日本デザイン振興会Webサイトより）

2. 熊谷スマートシティ政策の構造（宣言、実行計画との関係等）

○スマートシティ宣言（令和5年）に示された理念に沿って、スマートシティ関連政策の検討・実装に取り組むために、本「熊谷スマートシティトータルブランディング方針」（以下「本方針」）を設定します。

○本方針は、ビジュアル等を含むデザインルールと政策企画方針（コンセプト）から構成されます。ルール、コンセプトの一部がガイドライン等として切り出されている場合には、その関係性を本方針に示すものとします。

○また、本方針に沿って検討、実装に向かう具体の計画については、「熊谷スマートシティ実行計画」（以下「実行計画」）に記載するものとします。

○本方針（ルール、コンセプト）及び関係ガイドライン等は市民・来訪者の共感や具体の参画を得て熊谷スマートシティの持続的な価値（ブランド）につなげる目的のため公表します。

- ・ SSID（スマートフォン サービス インターフェイス デザイン）ガイドライン
サービスに共通する仕様等（の意図）への共感を目指す。
- ・ 熊谷スマートシティスキルカタログ
サービスの開発や運用を支えるスタッフ・組織の姿勢や意識等への共感を目指す。
- ・ デジタルデザインルートマップ（検討中）
社会・地域が成長・変化していくストーリーへの共感及び具体の参画を目指す。
- ・ 市民参加型のWebGISの活用の手引き
デジタルツールを共有してのまちづくり協働への共感及び具体の参画を目指す。

3 . デザインルールの構成

【1】やさしい未来発見に向けた3つの好循環

持続可能なエコシステム	地域の未来発見
成長サイクル	生活の未来発見
データ活用サイクル	人材の未来発見

【2】ビジュアルの統一について

(関係ガイドライン等)

SSID (スマートフォン サービス インターフェイス デザイン) ガイドライン

【3】スマートシティ関係部局を中心にした熊谷市版ITスキルの整理と普及

(関連ガイドライン等) 熊谷スマートシティスキルカタログ

【4】「暑い」に類する表現の使い方について

【デザイン1】 やさしい未来発見に向けた3つの好循環

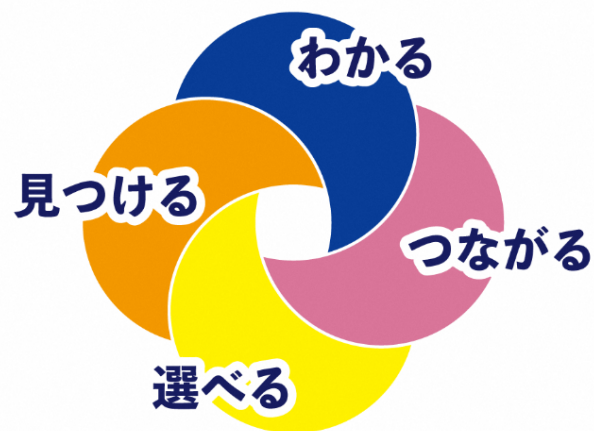
熊谷市では持続性のある地域を目指し、スマートシティの政策を実施。
熊谷スマートシティは様々な人が関わりながら、以下3つのサイクルを回すことによって、ウェルビーイングや、データ活用、産業DXの好循環をつくっていく。

熊谷市の目指す
持続可能な地域をつくるエコシステム



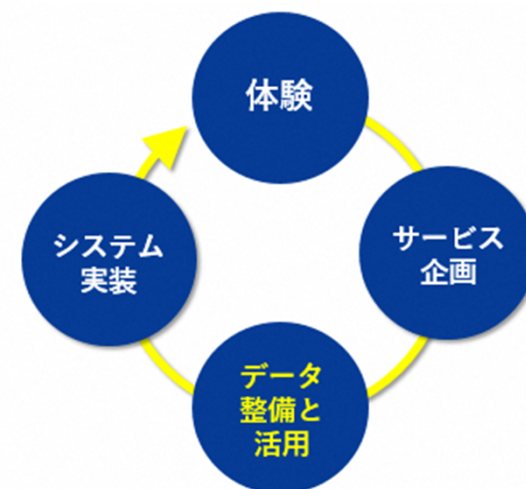
(地域の未来発見)

やさしい未来発見都市の
成長サイクル



(生活の未来発見)

熊谷市の目指す
データ活用サイクル

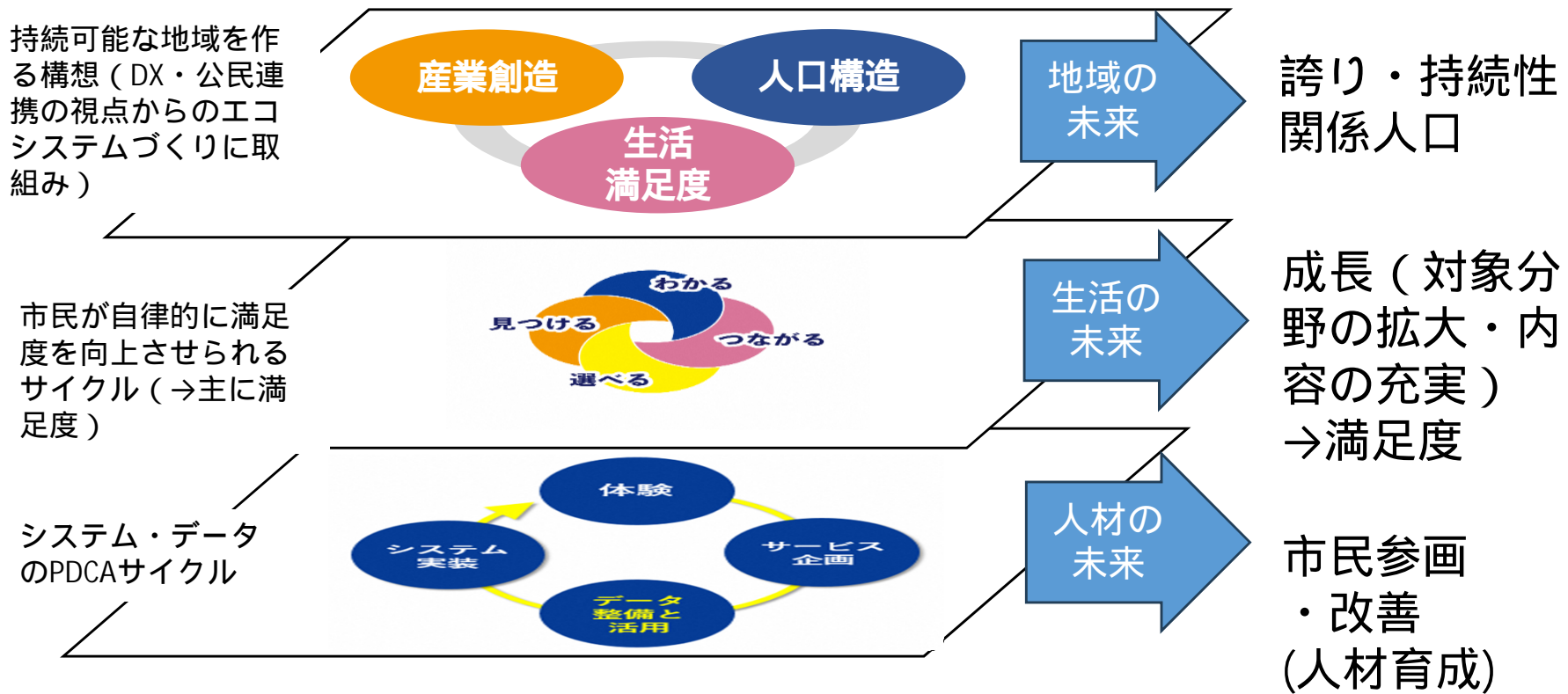


(人材の未来発見)

3つの好循環の関係性

「幸福度の高いまち」の持続のためには以下の「地域の未来」
「生活の未来」「人材の未来」の3つのレイヤの好循環が必要

（目指す内容の
キーワード）



熊谷市の目指す持続可能な地域をつくるエコシステム

(産業DXに係る未来発見・地域づくり構想)

産業DXや公民連携により、産業を創造し、生活満足度を高め、人口構造を変えていくシステム

システムから得られるデータの活用や、事業者、大学との連携などの公民連携の取り組みなどから新たな産業の創造を目指す。

また、データを分析し市民ニーズに即した施策を行うことで生活満足度を高め、関係人口を含めた人口増加、転出抑制を図ることで、市民はもとより市外のファンも誇りに思える持続可能な地域づくりを行う。



新たな事業が生まれ、生活の満足度が上がり、人口が増える
『地域の未来』をつくる

やさしい未来発見都市の成長サイクル

(ウェルビーイングに係る未来発見)

熊谷スマートシティの仕組みにより、
新たな使い方、自分なりの楽しみ、
自律的な幸せを見つけるための循環

「わかる」「つながる」「選べる」「見つける」という循環をつくることでの「発見」にから始まる満足度の向上を念頭に、市民サービス全般の向上に取り組む。

まちづくりに参画し、地域への愛着を育むことや、自己実現の機会を通して、個人の幸せを追い求める循環する環境をつくり、やさしい未来につなげることを目指す。



『幸福度の高いまち』へ

熊谷市の目指すデータ活用サイクル

(データ活用に係る未来発見)

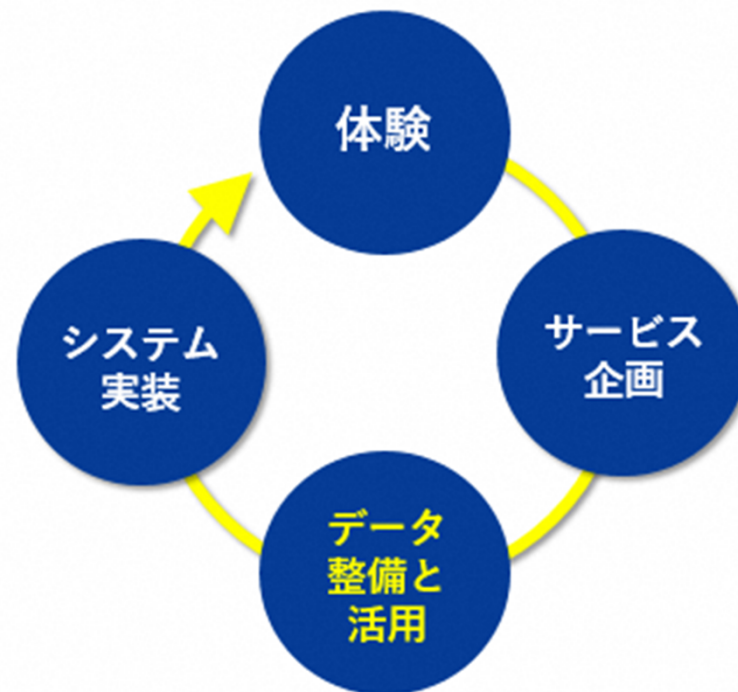
システムとデータによる好循環

システムから得られるデータを蓄積・分析・更新し、次の施策に生かすことが「持続可能なまち」を実現するための仕組みです。

市民目線のデータ整備（市民が活用しやすいデータ整備）

コミュニティバスの位置情報など行政が提供できるデータはもちろん、市民と協働で作るバリアフリー情報などのデータを整備することで、データ活用サイクルを回していきます。

また、これらのデータは地元大学の研究や新たなサービスに活かします。



新たな発見やサービス、事業が生まれる
『データの循環』をつくる

■ 成長サイクルとスマートシティ宣言の関連



- 熊谷スマートシティとしてのキーワード『やさしい未来発見都市』『デジタルと人の力で、社会を前に進めていく』は、スマートシティをプロモーションしていくうえでのキーワードとして設定。
- 『発見』のワードは、熊谷市がスマートシティ政策によってつくる循環の実現によって得られるものであるため、スマートシティ政策における統一的な概念として設定。

- 宣言では「人の力」を宣言文に含むことから、『えらべる』『作りだせる』『つながる』『わかりあう』というワードを使用した。熊谷スマートシティにおいては、シンポジウムで使用した、『わかる』『つながる』『選べる』『見つける』のワードをプロモーションのメインとして使用。
- シンポジウムで使用したワードと、その循環を表現したロゴを作成し、熊谷スマートシティのロゴとしてプロモーションに活用。



【色について】

わかる：スマートシティの入口、クマぶらブルー

つながる：ハート、人とのつながり、クマボピンク

選べる：使い方を選べる、クマPAYイエロー

見つける：新しいデータやサービスを見つける、熊谷市シンボルカラーオレンジ（ひばり色）

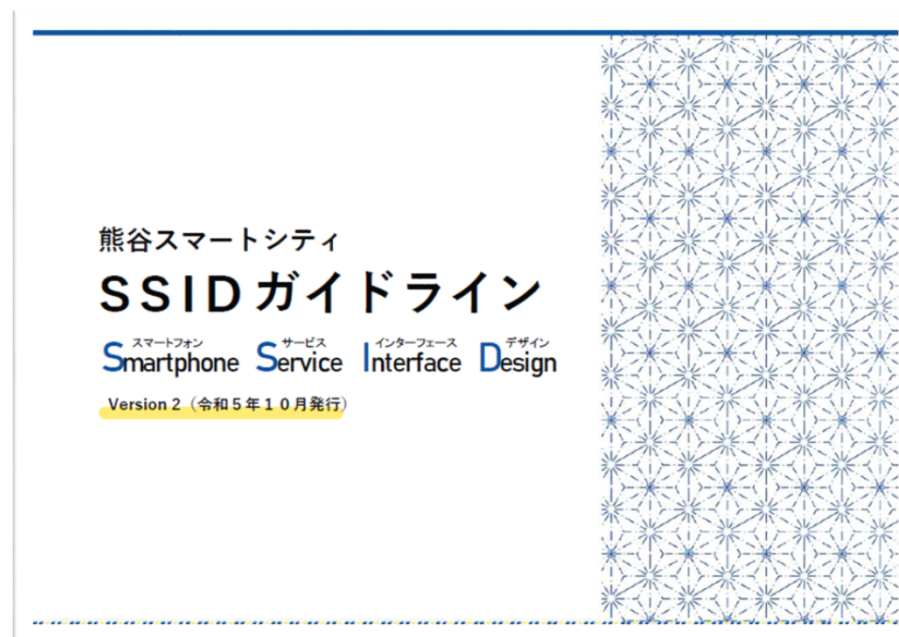
【デザイン2】ビジュアルの統一について

SSIDガイドラインの策定(スマートフォン サービス インターフェイス デザイン)

ユーザーのタッチポイントとなるスマートフォンで、熊谷スマートシティの「ブランドとしての統一感」をつくるため、SSIDガイドラインを策定した。ガイドラインには以下の内容が掲載されている。

- キャラクター指定(スクマムの使用)
- 色彩指定
- 基準となるスマートフォン、ボタンサイズ等システムの仕様

SSIDはブランドとしての統一感の他、アクセシビリティに配慮した「見やすいデザイン」にも言及している。



■ スクمامデザイン等の活用について

スクمام（熊谷スマートシティオリジナルデザイン）

以下のとおり、熊谷スマートシティ及び関連事業のキービジュアルに、スクمامを使用している。これらのデザインはスマートシティとしてのブランドを損なうことのないよう取り扱いに注意しながらも、プロモーションとして幅広く活用していく。

熊谷スマートシティのシンボルロゴ

「やさしい未来発見都市の成長サイクル」を表現したイメージをロゴとして、熊谷スマートシティのシンボルロゴとして使用する。



シンボルロゴ×キーワード

シンボルロゴを抱えるスクمامと、熊谷スマートシティのキーワードである「やさしい未来発見都市」合わせたビジュアル。スマートシティ宣言で使用する。



サービスおよび事業ロゴ

「クマぶら」と「地域通貨」に関連するロゴ。これらのロゴはスクمامのデザイナーにデザインを発注し、事業全体ブランディングについてアドバイスをもらいながら進める。



■ 熊谷スマートシティ関連の印刷物への表示の統一

以下のとおり、熊谷スマートシティ関連の印刷物への表示を統一的に入れ、市民等への浸透を図る。

1 目的

スマートシティプロモーション及びブランディングの一環として、スマートシティ関連の印刷物や資料等に統一的にスマートシティのデザインを入れることにより、市民等の目に触れる機会を増やし、市のスマートシティの認知度を高め、取り組みへの理解を深めていただく。

2 デザイン

パターン1を推奨するが、スペース等の都合により、パターン2も可。大きさは任意とする。

パターン1 (推奨)



熊谷市はスマートシティの取り組みを進めています。
この事業はスマートシティ関連事業です。

パターン2



チラシへの掲載例



■ 「クマぶら」のデザインについて

全てのサービスの入口である「クマぶら」においても、熊谷スマートシティのブランディングを意識し、統一的な考え方でワードを設定。

■ 新たに設定された「クマぶら」のキャッチコピーとその意味について

キャッチコピー

クマガヤ知るなら「クマぶら」

コンセプト

まちの情報を「知る」ことはもちろん、それらのサービスや事業を通して、自分自身の興味関心も知ることができる。

全てのサービスの入口である「クマぶら」を通して、新たな使い方、自分なりの楽しみ、自律的な幸せを発見する。

そのうえで、「クマぶら」のリニューアルにおいては、「使いたいメニューを探しやすくする」ことを第一として、新たに以下3つのキーワードをリッチメニューのタブとして設定した。

知る

使う

楽しむ



■ 熊谷スマートシティ関連施策の範囲について（１）

（ ）スマートシティ政策を実施する上での環境整備として実施しているデジタルデバイス解消のための事業（公共施設のWi-Fi整備や高齢者スマホ貸与事業、スマホ使い方講座など）もスマート政策の一部として、スマートシティのプロモーションに含める。



クマぶら

- ・スマートシティの入口
- ・地域通貨（クマPAY、クマポ）
- ・スタンプラリー事業
- ・熊谷名物、ショップなど



クマPAY

- ・市内加盟店でお買い物に使える地域電子マネー



クマポ

- ・共助等の感謝の気持ちを贈り合えるコミュニティポイント



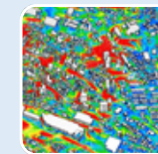
コミュニティバスのスマホ回数券

- ・地域電子通貨で回数券の購入
- ・遅延情報の配信、
- ・乗車データの取得



デジタルデバイドの解消

- ・公共施設のWi-Fi設置事業
- ・スマホ貸与事業
- ・スマホ使い方講座



暑さ対策デジタル連携

- ・暑さ対策スマートパッケージ
- ・スマートエコタウン

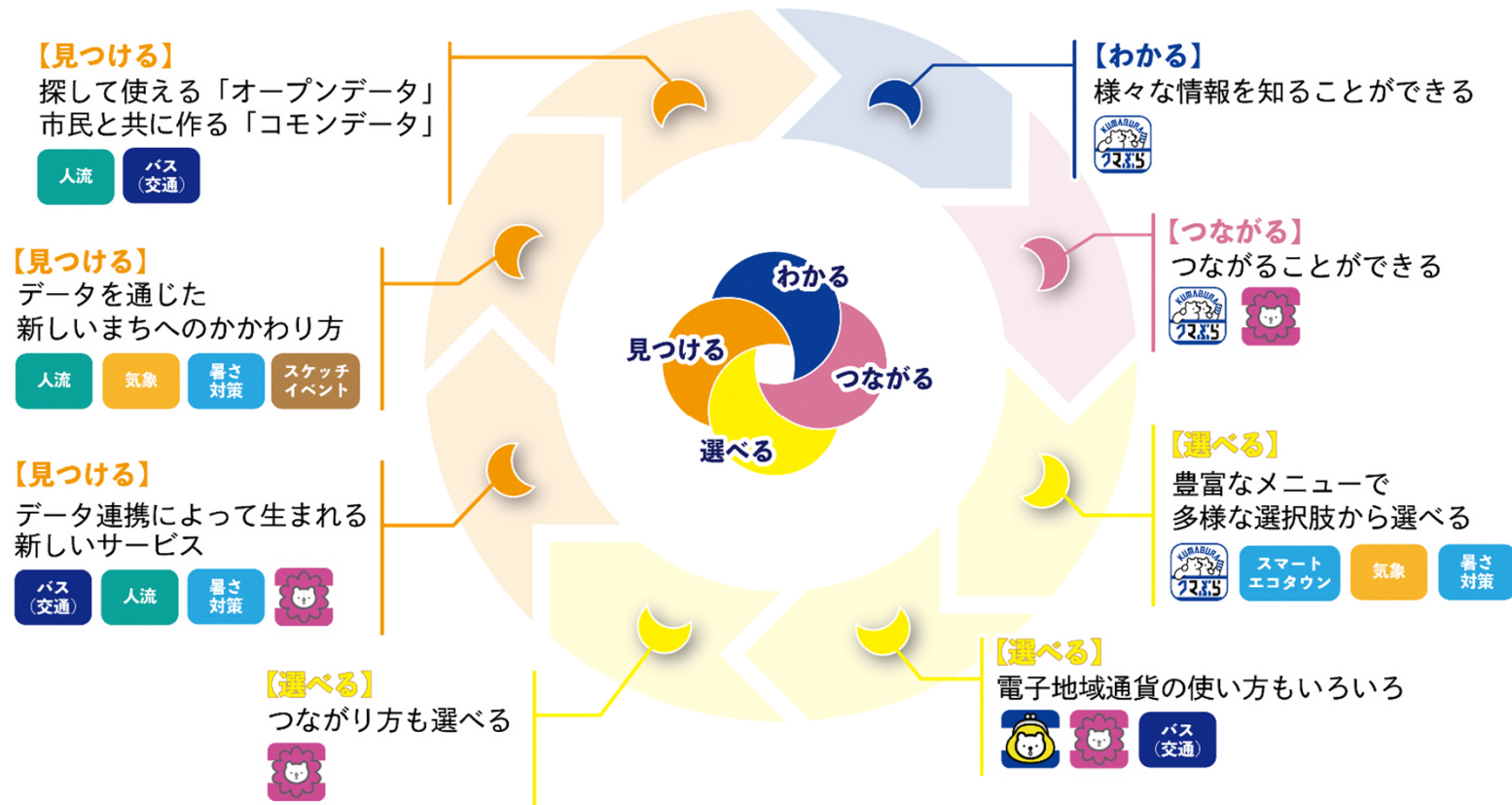


データ活用まちづくり

- ・人流データ（交通手段及び人の動き）のデータの分析
- ・ビッグデータの活用

■ 熊谷スマートシティ関連施策の範囲について（２）

「やさしい未来発見都市の成長サイクル」の循環図に配置されるそれぞれの事業を「スマートシティ施策」として位置づけ、本方針を適用するものとする。



上記事業の他、スマートシティ政策を実施する上での環境整備として実施しているデジタルデバイド解消のための事業（公共施設のWi-Fi整備や高齢者スマホ貸与事業、スマホ講座など）もスマート政策の一部として、スマートシティのプロモーションに含めることとする。

【デザイン3】スマートシティ関係部局を中心にした熊谷市版ITスキルの整理と普及

○システム実装委員会（熊谷市DX推進本部スマートシティ戦略部会）において、スマートシティの推進に必要なITスキル等を、データ活用の実装等に向けたプロセスも念頭に「熊谷スマートシティスキルカタログ」として整理。

・その他、必要に応じて、随時、適切な会議体において、自治体DXに必要なITスキル等を定義する。

○複数の部署で役立てることが可能な（ポータブルな）スキルとすべく、各職員が職位に応じた習得目標を上位職に相談し、必要な業務経験を積める環境を確保する。

【注】「ITスキル」（熊谷市役所における定義）

・一般的な業務の基礎となるITリテラシーや汎用的なスケジュールの自己管理などの基礎的なノウハウとは別途、スマートシティに関係するシステムやデータの設計・実装・運用等に関わる上での基本的な考え方をスキルとして整理する。今後の自治体DX・スマートシティの取組みに際して各課で必要となるため、計画的に経験・習得することが望ましいノウハウ等を指す。

持続サイクルの上で必要な9つのスキル（随時更新）



- スマートシティにおいて【目指すべき価値の調整・共有】を行うスキル
- 必要な【オープンガバナンスの場を設定】し、得られた【アイデアやどのような役割が必要かについての整理】を行うスキル
- 既存のシステムやデータを見渡し、【どうすれば実現できるかを考える】スキル
- 実現のための仮説を、【（必要なベンダー・有識者等の協力を得て）実行可能な内容に落とし込む】スキル
- 【関係者と業務全体の要件・リスクを定義】し、【期間内に業務の成果が得られるようにマネジメント】するスキル
- 【個別のタスクの期限と要件の兼ね合いを管理】し、同時並行的に業務手法を改善したり、段取り管理の中間目標を設定するスキル
- 政策のPDCA、EBPM等に【どのようなデータが必要かを考え、取得方法や分析・活用手法を整理】するスキル（市役所・大学等の政策企画関係者向けを想定）
- 【データを用い、まちづくり等の課題をステークホルダーに伝えて理解を促す】と共に、【将来像や解決策の立案にステークホルダーを巻き込んで公民連携のまちづくりを促進】するスキル
- 民間も含めた熊谷スマートシティの好循環のために【地域（市役所内を含む）に必要なDX人材像・スキルを整理し育成手法を検討】するスキル

【デザイン4】熊谷スマートシティにおける「暑い」に類する表現の使い方について

【当面の方針】

「日本一アツい」について、以下の要件を満たすPRについて、限定的に活用。

[要件]

- ・短期（おおよそ3年以内）での目的・目標設定を持つこと。また、取組みの段取り等が具体的に設定されていること。
- ・当該表現を情報発信に用いることにより、どのような対象に募集等の情報が伝わりやすくなることを目指すべきかやそのメリットが、具体的に説明可能であること。

() その他の場合には、以下のいずれかの使用を想定。

『暑さ』で知られる熊谷市

『暑い』熊谷市

『暑さ対策日本一』熊谷市

4 . 政策企画方針（コンセプト）の構成

【1】熊谷スマートシティの重視ポイントと基礎的な構成要素

- ・ コミュニティ
- ・ 持続性
- ・ （まち、ひとの）ストーリー

【2】DXアイデア・事業創造の流れ（関係ガイドライン等） （仮）デジタルデザインルートマップ（検討中）

【3】ウェルビーイング指標の政策検討への活用（EBPM）

【4】コモンデータ・Webコモンスペースの考え方による公民連携のデータ活用

- （関係ガイドライン等）
（熊谷スマートシティ版）市民参加型のWebGISの活用に向けた取組みの手引き

【コンセプト1】熊谷スマートシティの重視ポイントと基礎的な構成要素

【1】以下3点を重視しつつ、各種の仕組みが好循環を生むエコシステムの効率的な構築を目指す。

- ・コミュニティ
- ・持続性
- ・(まち・ひとの)ストーリー

【2】上記観点を反映した基礎的な構成要素

○コミュニティポイントの活用

() 他都市の同種の非換金ポイントの多くは商業振興を目的とするが、熊谷市では市民同士の「わたす」機能によるコミュニティ活性化を重視

○市民・来訪者の共感を目指すブランディング

- ～スマートシティ宣言(デジタルと人の力で社会を前に進める)
- ～アクセシビリティとデザイン性の両立を目指す**デザインルール**

○【ストーリー1】スマートクールシティへの市民参画

○【ストーリー2】データ活用によるまちなかウェルカム、コンパクト×スマートシティの取組み

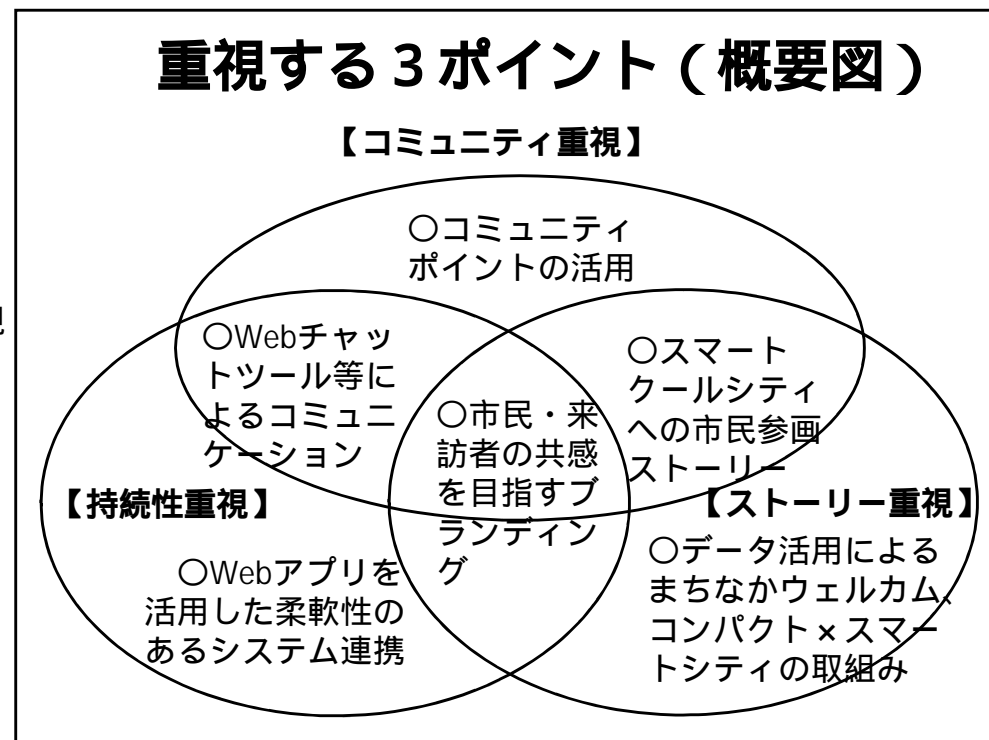
- ～人流等のデータ活用による市民・来訪者・店舗等のWin-Winの仕組み構築
- ～産学官の連携したデジタル・デザインのルート設定
- ～参画を支えるツール(WebGIS・気象シミュレーション)
- ～スマートシティのための独自のスキル設定と人材育成

○Webチャットツール等によるコミュニケーション

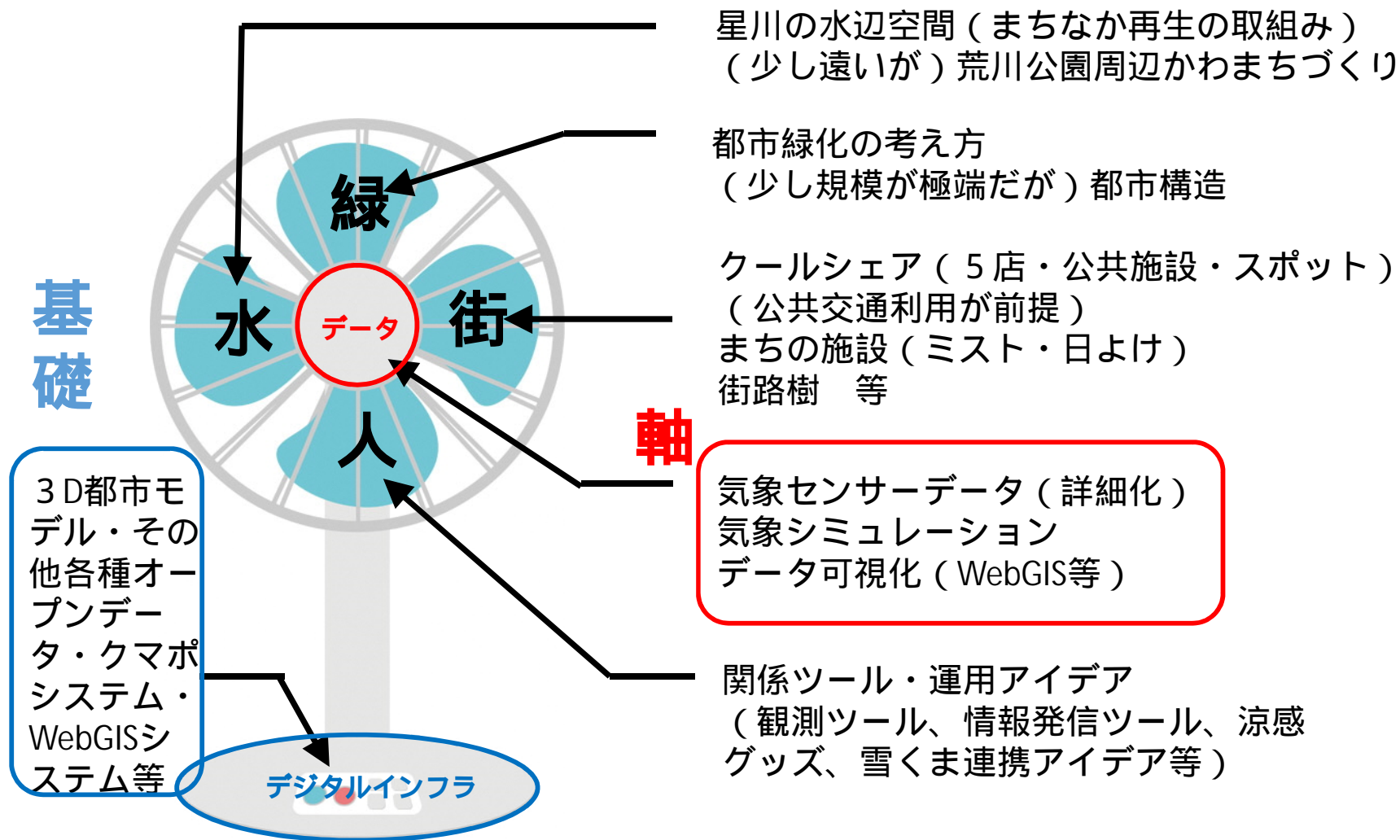
- ～コミュニティポイントを支えるマッチングアプリ
- ～WebGISでのまちづくり、(仮)コミュニティラボを支えるチャットアプリ(～官民連携の取組みを支えるビジネスチャット)

○Webアプリを活用した柔軟性のあるシステム連携

- ～LINEベースのポータル(クマぶら)の他は、原則としてWebアプリ同士のID連携による分散型として構築し、改修への柔軟性等を確保



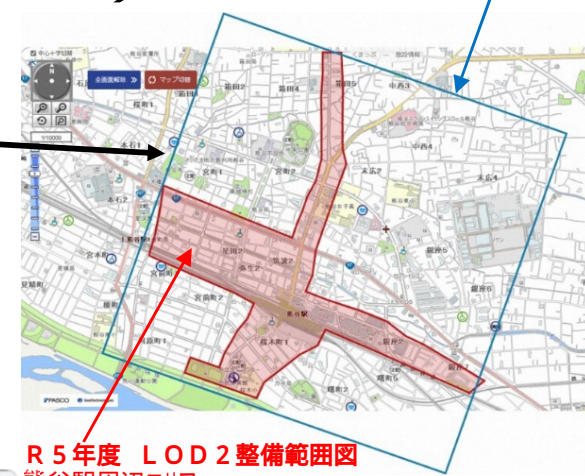
スマートクールシティへの市民参画ストーリーを構成する要素



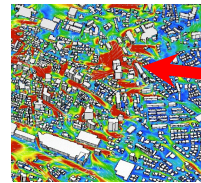
暑さ対策スマートパッケージ（令和6年、7年夏）

R5年度
気象シミュレーション範囲図
・シミュレーション範囲
熊谷駅を中心に徒歩15分圏内約2 Km
四方を想定

まちなか8か所に気象センサーを設置（令和5年度）
気象シミュレーションを実施



気象シミュレーションから、**ヒートエリア**となる空間・
時間の情報を**スマホサービス（クマぶら）**で提供

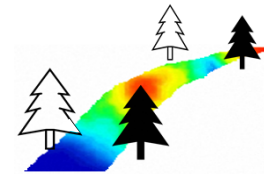


まちなかの**クールシェアスポット**を優先表示
暑い場所にある**クールシェアスポット**に**クマポ**を優遇付与



ポイント 2倍
ポイント 3倍

まちなかでの暑い箇所を**緑陰・日陰**状況によりう回する
目安として**道路の温熱環境**を可視化

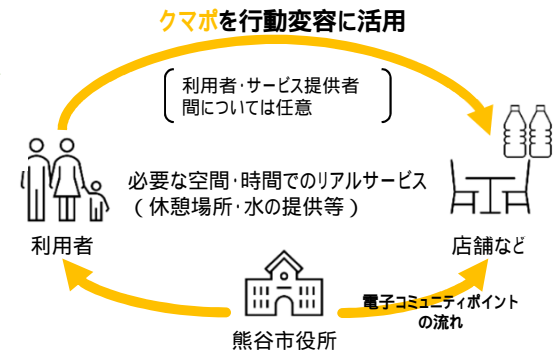


暑さ対策スマートパッケージ

今後の活用：気象データの研究活用や店舗利用者データの人流分析へ



スマホサービス
（クマぶら）



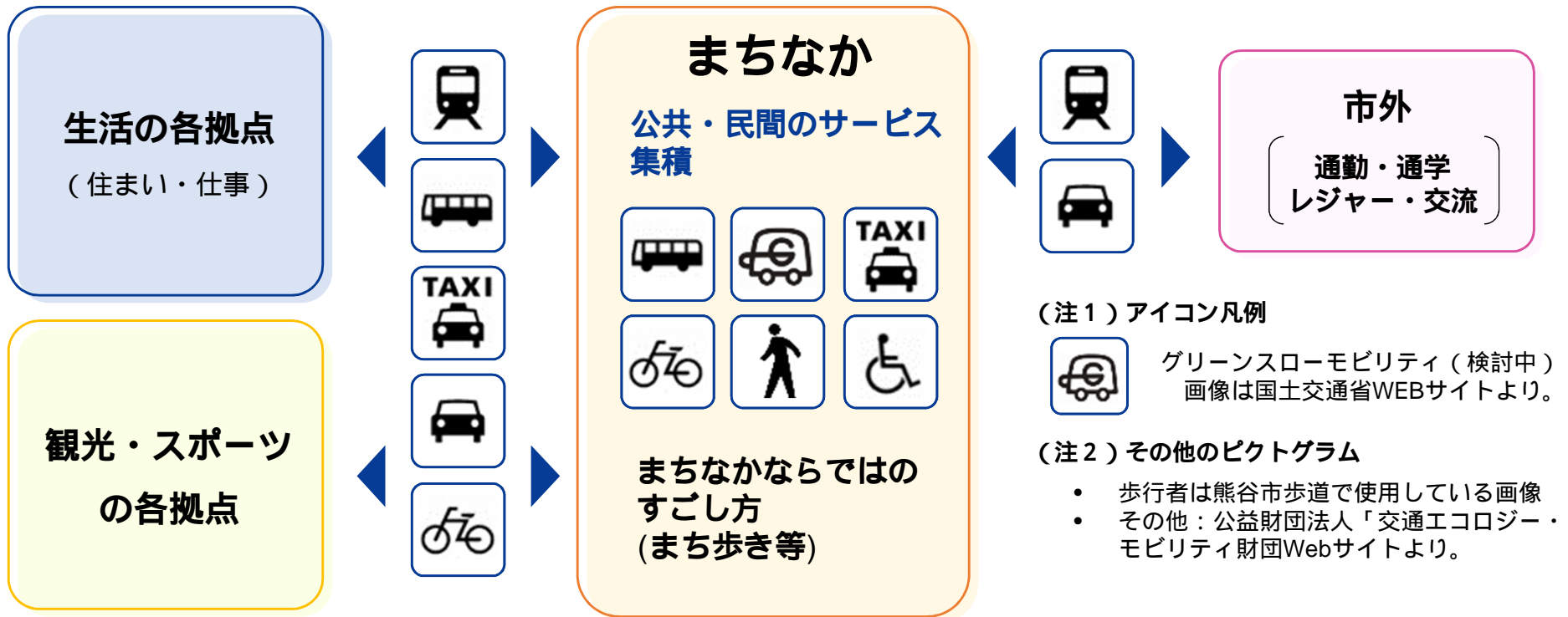
市民・来訪者と店舗が
Win-Winのまちなかウェルカム

データ活用によるまちなかウェルカムのストーリー（1）

（人流データ活用まちづくりについて）

～まちなか再生の切り口からのアプローチ～

「まちなか」から見た人流のイメージ



データ活用によるまちなかウェルカムのストーリー（２）

（まちなかでの体験創造・実証の場の検討）

生活の各拠点（住まい・仕事）との対流

観光・スポーツの各拠点との対流

市外との対流（通勤・通学・レジャー・交流等）

キーワード

『まちなかウェルカム』

まちなかへの人流
まちなかでの人流
まちなかからの人流

リアル

魅力あるサービスの提供

例：新規出店、店舗改善

+

歩きやすい・憩える空間づくり
と移動手段の確保

×

デジタル

オープンデータ化、デジタルを活用した情報提供

+

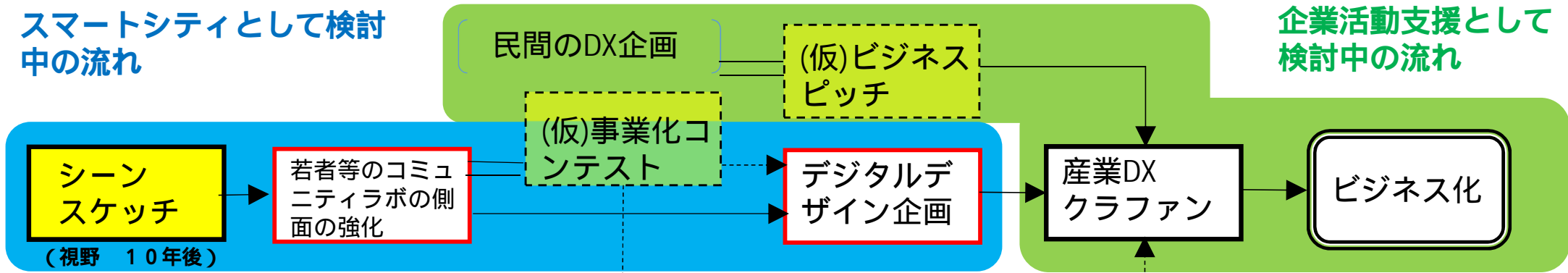
スマートシティで取り組む各種市民サービスとの連携

連携しての効果発揮のためには、人流データを活用した実施内容の検討・検証が不可欠

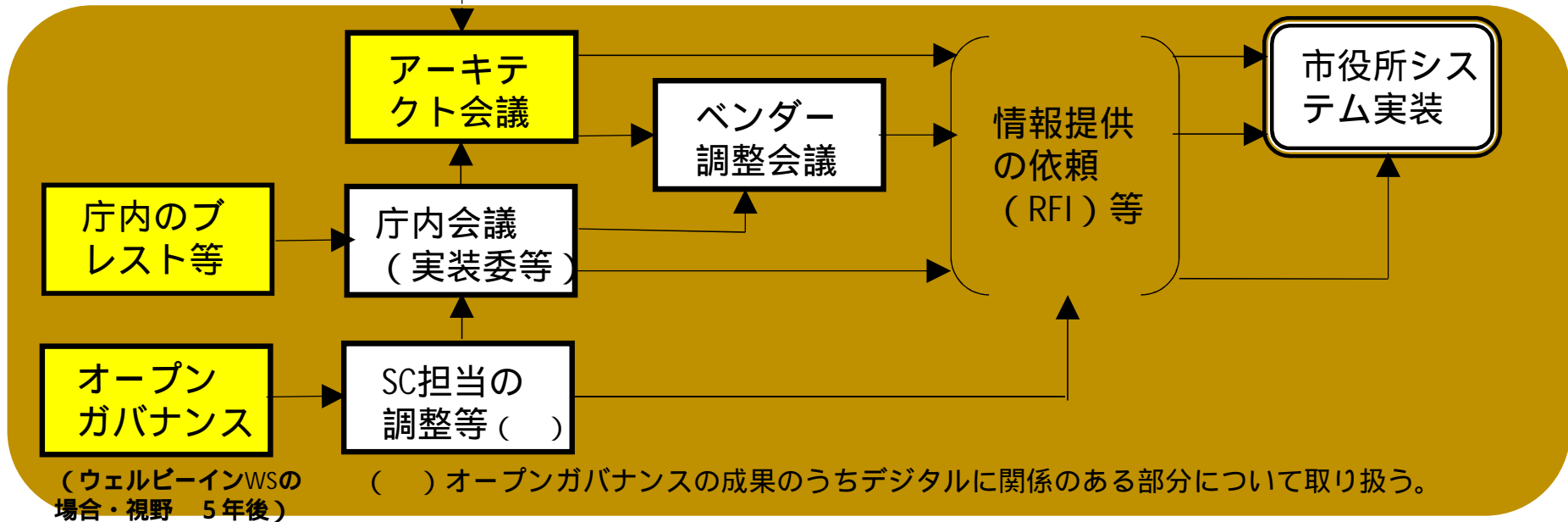
【コンセプト2】DXアイデア・事業創造の流れ

() ビジネス化や実装が次のサイクルのアイデア源(図中の 部分) を活性化させる好循環を目指す。

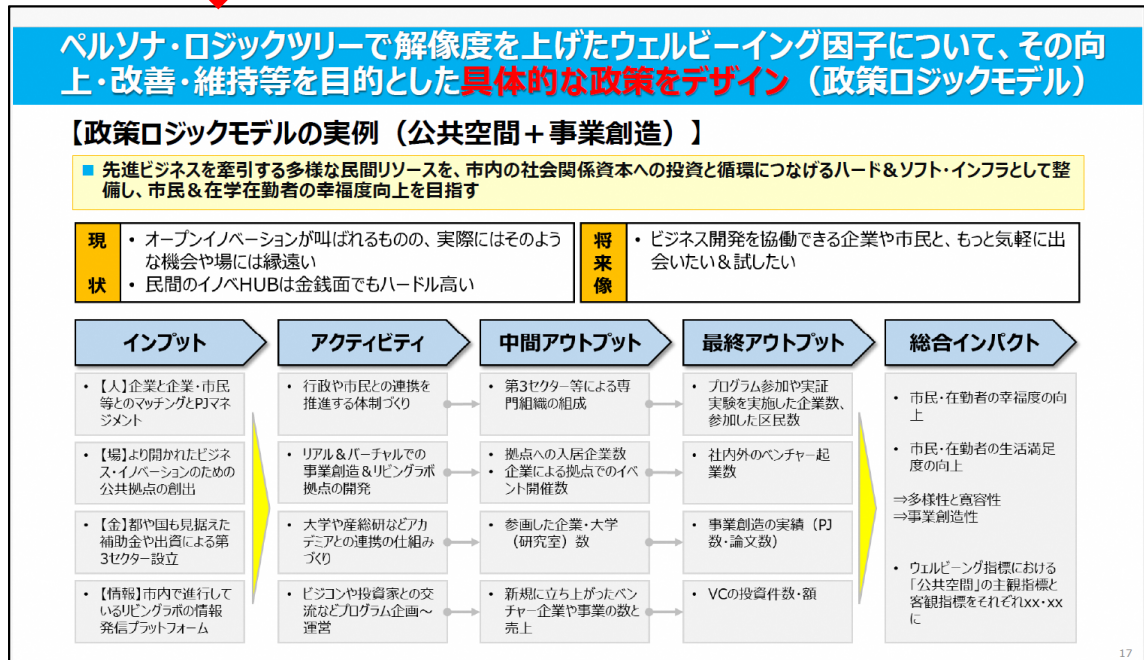
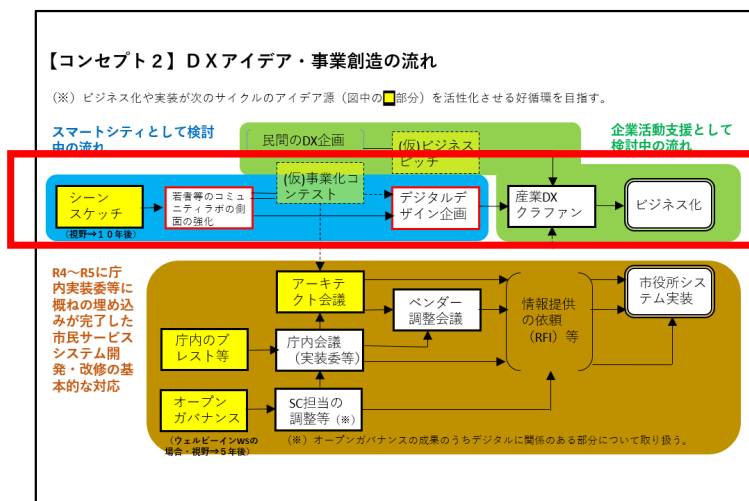
スマートシティとして検討中の流れ



R4～R5に庁内実装委等に概ねの埋め込みが完了した市民サービスシステム開発・改修の基本的な対応



デジタルデザインのルートマップ（ロジックモデル）素案づくりのイメージ（検討中）

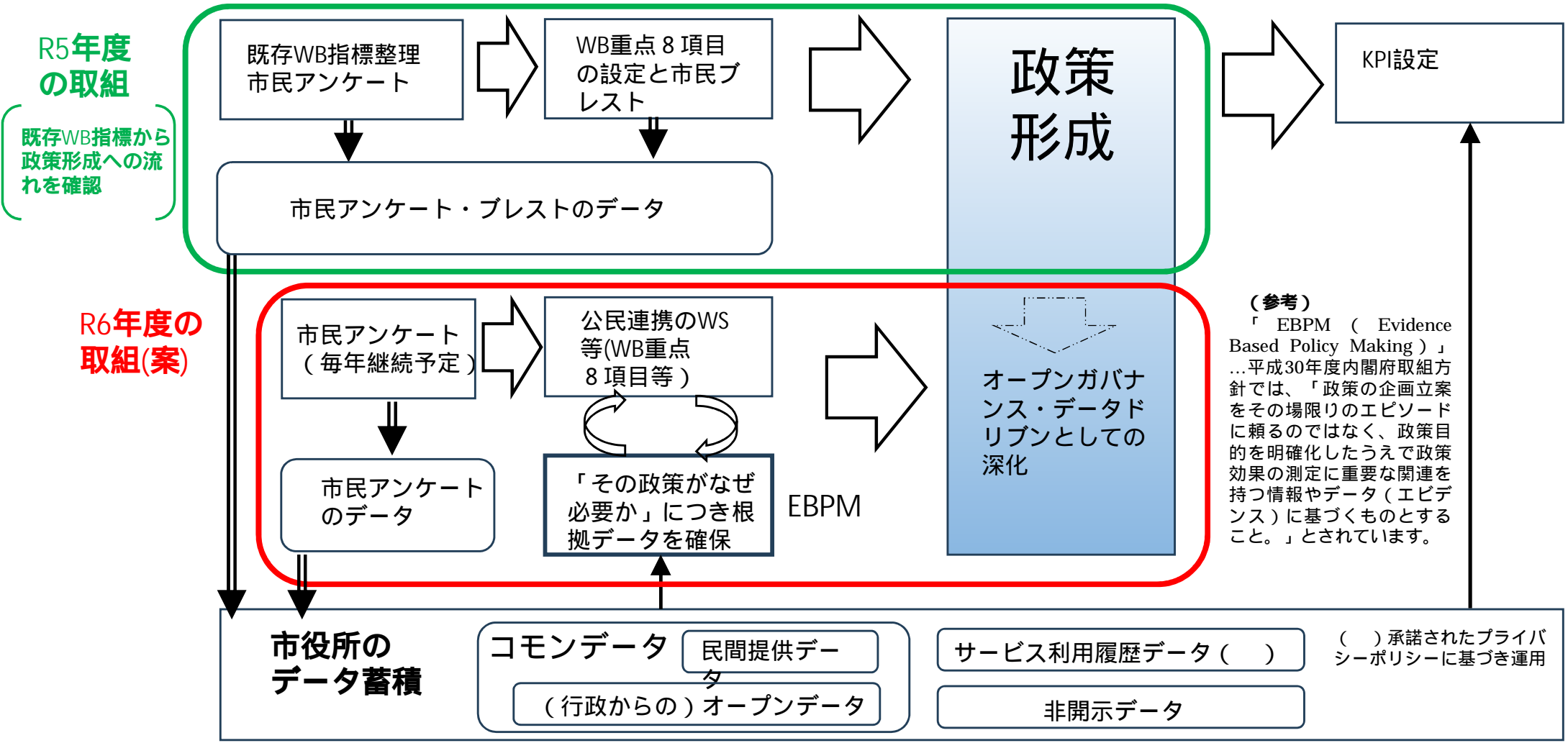


参考 5 3

（注）スマートシティインスティテュートがウェルビーイング指標の活用説明で用いた資料から抜粋したものであり、そのまま熊谷市への適用を目指すものではない。

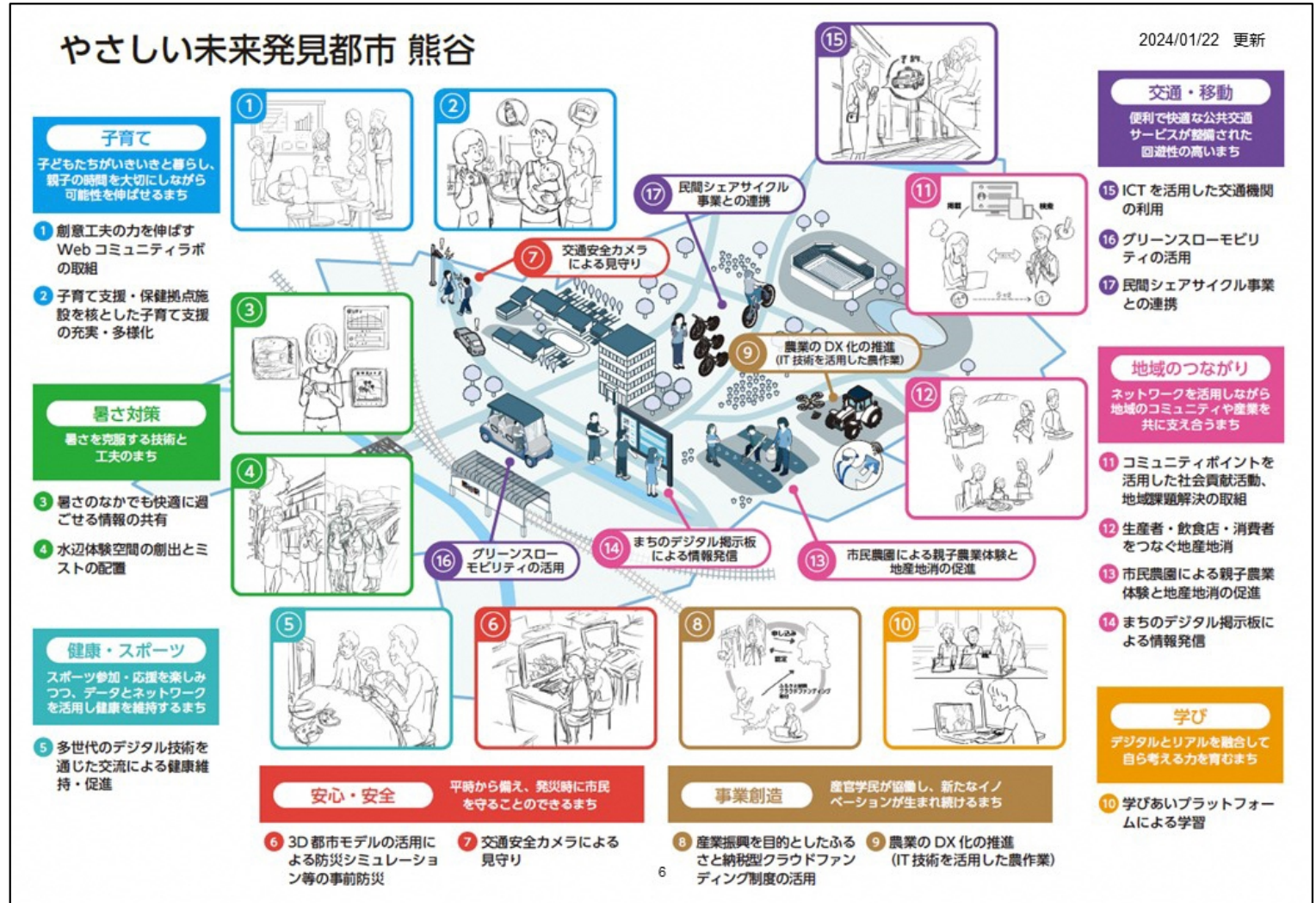
【コンセプト3】ウェルビーイング指標の政策検討への活用（EBPM）

熊谷市におけるウェルビーイング指標の活用とデータを活用した政策形成の関係（案） （デジタル社会における政策実装の取組みのモデル）



WB重点8項目とWBビジョンマップ(案)について

#	項目
1	モビリティ(交通・移動)
2	暑さに対応したまち
3	安心・安全
4	スポーツ・健康
5	地域とのつながり
6	事業創造
7	子育て
8	学び

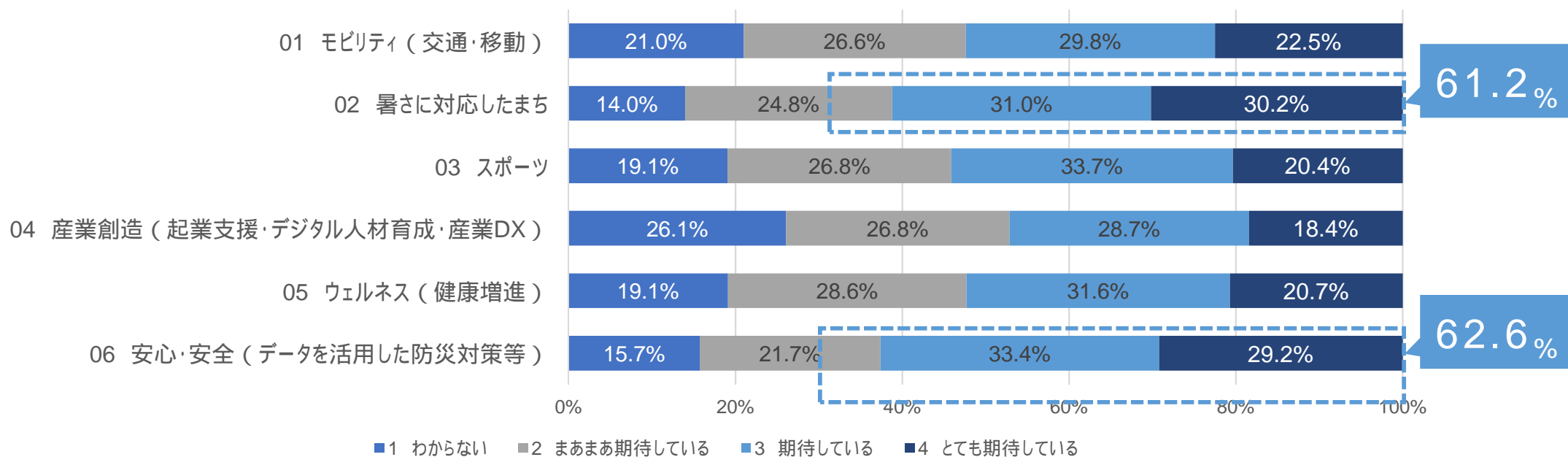


ウェルビーイングビジョンマップ案(準備中)

() R6年度に熊谷スマートシティ実行計画の更新への反映を検討予定

参考 54

スマートシティ分野アンケート6項目に対する期待値 (令和5年度ウェルビーイング業務におけるアンケートより)



「やさしい未来発見都市 熊谷」と熊谷市総合振興計画（R5年度～）

【市民向け】現在デジタルツールに関心が薄い市民を含め、市民のために共に取り組みたい、という市役所の方向性を伝えるためのフレーズ。

【庁内担当者・関係者向け】各々の手法の目的・実践内容等（下線部）を共有

リーディングプロジェクト

「DXによる市民生活の利便性向上と新たな経済活動の創出」

熊谷市Society5.0の推進

- スマートシティ推進による地域コミュニティの活性化
- スマートエコタウンの整備促進による先進的な省エネ対策の導入促進と、コミュニティへのスマート手法の定着

- 3D都市モデルの整備・活用によるまちづくりへの市民参画の確保
- 公共空間のWi-Fi整備により誰でもどこでもアクセスできるデジタル社会の環境整備

生活利便性の向上

- 行政施策（スマートシティの実現など）の“まちの魅力”としてのシティプロモーションによる、デジタル活用施策の利用促進、生活の利便性（満足度）向上の早期実現
- 地域経済を守るデジタル地域通貨の導入・普及
～電子マネー機能と並行して換金・購入補助を目的としないコミュニティポイント機能を実装し、相互扶助の活性化によるコミュニティの持続性確保を図る。

- くまがやまち歩きアプリくまぶらの導入による、市民の利便性向上とデータ活用型サービスの進歩による好循環の促進
- マイナンバーカードの利活用拡大（個人の事情に合わせたサービス・セキュリティが必要なサービス等へのアクセス改善）

デジタル人材の育成

- 地域の子供・若者の可能性の拡大、地域産業の活性化（起業・再チャレンジ促進等を含む）や行政の効率化等に向けたデジタル人材の育成

- 教育現場のデジタル化の推進による学びの充実

デジタルガバメントの推進

- 自治体DXの推進による人にやさしい熊谷の実現
～（仮称）窓口業務改革PTをR5年度に創設予定。（「持たない」「分かりやすい」「行かなくていい」）

- オープンデータの推進による市民連携のデータづくり・活用の促進
- データ連携基盤の整備と活用による、データ活用の産学連携、広域自治体連携等の促進

（参考）他のリーディングプロジェクトにおけるDX関連項目

○子育てアプリの活用
～親子の笑顔が輝くまちづくり

子育て世帯向け情報提供の改善等の検討に取組中

○ユニバーサルデザインのまちづくり
～誰もが活動しやすく、支え合う地域づくり

バリアフリー情報のデジタル化等に取組予定

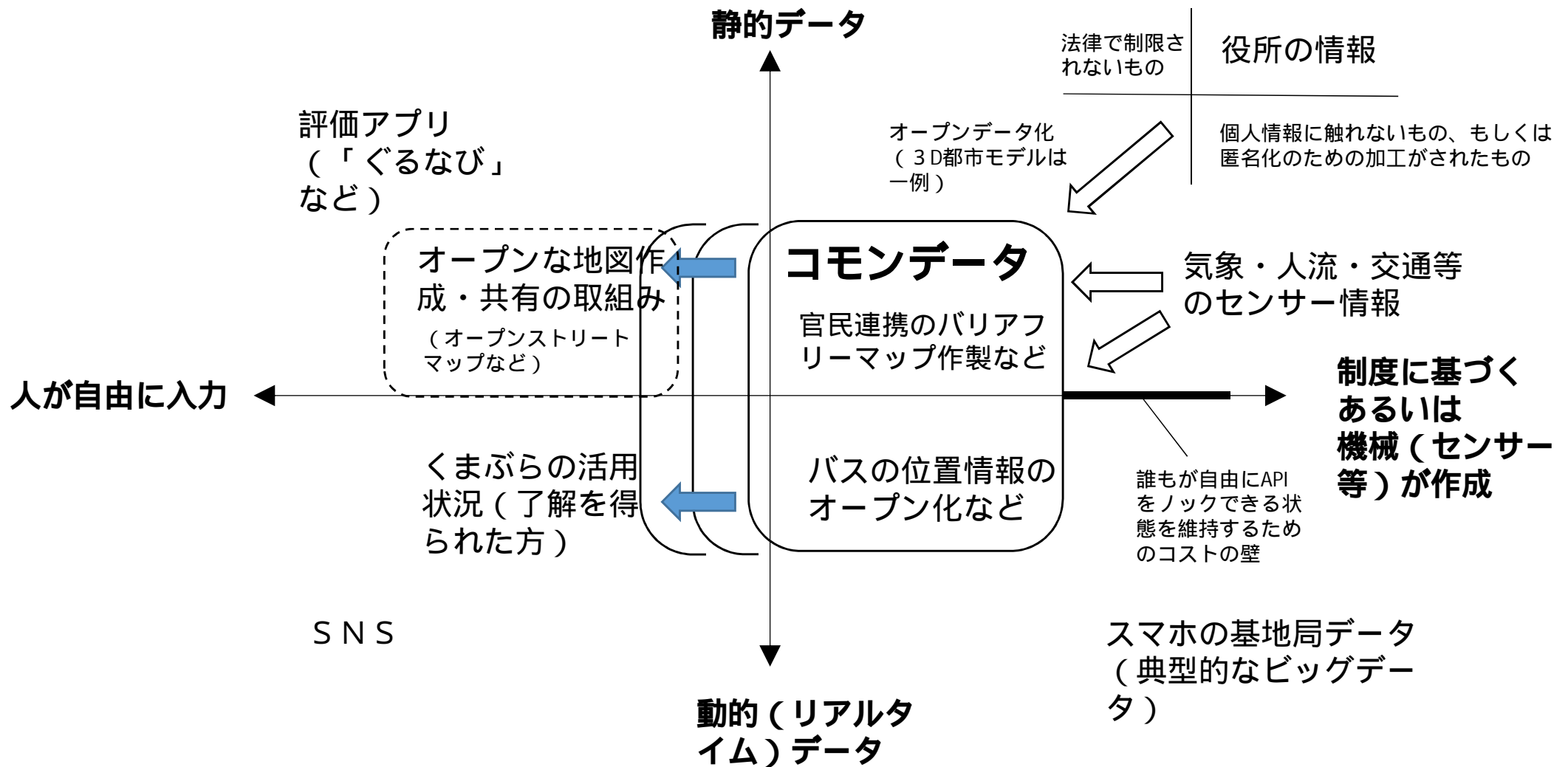
○移動支援及び公共交通の充実
～誰もが活動しやすく、支え合う地域づくり

Maas及び人流に着目したまちなか活性化等に取組予定

○熊谷版スマートハウスの推進
～ゼロカーボンシティを実現するまちづくり

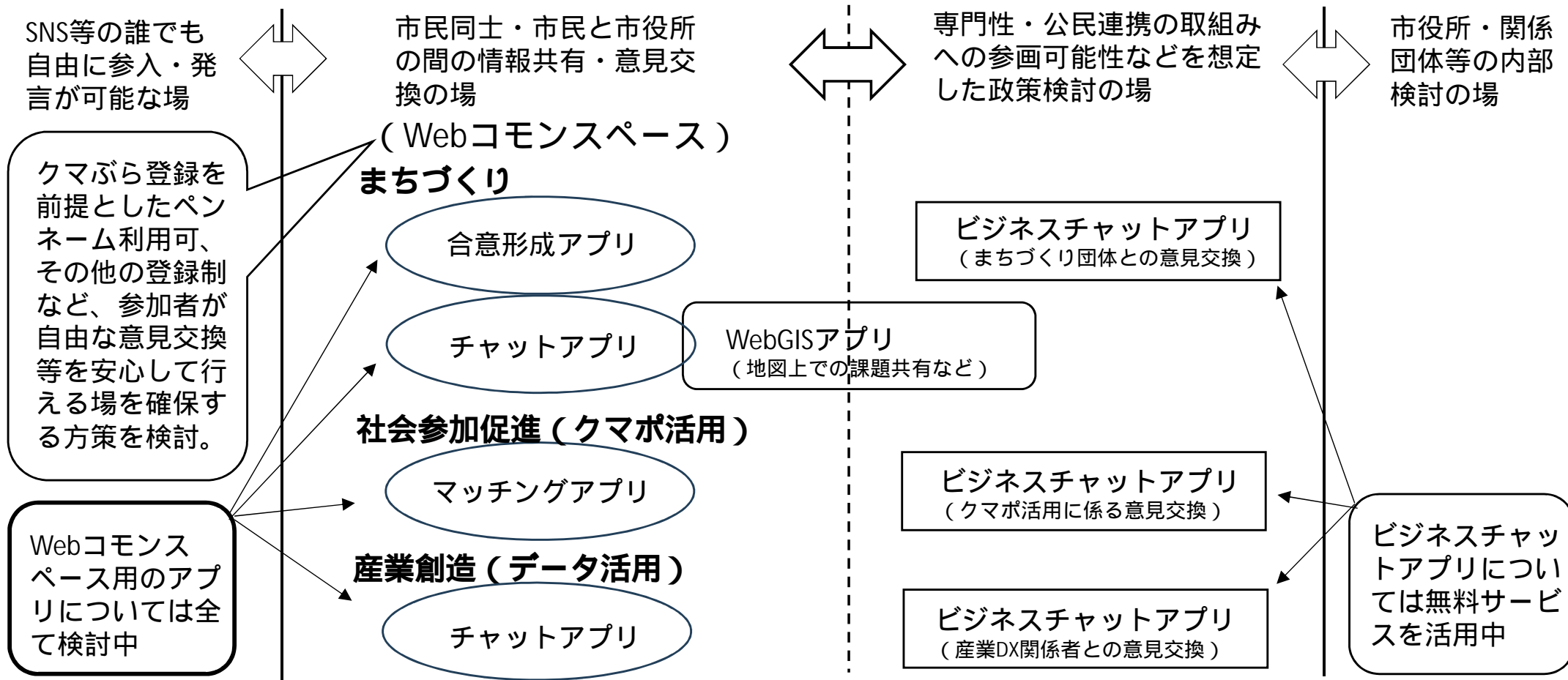
気候シミュレーション・公共交通活用等と連携

【コンセプト4】コモンデータ・Webコモンスペースの考え方による公民連携のデータ活用（誰でもデータ作成に関われる仕組みの考え方）

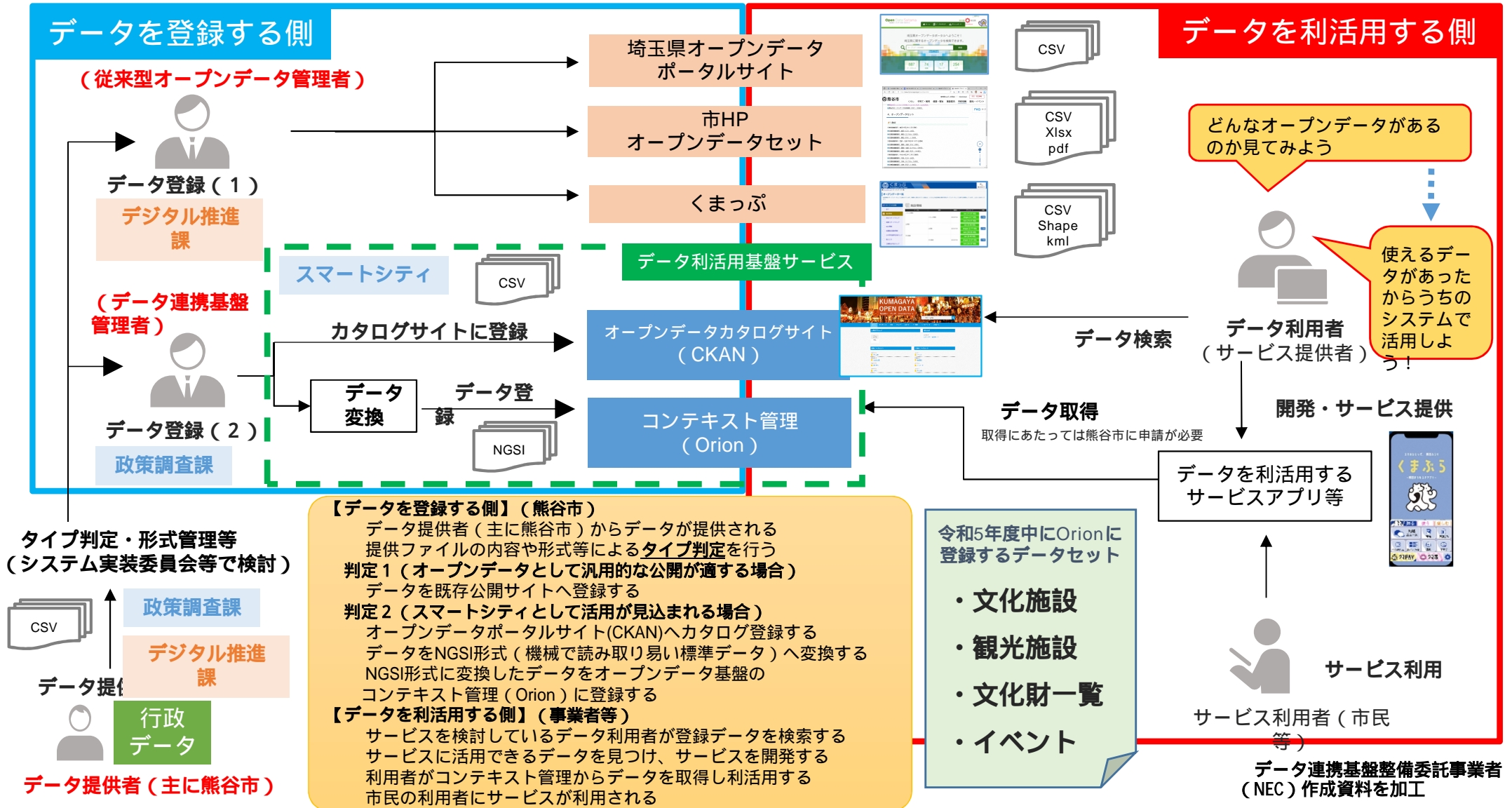


Webコミュニケーションツール等の活用（Webコモンスペース）による協働

まちづくり、社会参加促進（クマポ活用）、産業創造（データ活用）等の分野における、公民連携や民間主導の取組みを促進するためWeb上の情報共有・意見交換の場（Webコモンスペース）の設定を積極的に検討。



オープンデータ基盤を活用したデータ利活用の流れ



【データを登録する側】(熊谷市)
 データ提供者(主に熊谷市)からデータが提供される提供ファイルの内容や形式等による**タイプ判定**を行う
 判定1 (オープンデータとして汎用的な公開が適する場合)
 データを既存公開サイトへ登録する
 判定2 (スマートシティとして活用が見込まれる場合)
 オープンデータポータルサイト(CKAN)へカタログ登録する
 データをNGSI形式(機械で読み取り易い標準データ)へ変換する
 NGSI形式に変換したデータをオープンデータ基盤のコンテキスト管理(Orion)に登録する

【データを利活用する側】(事業者等)
 サービスを検討しているデータ利用者が登録データを検索するサービスに活用できるデータを見つけ、サービスを開発する
 利用者がコンテキスト管理からデータを取得し利活用する
 市民の利用者にサービスが利用される

タイプ判定・形式管理等
(システム実装委員会等で検討)

政策調査課

デジタル推進課

行政データ

データ提供者(主に熊谷市)

【参考資料】

熊谷スマートシティの宣言・方針・実行計画等の構成について

【1】熊谷スマートシティ宣言（理念・目的（パーパス））

【2】熊谷スマートシティトータルブランディング方針

（1）デザインルール

- ・ やさしい未来発見に向けた3つの好循環
- ・ ビジュアルの統一について ←
- ・ スマートシティ関係部局を中心にした熊谷市版ITスキルの整理と普及 ←
- ・ 「暑い」に類する表現の使い方について

SSID（スマートフォン サービス インターフェイス デザイン）ガイドライン

熊谷スマートシティスキルカタログ

（2）政策企画方針（コンセプト）

- ・ 熊谷スマートシティの政策企画において重視するポイント
- ・ 新たなアイデアを熊谷スマートシティ、市内産業DXに取り入れる流れ ←
- ・ ウェルビーイング指標の政策検討への活用（EBPM）
- ・ コモンデータ・Webコモンスペースの考え方による公民連携のデータ活用 ←

（仮）デジタル・デザインルートマップ

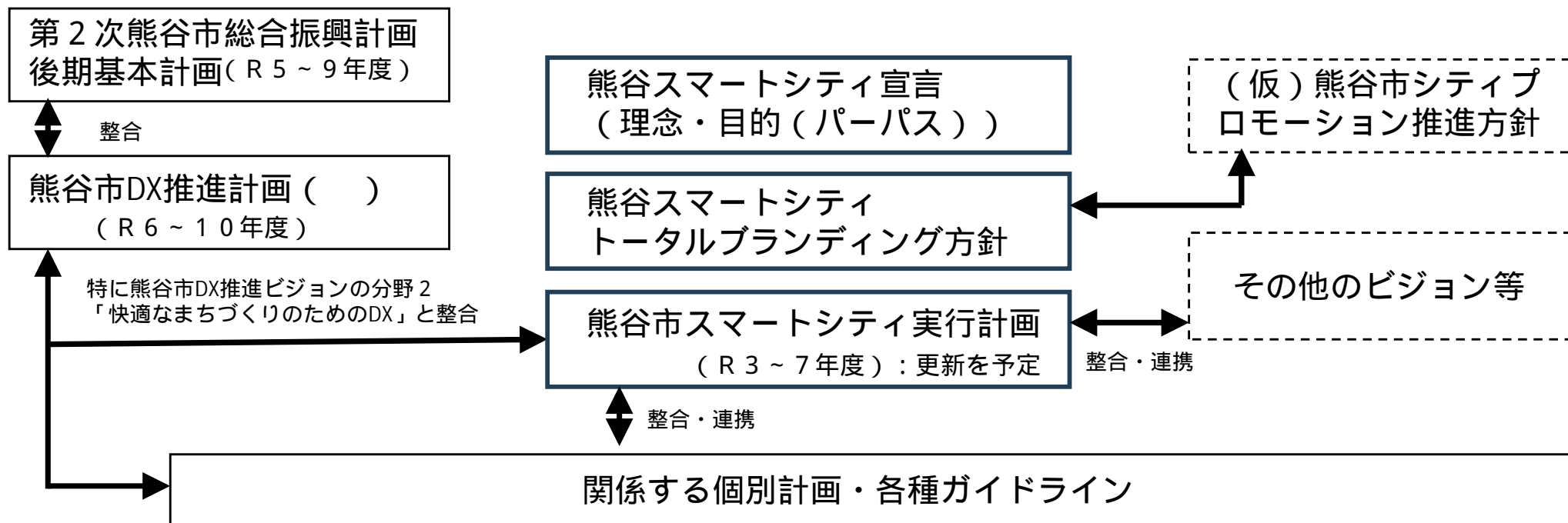
（熊谷スマートシティ版）市民参加型のWebGISの活用に向けた取組みの手引き

【3】熊谷スマートシティ実行計画（具体的実行の段取り）

ウェルビーイングビジョン（R5年度）

市の各種計画（総合振興計画・DX推進計画等）との関連について（案）

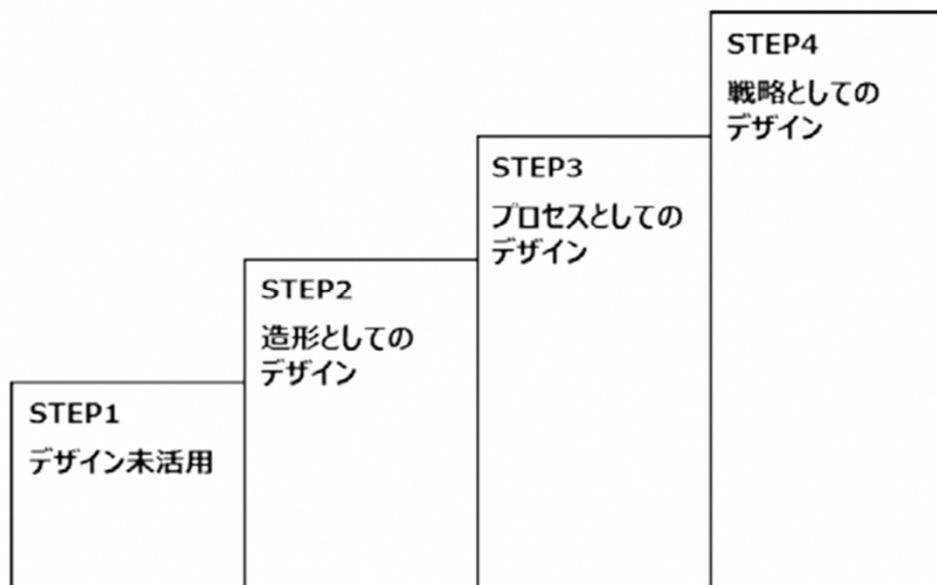
「熊谷市DX推進計画」及び「熊谷市シティプロモーション推進方針」の策定後に「案」が取れる予定。



() 熊谷市DX推進計画は、官民のデータ活用推進基本方第9条第3項に規定する「市町村官民データ活用推進計画」としても位置付けられる。

デザイン・ラダーモデルとの関係について

<「デザイン・ラダー」モデル>



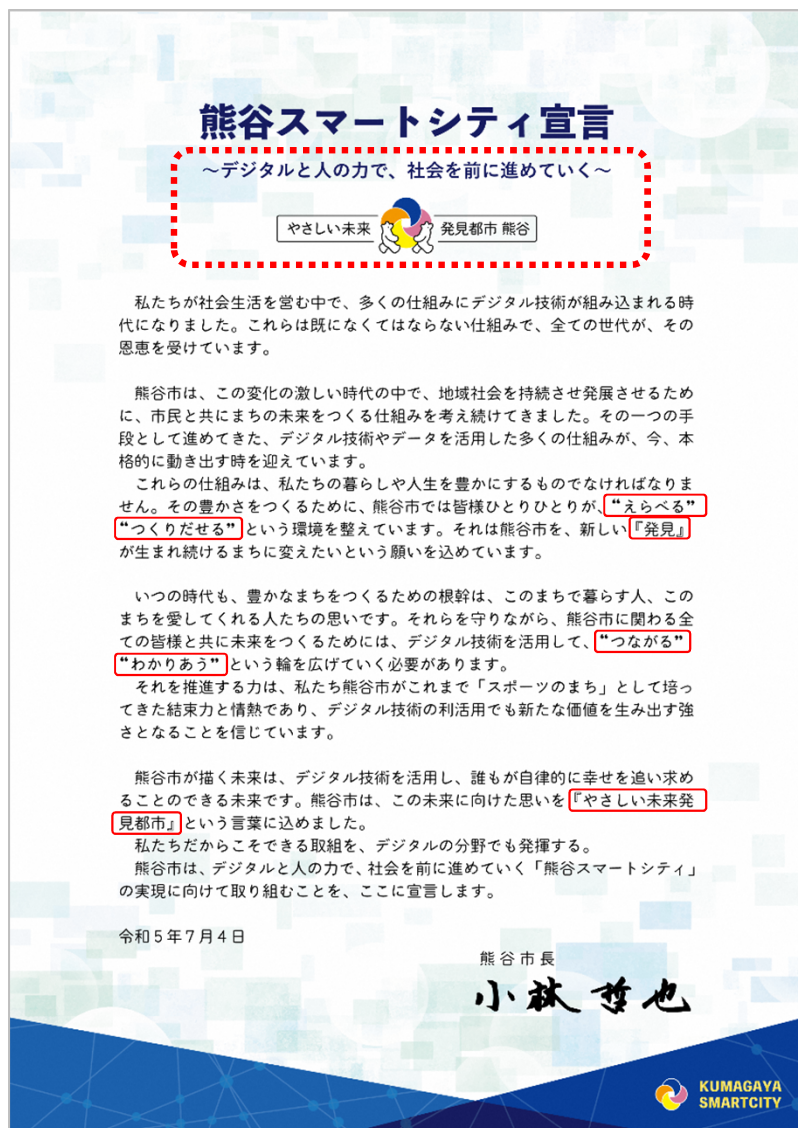
(出典 : Danish Design Centre 'The Design Ladder' を基に作成)

○トータルブランディング方針の構成においては、「デザイン・ラダーモデル」を参考とした。

○具体的には、市役所の業務への導入を念頭に、「造形としてのデザイン」「プロセスとしてのデザイン」を「デザインルール」に、「戦略としてのデザイン」を「政策企画方針（コンセプト）」に置き換えての検討を行った。

(出典)「デザイン政策ハンドブック2020」(経産省) 「デザイン政策の概要」より抜粋
デザイン活用の段階 組織におけるデザイン活用の段階を表したモデルとして「デザイン・ラダー」(デザインの段階)12があります。2001年にデンマーク・デザイン・センターが提示したこのモデルでは、4つの段階、すなわち、「デザイン未活用(Non-design)」、「造形としてのデザイン(Design as form-giving)」、「プロセスとしてのデザイン(Design as process)」、「戦略としてのデザイン(Design as strategy)」が示されています。ここで、第1段階の「デザイン未活用」は、組織としてデザインを活用していない段階、第2段階の「造形としてのデザイン」は、デザインを製品・サービスの外観の仕上げ、スタイリングとして活用している段階を表しています。また、第3段階の「プロセスとしてのデザイン」は、製品・サービス開発の初期段階からデザインのプロセスが取り入れられ、デザイナーのみならずエンジニアやマーケッターなど他領域の専門家との協働が行われている段階、そして、第4段階の「戦略としてのデザイン」は、経営者や経営層の協力の下、企業のビジョンやビジネスモデルを変革するためにデザインの考え方を活用している段階を表しています

■ 成長サイクルとスマートシティ宣言の関連（補足1）



熊谷スマートシティ宣言
～デジタルと人の力で、社会を前に進めていく～

やさしい未来 発見都市 熊谷

私たちが社会生活を営む中で、多くの仕事にデジタル技術が組み込まれる時代になりました。これらは既になくはならない仕組みで、全ての世代が、その恩恵を受けています。

熊谷市は、この変化の激しい時代の中で、地域社会を持続させ発展させるために、市民と共にまちの未来をつくる仕組みを考え続けてきました。その一つの手段として進めてきた、デジタル技術やデータを活用した多くの仕組みが、今、本格的に動き出す時を迎えています。

これらの仕組みは、私たちの暮らしや人生を豊かにするものでなければなりません。その豊かさをつくるために、熊谷市では皆様ひとりひとりが、「えらべる」「つくりだせる」という環境を整えています。それは熊谷市を、新しい「発見」が生まれ続けるまちに変えたいという願いを込めています。

いつの時代も、豊かなまちをつくるための根幹は、このまちで暮らす人、このまちを愛してくれる人たちの思いです。それらを守りながら、熊谷市に関わる全ての皆様と共に未来をつくるためには、デジタル技術を活用して、「つながる」「わかりあう」という輪を広げていく必要があります。

それを推進する力は、私たち熊谷市がこれまで「スポーツのまち」として培ってきた結束力と情熱であり、デジタル技術の利活用でも新たな価値を生み出す強さとなることを信じています。

熊谷市が描く未来は、デジタル技術を活用し、誰もが自律的に幸せを追い求めることのできる未来です。熊谷市は、この未来に向けた思いを「やさしい未来発見都市」という言葉に込めました。

私たちだからこその取組を、デジタルの分野でも発揮する。
熊谷市は、デジタルと人の力で、社会を前に進めていく「熊谷スマートシティ」の実現に向けて取り組むことを、ここに宣言します。

令和5年7月4日

熊谷市長
小萩 哲也

KUMAGAYA SMARTCITY

熊谷スマートシティでは、以下の2つをキーワードとして設定。

『やさしい未来発見都市』

『デジタルと人の力で、社会を前に進めていく』

『熊谷スマートシティ宣言』では「データ活用」だけでなく、「人の力」の重要性も伝えるというコンセプトから以下のワードを使用。

『えらべる』 『つくりだせる』 『つながる』

『わかりあう』

『発見』という概念で全体にまとわせ、スマートシティ政策の統一感を出す。

■ 成長サイクルとスマートシティ宣言の関連（補足2）



宣言と同様、熊谷スマートシティのキーワードである以下を使用。

『やさしい未来発見都市』

『デジタルと人の力で、社会を前に進めていく』

『熊谷スマートシティシンポジウム』は、「**実装する事業**」の発表がメインであることから、**今後の事業展開によって期待される**、以下のワードを使用。

『わかる』 『つながる』 『選べる』 『見つける』

熊谷スマートシティ宣言と同様、**『発見』**という概念で全体にまとわせ、スマートシティ政策の統一感を出す。

■ 熊谷スマートシティと「クマぶら」のワードの関連性

共通キーワード：「やさしい未来発見都市」、「デジタルと人の力で社会を前に進めていく」

	宣言	シンポジウム	クマぶら	クマぶらのリッチメニュータブ
共通概念	「発見」			
コンセプト	「人の力」と「データ活用まちづくり」を伝える	「データ活用まちづくり」と実装を伝える	「クマガヤ知るなら」...新たな使い方、自分なりの楽しみ、自律的な幸せの発見 入口としての役割を果たすため、「使いたい」メニューを探しやすくすることを第一とする。そのうえでシンポジウムのキーワード「知る」「使う」「楽しむ」に分類。 特に「楽しむ」は全体にかかりながらも「豊かさ」を実現するために「精神的な欲求」を満たすアプローチ要素を持つメニューを入れる。	
「わかる」 知識を得ることで気づきを得ること	文脈の「発見」に含む	○	様々な情報を得られることで「わかる」(クマぶら)	
「わかり合える」 人とつながることで他者を理解すること	○	市長の「宣言」により「人」への重要性は伝わる	つながることで相手と「わかりあえる」(クマポ)	
「つながる」	○	○	「つながる」ことができる(クマポ)	
「えらべる」	○	○	豊富なメニュー(クマぶら)、様々なつながり(クマポ)、地域電子通貨の使用パターン(クマPAY、バス)	
「見つける」 データそのものやデータ活用の未来を見つける	文脈の「発見」に含む	○	自分の「好き」を「みつける」ことができる(クマぶら)	
「つくりだせる」 見つけることで作りだすことができる	○	各課が発表する事業を「つくりだされたもの」と整理	クマぶら利用者がクマぶらで「つくりだす」はないが、集めたデータで新しい事業やサービスを「つくりだせる」	

熊谷市における自治体DX・スマートシティの取組みと熊谷市版ITリテラシーの関係

熊谷市DX推進本部でのリテラシー向上が主に目指す範囲

『庁内でシステムを活用し業務を改善できる職員の確保』

() 基幹系システムは関わる部署が限定され、追加でスキルが必要とされる部署には専門職を配置。

① DXに関する理解等

デジタルを活用した業務改善の必要性

② IT手法に関する理解等

基幹系システム・複雑な事務系システムの取扱い

政策システム（市民サービス、市民参画ツールなど）の企画・実装・運用（将来的には民間システムとの連携も見込まれる。）

③ EBPMに関する理解等

庁内のデータで職員が検討可能なEBPM

市民サービス利用履歴などのデータ活用（利用者本人の同意により提供されたものに限る）

うちスマートシティ戦略部会でのリテラシー向上が主に目指す範囲

『デジタルと人の力で社会を前に進めることに市民と共に取り組める職員の確保』

() 政策システムは関わるか課や担当が拡大中。着任後に円滑に追加スキルを確保することが必要な場合あり。

【参考】熊谷市における「スマートシティ（SC）」の指す内容

市内全体のデジタル系の取組の総称としてのSC（広義）

基幹系システム
事務系システム

市役所のデジタル施策全般

政策システム面のSC（狭義）

実証支援等

データ活用

民間主体のデジタル系の取組

市の施策以外のどの範囲を広義のSCに含めるかは業界と市役所の戦略により変化

【注】「ITリテラシー」と「ITスキル」の区別（熊谷市役所における定義）

・ITリテラシーは一般的な業務の基礎となる知識等を指し、スマートシティに関係するシステムやデータ的设计・実装・運用等に関わる上での基本的な考え方を整理したITスキルとは区別される。

熊谷スマートシティにおける「暑い」に関する表現の調整経緯等

○熊谷市の「暑さ」の歴史（スマートシティ関連事項の詳細）

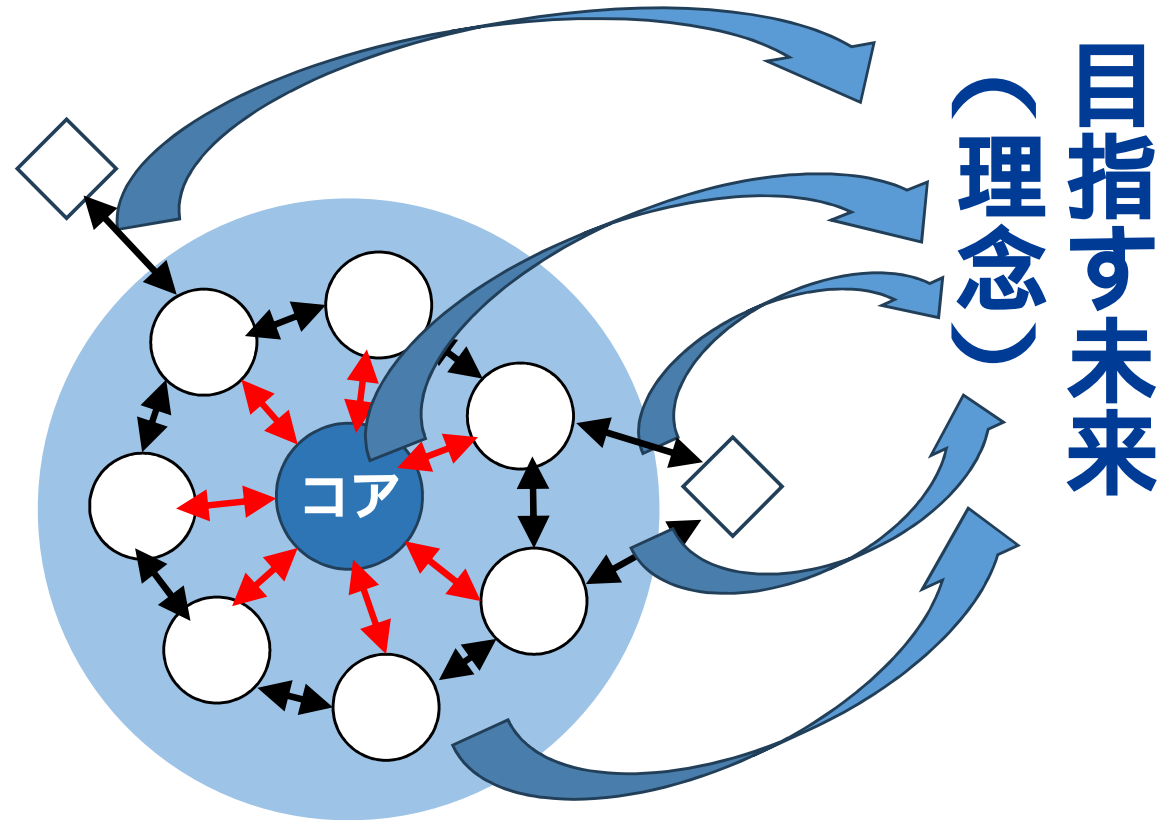
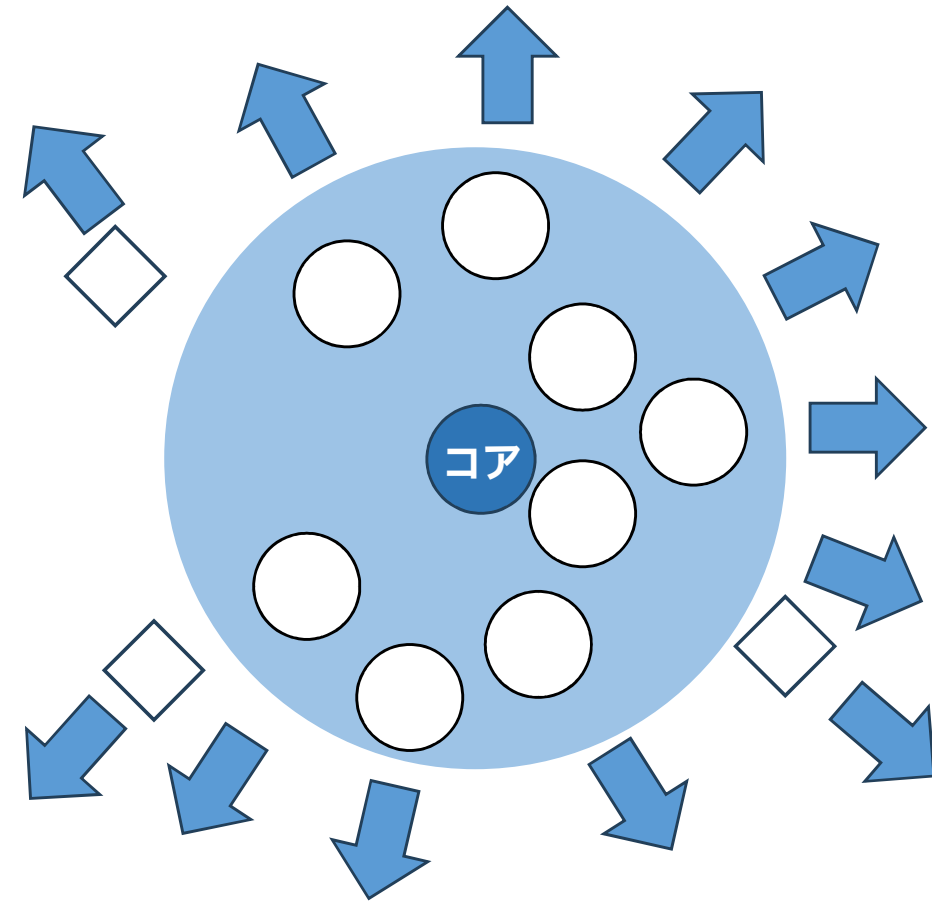
- ・平成17年から、前市長の下で熊谷市の暑さ、市民の気持ちの熱さ、人情の篤さなどの「あつさ」をキーワードにした「あついぞ！熊谷事業」を実施。
- ・平成19年、当時の国内最高気温を観測したことを契機に「熱中症から市民の健康を守ること」を緊急課題に捉え、この課題解決を図るとともに、「快晴日数日本一」という特徴的な気象条件を生かした地域振興策を事業化したプロジェクトを開始し、暑さ対策に軸足を移した。
- ・平成30年度～令和4年度を計画期間とする第2次総合振興計画前期基本計画において「暑さ対策日本一の推進」をリーディングプロジェクト」に掲げた。
- ・令和4年度、暑さにかからめて行ってきた政策の全面的な見直しを実施。
→41事業中、19事業を継続（主に駅前広場冷却ミスト、太陽光発電補助、学校教育等）とし、22事業を廃止（主に啓発、グッズ配布、表彰等）と決定した。
廃止事業のうち、市内30小学校に設置している老朽化したWBGT計の撤去は、センサーやデータの有効性を再確認するため継続検討とされたが、結果的にR5.秋に撤去した。
- ・令和4年度、スマートシティ施策の一環としての「暑さ対策スマートパッケージ」により「暑さ対策スマートコミュニティの実現を目指すことについては、新しい切り口で暑さを扱うこととした。
- ・併せて、必要な場合には「日本一アツイスマートシティ」の表現を用いることとした。

ブランディングの核（コア）となるストーリー・コンセプトの重要性について

【1】核（コア）が小さくインナーブランディングや連携の重視が表明されていないならば、単純な群発のインパクトに留まる。



【2】核（コア）を置き 庁内でのブランド磨き（インナーブランディング）や 部署間・公民連携を評価する方針により効果的・持続的なブランディングを目指す。



【凡例】

- ◇ 民間による実践
- 行政による実践
- ➡ 外部への発信



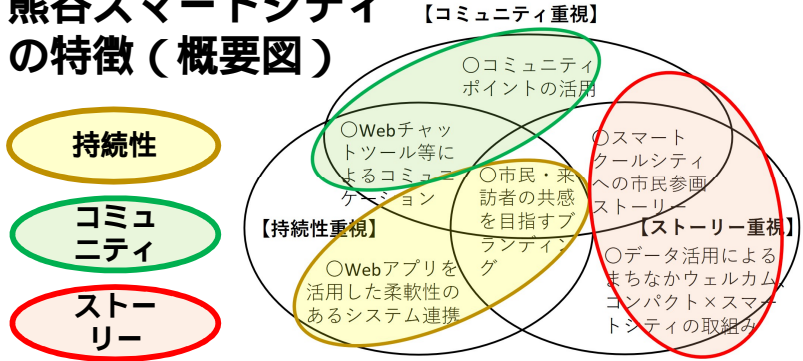
核（コア）になるストーリー・コンセプトと実施内容の照応による、ストーリーの定着、実施内容の向上（インナーブランディング）



核（コア）になるストーリー・コンセプトで結びついた部署同士
公民の間での連携や補完

熊谷スマートシティにおいて重視する点と実行計画の関係整理

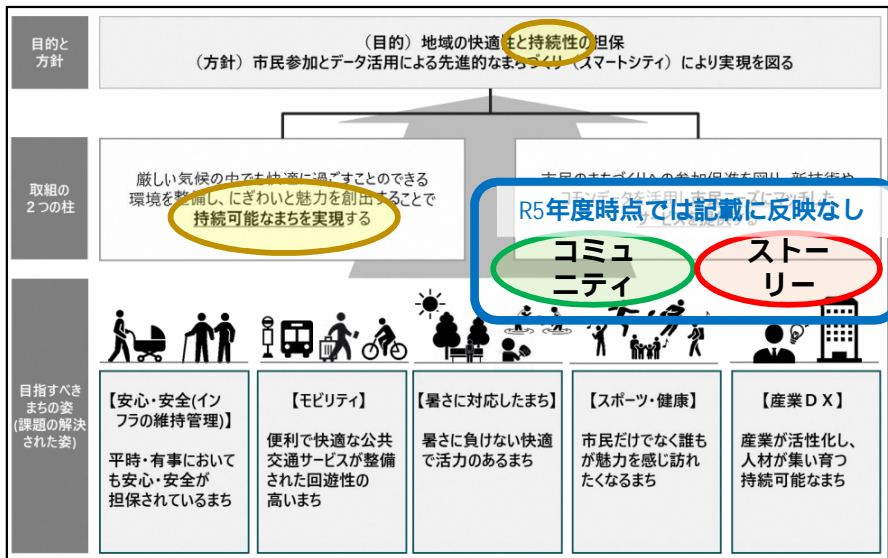
熊谷スマートシティの特徴（概要図）



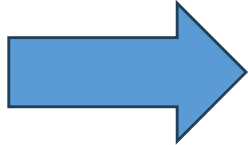
令和5年12月更新版の熊谷スマートシティ実行計画との関係は以下【1】【2】のとおり。

（補足）
 ・熊谷スマートシティにおいては、令和3年度に実証実験用に策定した実行計画を令和5年度・令和6年度の二段階で、実装用の計画に更新中。
 ・令和5年度12月の更新時点では、左図の「Webチャットツール等～」「～ブランディング」「スマートクールシティ～」等の内容が未整理であったため、令和6年度の改訂への反映に向けて検討中。

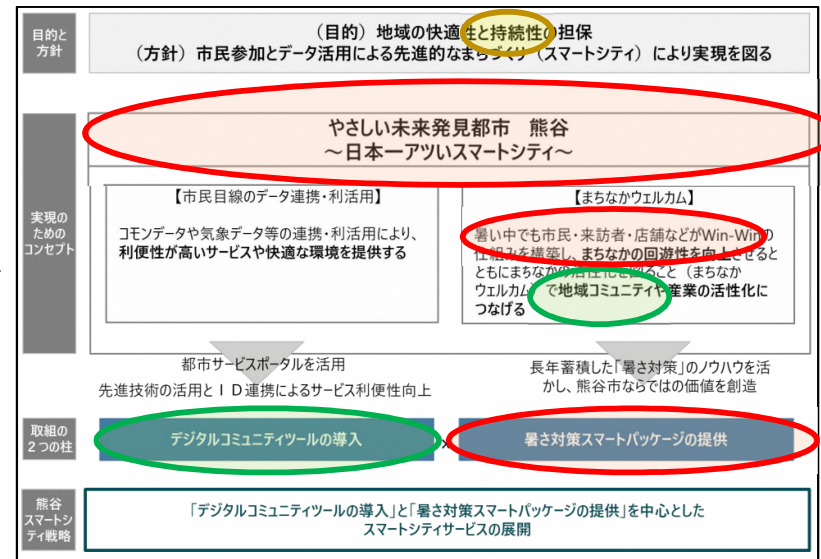
【1】熊谷SCの目指す5つの姿について重視する観点（観点としては「持続性」を重視）



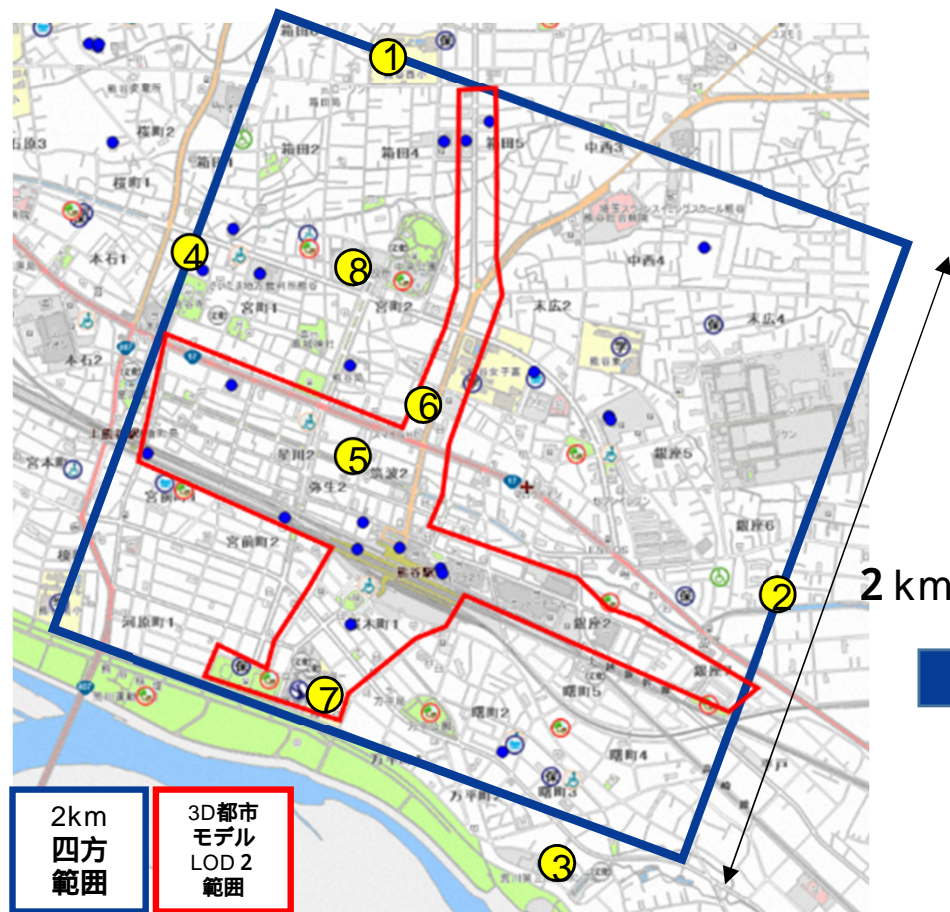
実装時には「姿」だけでなく、具体的な働きかけ対象（熊谷SCの場合「コミュニティ」や「ストーリー」）が必須



【2】熊谷SC実装時に核となるコンセプトとシステム（「持続性」を前提として具体的なシステムの設計・実装に落とし込む際には「コミュニティ」と「ストーリー」を重視）



気象シミュレーション及び3D都市モデルLOD 2化の範囲

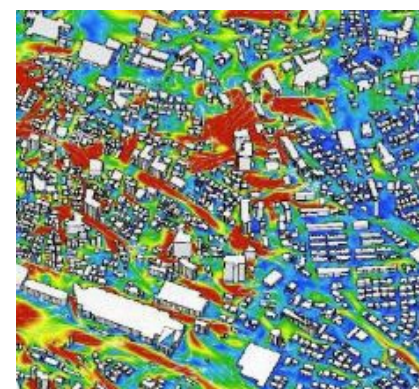


気象センサーの設置（左図 ~ ）と活用

- ・主旨に賛同を得た民間ビルの協力も得つつ、8か所に設置。
- ・気象データはサーバーの負荷も考慮しつつ研究等に提供を予定。

3D都市モデルの詳細化

➡ 気象シミュレーションの精緻化



気象シミュレーション
(イメージ)

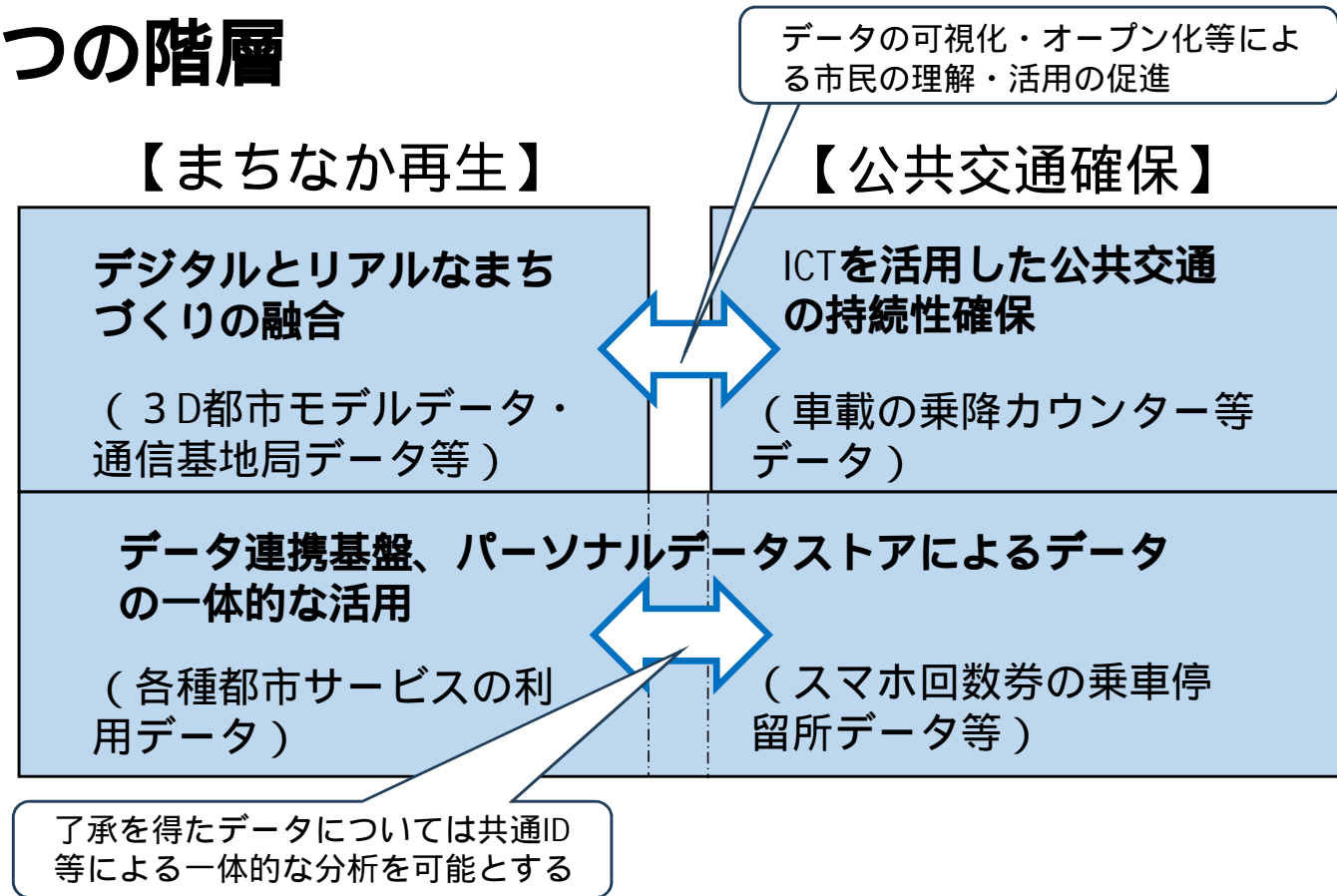
2 km四方

データを活用したまちなか再生と公共交通確保（１）

データ活用の２つの階層

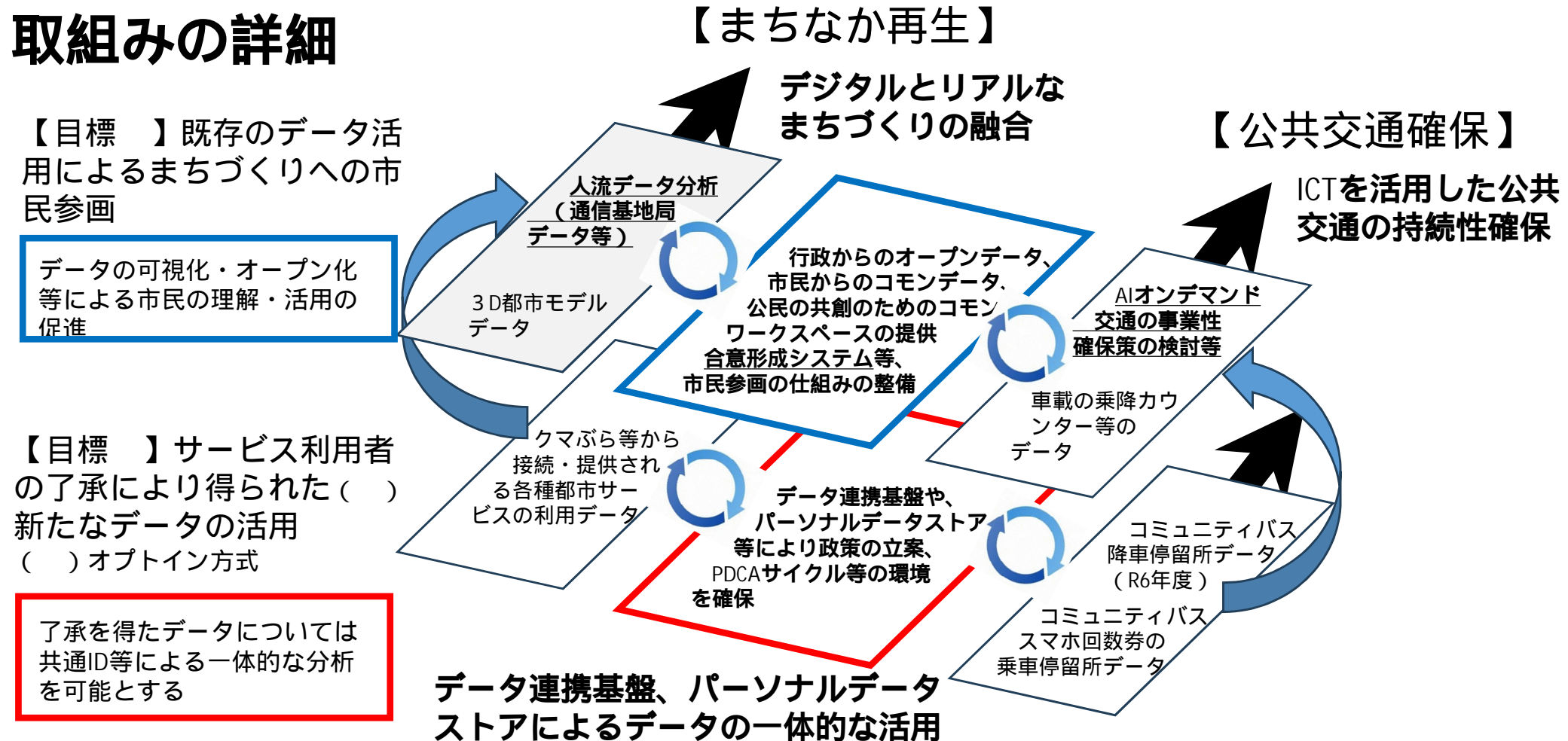
【目標】既存のデータ活用によるまちづくりへの市民参画

【目標】サービス利用者の了承により得られた（ ）新たなデータの活用
（ ）オプトイン方式



データ活用によるまちなか再生と公共交通確保（2）

取組みの詳細



「暑さ対策パッケージ進化プラス事業化プロジェクト」(検討中)

() (仮) 熊谷デジタル・デザイン企画第一号案

○令和5～6年度に熊谷スマートシティが取り組む気象シミュレーションに応じた行動変容施策の提供は、市民の健康を守りつつ地域の活性化を図る面で先進的な挑戦であるが、快適な環境づくりを促す上では、さらに緑の効果をシミュレーションに取り込んでいくことが望ましい。
○さらに当該手法は、理論、センサー技術などの事業化要素は揃っているが、自治体のデータ活用協力への本気度、大学との連携の緊密さなどの要素が揃った場がなく、創業の可能性あり。

引き続いてのスマートシティとしての持続性確保の取組み

スマートシティのレベルアップとDX創業の連動を目指す

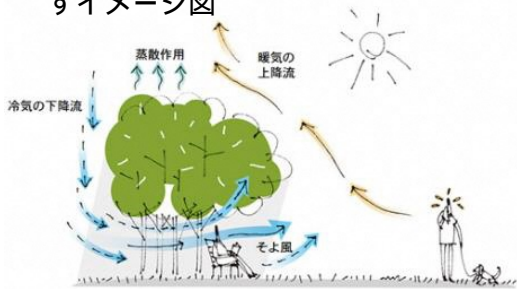
【目標】DX創業第一号
(令和7年度)

【要素1】測定データ分析技術
学術研究論文は充実・事業化は未開拓

【成果1】熊谷市の暑さ対策スマートパッケージの進化を実現(埼玉版スーパーシティ事業の要望を想定)
【成果2】地元大学等に他都市に横展開(事業化)可能な実践ノウハウを蓄積

緑地・街路樹等の作り出す快適性をシミュレーションに組み込む上では、「様々な時間」に「移動しながら」取得されたデータが有効。

(参考) 樹木が風の流れを作り出すイメージ図



【要素2】スマホ連動型気象センサー
技術は普及済(画像は2017年の商品) 気象予報サービス業界では事業性の薄くなった既存技術を都市環境改善提案用データ取得技術として転用



熊谷市がR6年度創設する産業DXふるクラ(注)による起業支援



(注) ふるクラ：ふるさと納税型クラウドファンディングの略

「都市環境」分野を「地域DX」メニューブックに打ち出し全国に発信

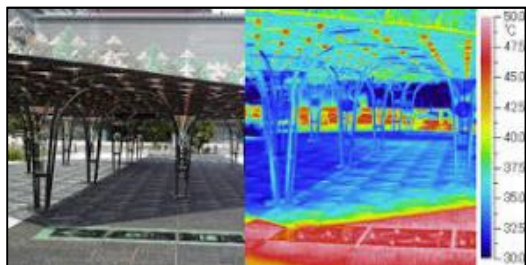
デジタル田園都市国家構想応援団 「地域DX」メニューブック

一般社団法人デジタル田園都市国家構想応援団

Ver.1+2+3 (11月24日時点)

目次	
① 行政サービス	… P.5
② 住民サービス	… P.9
③ 健康・医療	… P.9
④ 教育	… P.9
⑤ 防災	… P.9
⑥ 交通・物流	… P.9
⑦ 農林水産	… P.9
⑧ しごと・金融	… P.15～18, 32, 80～92
⑨ 観光文化	… P.6～7, 15～17, 38, 53, 58, 81～82, 93～110
⑩ その他	… P.6, 111～125
★ セミナーのご案内	… P.126

「暑さに対応したまち」施策検討案



【水辺空間、日よけ、ミスト等の配置（仮称：スマートクールシティ）】【暑さ対策スマートパッケージ】（まちづくりとデジタルの連動）

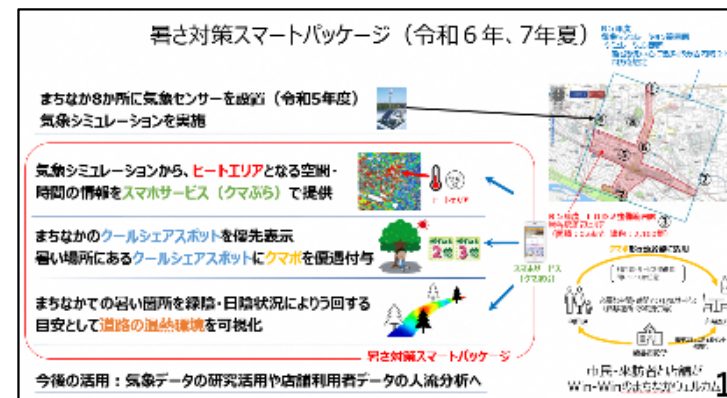
○暑さ対策スマートパッケージに取組みつつ、水辺体験空間、手入れの不要な通風型日よけ（フラクタル日よけ）、ミストなどをまちなか再生と連動して導入。

○熊谷市における具体的取組み

- ・ R4年度星川で水辺体験空間社会実験
- ・ R5年度に通風型日よけの設置シミュレーションに着手予定
- ・ R6年度に立正大学・アーキテクトと連携し、微気候の観測など熊谷の夏を涼しく過ごす「スマートクールシティ」企画に取組み
- ・ R7年度の星溪園へのミスト導入について検討中

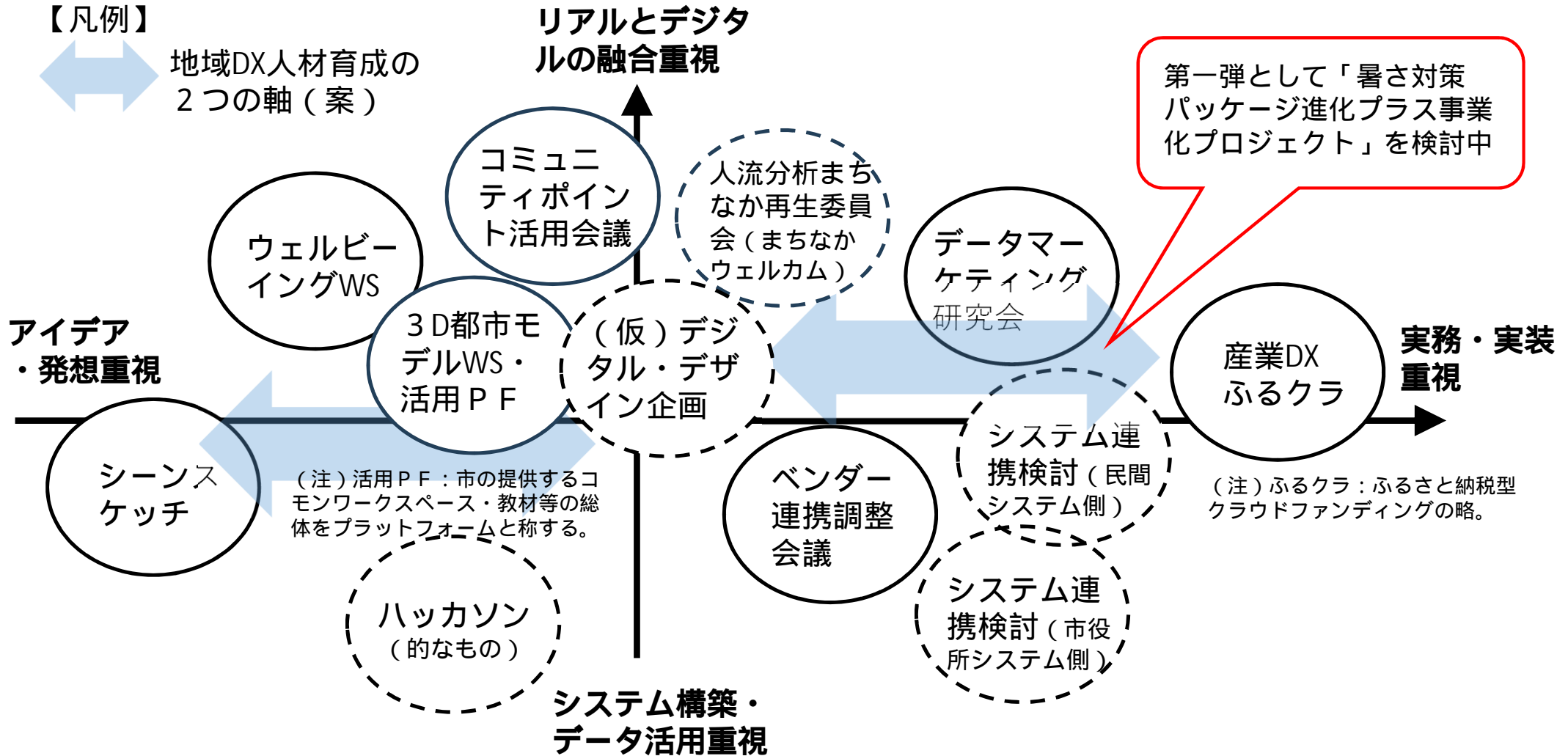
○実装内容（案）

・ WBビジョンとスマートシティ実行計画の双方の記載に基づき、リアルなまちづくりとデジタルの双方の取組みを連携させながら推進



○（参考）R5年度シーンスケッチコンテストSF部門最優秀賞

熊谷スマートシティにおける公民連携の取組概要



ロジックモデルの例

(注) スマートシティインスティテュートがウェルビーイング指標の活用説明で用いた資料から抜粋したものであり、そのまま熊谷市への適用を目指すものではない。

ペルソナ・ロジックツリーで解像度を上げたウェルビーイング因子について、その向上・改善・維持等を目的とした**具体的な政策をデザイン**（政策ロジックモデル）

【政策ロジックモデルの実例（公共空間＋事業創造）】

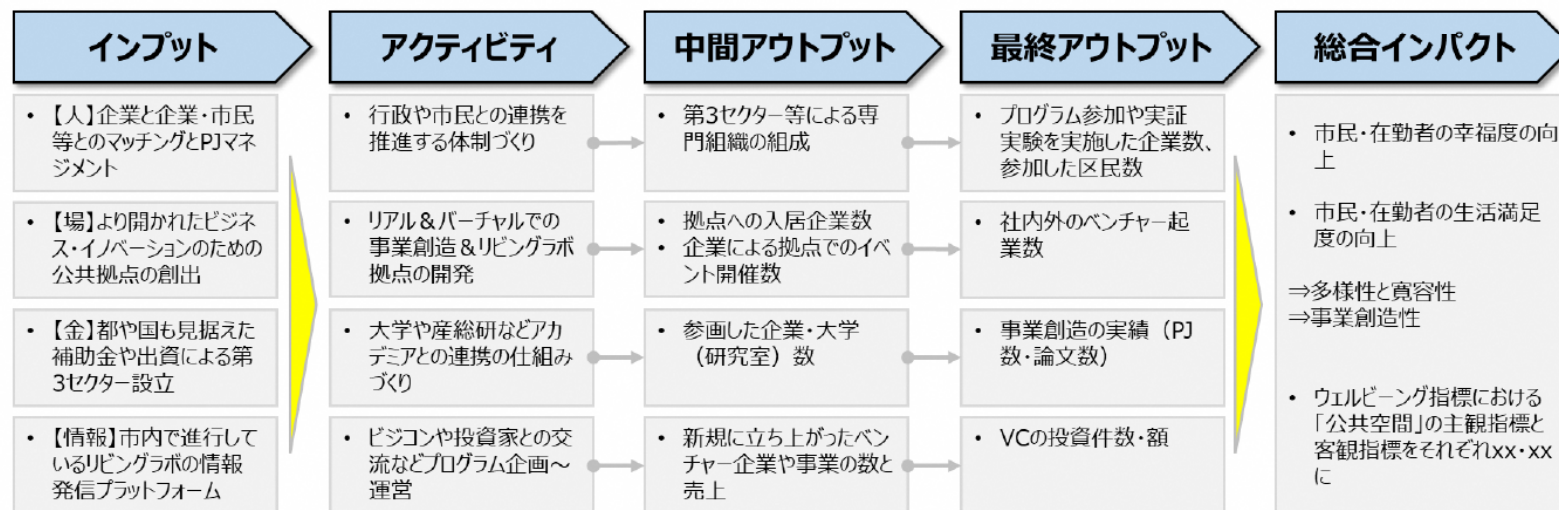
- 先進ビジネスを牽引する多様な民間リソースを、市内の社会関係資本への投資と循環につなげるハード&ソフト・インフラとして整備し、市民&在学在勤者の幸福度向上を目指す

現 状

- ・ オープンイノベーションが叫ばれるものの、実際にはそのような機会や場には縁遠い
- ・ 民間のイノベHUBは金銭面でもハードル高い

将来 像

- ・ ビジネス開発を協働できる企業や市民と、もっと気軽に出会いたい&試したい



SC分野アンケートとWB重点8項目（ビジョンマップ項目）の関係（検討経緯）

【1】スマートシティ分野に係るアンケート6項目（期待値・自由記述）

- ・モビリティ（交通・移動）
- ・暑さに対応したまち
- ・スポーツ
- ・産業創造
- ・ウェルネス（健康状態）
- ・安心・安全



【2】市民WSに向けて設定した心豊かな暮らしに係る8項目（シナリオ）の案

	LWC因子
1	移動・交通
2	地域行政
3	子育て
4	初等・中等教育
5	防災・防犯 地域とのつながり
6	健康
7	雇用・所得
8	事業創造



【3】市民WSのアイデアについて、担当課ヒアリングを実施。サービス・施策案を検討の上、ビジョンマップを下記8つに再分類した。

市民WS

個人アイデア:40

- ・デジタル：20
- ・非デジタル：20

グループアイデア:5

担当課ヒアリング

#	項目
1	モビリティ（交通・移動）
2	暑さに対応したまち
3	安心・安全
4	スポーツ・健康
5	地域とのつながり
6	事業創造
7	子育て
8	学び

担当課アンケートを基にシナリオ作成、担当課レビュー実施。
8つのシナリオは、LWCアンケート、スマートシティ施策を考慮して抽出。

（凡例）
青：自治体DX関連項目として設定

（凡例）
緑：スマートシティ分野のうち市民の期待値が高いもの
黄：熊谷スマートシティとしての留意事項（暑さ対応の受け皿の可能性も含む）

#2：暑さに対応したまち
市民WSでは、地域行政が討議対象にあたらなかった経緯も含め、暑さに対応したまちの施策を描くほうが好ましいと考えた

#3：安心安全
市民WSでは災害時のシミュレーションがアイデアにあり。スマートシティ分野の安心・安全と近いと考えた

#6：事業創造
市民WSでは、雇用・所得、事業創造は主に農業・ビジネスチャレンジが主だったため、スマートシティ分野の産業DX・産業創造施策と近いと想定

#8：学び 初等・中等教育に限定しない生涯学習等を含む内容として位置付け

合意形成アプリ（Decidim）活用検討資料（加古川市事例）

参加することではじめるまちづくり

<https://kakogawa.diycities.jp/?locale=ja>



Decidim（デシディム）は、市民などが意見やアイデアを寄せ、議論し、政策に結びつけていくためにスペイン・バルセロナで生まれたツールです。

加古川市はスマートシティを市民の皆さんと作るため、全国で初めて Decidim を導入しました。

ユーザ登録すれば誰でも参加できます。市民の皆さん、事業者の皆さん、行政でアイデアを出し合って、よりよいまちをつくりましょう。

① ユーザ登録



② 色んなテーマ（課題）に意見やアイデアを自由に投稿



③ 意見に基づき市が施策を検討

④ 施策に反映！



加古川市版Decidim は、みなさんの声を実際の政策に反映させるデジタル・プラットフォームです。

ここで誰もがきもちよく過ごせるよう、ルールを決めています。

- アイデアを出し合う場です。誰かのアイデアには「いいね」や「こうしたらもっとよくなるよ」と前向きな意見をしましょう！
- 安心して話してもらえるようにしています。登録には名前が必要ですが公開されません。ニックネームで投稿できます。
- 投稿の前に、「問題ないかな？」と、念のための確認をお勧めします。

※よりよいルールของアイデアも随時募集しています。どしどしご意見をお寄せください。

合意形成アプリ（Decidim）活用検討資料（加古川市事例）

JR加古川駅周辺のにぎわいづくり（ウォークラブルなまちづくり）

JR加古川駅周辺のにぎわいがあり、皆さんが訪れたい駅周辺にするための気づきやアイデアを出し合ひましょう

高層 1 / 3

アイデア収集②

2023/02/09 - 2023/06/30

プロセスのフェーズ

プロセス | **【投票実施中】アイデア集** | アイデアマップ | 事務局からのお知らせ | アイデア収集② | アイデア収集 | もっと見る...

「参加型プロセス」では、市側の提案に対して、意見やアイデアを記入することができます。

皆さんと「ともにつくる」まちづくりへの意見やアイデアをお寄せください。

加古川駅周辺のまちづくりにおいては、様々なイベント活用を想定した実証実験を開始し、市民、民間事業者の方々と駅周辺のさらなる魅力づくりを進めてきたところです。

そして、令和5年2月に、駅周辺の再整備に向けまちづくり（案）を公表し、今後、駅周辺の関係者を含め、様々な検討を深めていく予定です。

アイデア収集フェーズ・アイデア検討フェーズ（オンラインe・ワークショップe）でいただいたアイデアをさらに深掘りし、皆さんで加古川駅周辺の具体的な未来を創造する実験を行うため、以下の内容について意見を募集します。

- 訪れたい加古川駅周辺とは？e
- 駅周辺のウォークラブルなまちづくりとは？e

令和5年3月11日（土曜日）に「加古川駅周辺の未来を考えるワークショップ」eを開催しました。（当日の様子e）

滞在人口・滞在時間を増やすには？

【施設・店舗・設備】

- ・フィットネス施設・公園スペース
- ・大型イベント、マルシェ、オープンカフェ
- ・駅前に美術館、ウォールアート、ギャラリーが点在
- ・映画館やレジャー施設を駅前に集約
- ・屋根・Wi-Fi・充電器・サインage付きベンチ
- ・スポーツバー
- ・ラーメン横丁
- ・駅周辺にホテル

脱炭素につながる取り組みとは？

【施設・店舗・設備】

- ・大きな買い物かご付きの電動レンタサイクル
- ・ロードバイクやクロスバイクのレンタサイクル
- ・駅と大型商業施設にレンタサイクルのスポット
- ・コップ、ストローなどお店で使用する食器を紙製に
- ・店舗や施設を駅前に集約
- ・省エネ家電
- ・駅にレンタル傘
- ・缶、ボトルと生ごみの分別ゴミ箱設置
- ・太陽光パネル付きベンチ
- ・人力車で加古川まで（カトクウ）
- ・商業ビルの屋上に太陽光パネル
- ・ネックボード



【投票実施中】アイデア集 [すべての提案を見る \(90\)](#)

お母さんが一人で買い物できる場所

2021年度ワークショップ

お母さんが子どもを預けてゆっくりに買い物ができるか、子どもを抱えながらお母さん一人でも買い物できるように広い通路があつたりまわりが配慮してくれるようなまちになったらいいと思います。

[【滞在】 空間](#)

作成日時	▲ 23	フォロー	▼ 0	■ 0
2023/03/02				

提案を表示

フリー飲食スペースなどの過ごす場所がほしい

2021年度ワークショップ

スマートシティ構想に対する意見 他1名

[続きを参照](#)

加古川駅前の塾の飲食スペースはコロナの影響もあり、数が限られており、多くの生徒は利用することができない。寺家町商店街の一部を改装し、フリー飲食スペースなどの過ごす場所がほしい寺家町のシャッター通り...

[【滞在】 施設・店舗・設備](#)

作成日時	▲ 23	フォロー	▼ 0	■ 0
2023/03/02				

提案を表示

脱炭素製品を買うとウェルビーポイント

2021年度ワークショップ

加古川東高校・脱炭素まちづくりワークショップ

エコな製品を買うときに市からウェルビーポイントをあげてエコな買い物をもっと進める

[【脱炭素】 制度](#)

作成日時	▲ 22	フォロー	▼ 0	■ 0
2023/03/02				

提案を表示

商業ビルの屋上に太陽光パネル

2021年度ワークショップ

駅前の脱炭素と賑わいの関係で、徹底的にも環境的にも有益では

[【脱炭素】 施設・店舗・設備](#)

作成日時	▲ 22	フォロー	▼ 0	■ 1
2023/01/22				

提案を表示

[すべての提案を見る \(90\)](#)

合意形成アプリ（Decidim）活用検討資料（加古川市事例）

スマートシティ構想の実施状況

実施状況についてご意見をお寄せください。

●●●●
13/10 2/4
アイデア収集
2023/06/16 - 2023/09/30
 プロセスのフェーズ

プロセス
【ご意見募集中！】アイデア収集（令和5年度）
フィードバック（令和4年度）
【ご意見募集中！】チャレンジ
もっと見る...

事務局からのお知らせ
市民（アイデア収集）（令和4年度）

?

「参加型プロセス」では、市側の取組に対して、意見やアイデアを記入することができます。
皆さんと「ともにつくる」まちづくりへの意見やアイデアをお寄せください。

皆さんから意見・アイデアをいただき、2021年3月に策定した「加古川市スマートシティ構想」を、策定から約2年が経過した現在の実施状況をオープンに！
 未来の加古川市の取組について、皆さんからの意見・アイデアを募集！
加古川市スマートシティ構想とは？
 本市では、ICTの活用により、市民生活の質を高め、市民満足度の向上を図り、「誰もが豊かさを享受でき、幸せを実感できるまち加古川」を実現するため「加古川市スマートシティ構想」を令和3年（2021年）3月に策定しました。市のさまざまな課題について、市民の皆さんと解決する「市民中心の課題解決型スマートシティ」を目指します。

本構想の実施状況
 構想策定より約2年が経過し、構想に掲げる17の基本目標を実現するための取組を推進中！
 （各基本目標の実施状況は以下に記載のリンクからご確認ください。）

令和4年度

令和5年度

1：市民のQOLや利便性を向上するサービス

1-1：いつでもどこでもできるストレスフリーな行政手続きの実現

1-2：誰にでもやさしい窓口環境の実現

1-3：欲しい情報がすぐ手に入る効果的な情報発信

1-4：安心して子育てができるまちづくり

1-5：高齢者にやさしいまちづくり

1-6：スマートシティの推進（スマートシティ推進）



皆さんから意見・アイデアを募集する期間です。

【アイデア収集】

市民

まち

行政

7個のディベート数

議論の並び替え：更新が新しい順

以下のフォームは、検索条件が変更されたときに検索結果を自動的にフィルタリングします。

ステータス

すべて

公開

終了

カテゴリ

すべて

1：市民

2：まち

3：行政

起業者

すべて

事務局

一般参加者

グループ

参加

1-1.いつでもどこでもできるストレスフリーな行政手続きの実現

公式のディベート

■基本方針を実現するための取組（令和4年度に実施したもの）
 令和4年5月と9月に、セブン銀行ATMとマイナンバーカードを活用した給付金等の即時受取システムの実証実験を実施。
 令和4年7月から、コンビニエンスストアでのマイナンバーカードを使用したワクチン接種証明書の交付を実施。時間や場所を選ばず証明書を交付できるようにした。...

1：市民

作成日時：2023年6月16日00:00 → 2023年9月30日23:59

作成日時：2023/06/07

▲26 フォロー

■0

参加

1-7.行政情報の見える化

公式のディベート

■基本方針を実現するための取組（令和4年度に実施したもの）
 オープンデータカタログサイトで、累計1,865件のデータを公開。
 行政情報タッシュボードで累計34件のデータセットを可視化。
 Decidimで市民等の意見を可視化し、施策に反映。
 令和3年度以前の取組についてはこちら「過去に寄せられた意見アイデア」
 オープンデータの活用事例の情報共有...

1：市民

作成日時：2023年9月16日00:00 → 2023年9月30日23:59

作成日時：2023/06/12

▲26 フォロー

■0

参加

1-3.欲しい情報がすぐ手に入る効果的な情報発信

公式のディベート

■基本方針を実現するための取組（令和4年度に実施したもの）
 令和4年5月から、LINEアプリを活用し、主体的な健康づくりのきっかけとなる「LINEで健康応援！」を実施。
 令和4年6月から、費介減・費支援認定申請における介護保険認定審査会の進捗が確認できる「介護保険

1-6.GIGAスクールの推進

公式のディベート

■基本方針を実現するための取組（令和4年度に実施したもの）
 令和5年2月に小学校で、プログラミング教育出張授業を実施。
 ICTを活用した授業を行うための快適な通信環境として、小中学校の普通教室へ直接光回線及び無線APを導入。
 1.1.1台端末を運用した、段階によるコミュニケーション

（仮）「市民共創型3D GIS（三次元地理情報）プラットフォーム」における「コモンワークスペース」の設置

コモンワークスペースは会員となった市民に以下のメリットを提供し、「発信や提案」「二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現」が容易になっていることを実感いただくと共に、公民連携により「仮のアイデアや仮の計画の共有・修正のスピードの向上」などが図られることを目的として熊谷市役所がWeb上でリアースの共有ワークスペースを提供するものです。

○Web上に複数の地図が公表可能

- ・リアースについて、提供元のユーカリヤ社は個人アカウントでの無償体験を提供していますが、その場合、公表できる地図は1件のみとなります。
- ・コモンワークスペースを利用いただくことにより、複数の地図を比較しながらの議論等も容易になります。

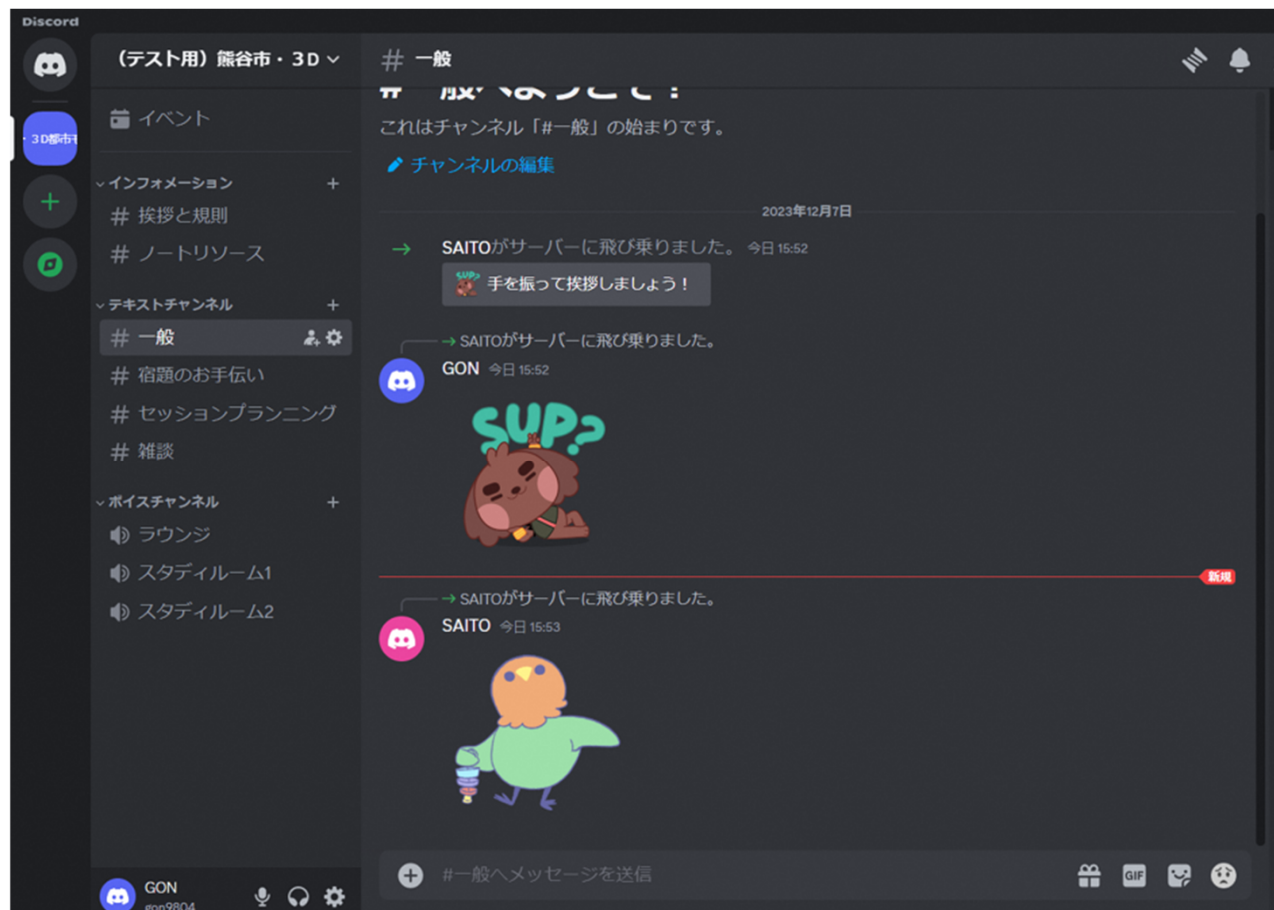
○他のコモンスペース参加者との連携が容易

- ・参加者は、他のメンバーのプロジェクトのデータを無断で加工しない等の会員規約に同意いただいています。逆に、合意があれば、共同で地図の加工に当たっていただけます。
- ・匿名でも活動することは可能ですが、氏名・メールアドレスを市役所に登録いただき、規約に従っていただけない場合は退会する措置を取りますので、安心して活動していただくことが可能です。
- ・参加者同士のコミュニティとしては、Discordにおいて、招待制のサーバーを設置することを検討中です。

チャットアプリ（Discord）の画面の例）

Slackとの大きな差異として、個人のメールアドレスが表示されず、メンバー相互の連絡は、掲示板に書き込むか、アプリを通じてダイレクトメッセージを送る方法に限られている点が挙げられる。

このような一種の匿名性によって、知り合いでない方とも安心感をもって活発な意見交換が可能であるとみられ、熊谷市がWebGISに関して提供するコモンワークスペースのコミュニティや、シーンスケッチの先のリビングラボ的なWeb空間として用意したい、Webコミュニティラボでの活用を検討中。



コミュニティポイントの活用に向けたマッチングアプリの活用（検討中）

市民相互の「わたくし」機能の活用促進に向け、「して欲しいこと」「できること」を共有できる民間Webシステムとの連携試行を検討中。

Lincrew サービス概要

色んな人の「できる」と「もとむ」を可視化

自身のスキルではなく、やりたいことや悩みなどを気軽に登録出来る

サービスは無料で利用可能！お礼もお金に限らず物物交換が可能！

Lincrew このサービスで解決したいこと

- 自分は何がしたいのか、何ができるのかに気付く

「自分自身の小さな出来ることに価値がある」に気づく機会、そして実際の行動に移せる機会を提供します。

自分自身が自己決定し行動できることは、所得や学歴よりも高い幸福度に繋がります。

- 「頼まれないから、頼めない」投げ先のない悩みも言える

家族や会社に依存度が高い時には気づき手を差し伸べられていた問題も、個人が孤立すると気付くことが難しくなります。時に問題を抱えた当人も気づかず言葉に出来ない悩みを抱えていることも。悩みを共有し合うことも解決につながります。

小さな行動が、互いに助け合い、価値を生み出す共助・共創し合う世界へ

熊谷市公民連携まちづくり実践方針について
別添資料

令和6年2月7日版（案5）：実践事例準備中

熊谷市公民連携まちづくり 実践方針（案）

令和6年2月 日

目次

- 1．公民連携まちづくりに取り組む背景
- 2．公民連携まちづくりに取り組むプロセスと目指すべき仕組み
- 3．公民連携まちづくりに取り組む目的、重視する点等の設定
- 4．【準備中】（参考）星川エリアにおける実践事例
～星川ビジョン案中間報告（令和5年12月）を踏まえた公民連携まちづくり実践方針の必要性の整理等～

1 . 公民連携まちづくり に取り組む背景

はじめに

- 今後、社会保障費の増大や、インフラ更新費用などが増す一方で、働く世代の減少などにより、財政状況は一層厳しくなることが予想されます。こうした状況を克服し、将来にわたって暮らしやすく、魅力あるまちづくりを進めるためには、公的負担の抑制、地域経済の循環、市民サービスの水準向上が必要です。
- そこで、市民や民間の皆さまと共にまちづくりを進めていくための考え方として「公民連携事業」の導入に取り組みます。
- 公民連携事業は、対象となる事業や手法、連携先などが様々考えられます。最適な方法を選択しながら、市民や民間の皆さまと共に、熊谷を一層魅力あるまちにしていまいります。

民の活躍が求められる背景 ～なぜ今、公民連携か？～

- 市民のライフスタイルや意識は、「量」から「質」の重視へと変化しつつあり、また多様化しつつあります。
- 現在の熊谷のまちには、まちなみがか老朽化していき、その魅力の低下と少子化による社会の負担増大が顕著です。また、子育て世代の増加による経済的負担の増大も、まちの活性化を阻害しています。
- 複雑な社会環境の中で、市民の生活の質を向上させるためには、行政と民間の連携が不可欠です。また、市民の生活の質を向上させるためには、行政と民間の連携が不可欠です。

民の活躍が求められる背景 ～なぜ今、公民連携か？～

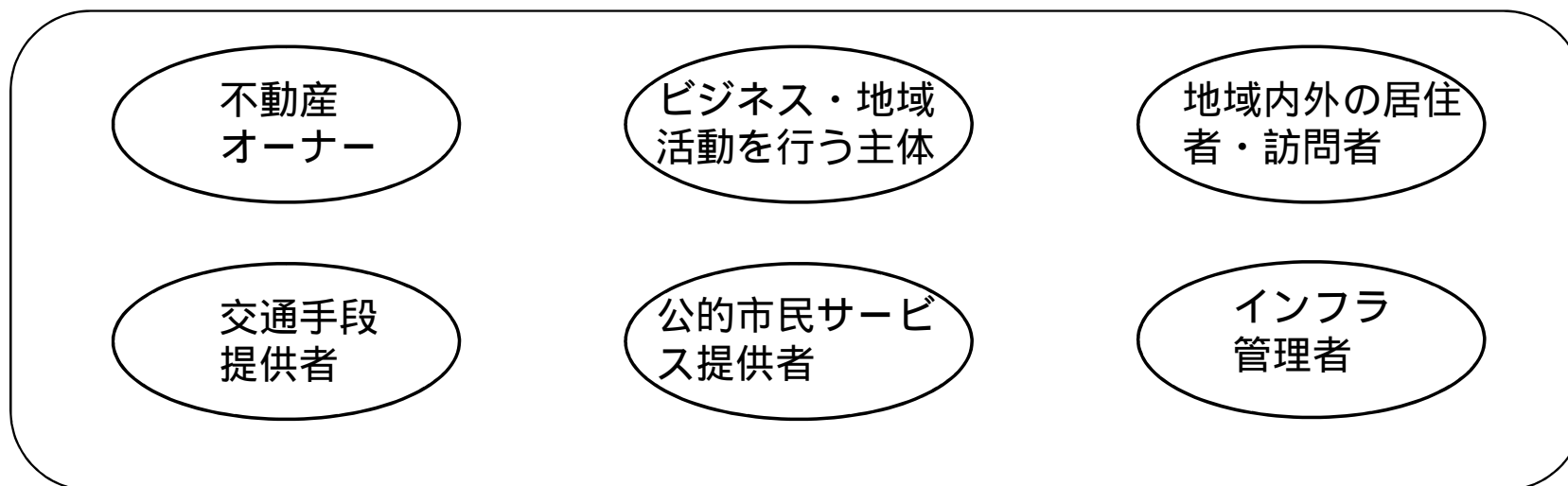
- 公民連携の取組の対象として、熊谷市ではまちなかの再生に取り組みます。
- まちなかは熊谷市の特色である様々な交通手段が接続する結節点であり、熊谷市全体を維持する上で重要なエリアと考えられます。
- また、各種のアセットがまだ残っており、地域の企業や人材をに活躍の場を提供することにより、雇用や新たな事業が生まれ、“地域内でおカネがまわる”仕組みを構築できる可能性があります。
- また、公共的精神を持った民間団体等と連携し、公共のアセットを活用することにより、民間のノウハウを活かし、質の高いサービスあるいはウェルビーイング的な自己実現等につながる環境を市民に提供できる可能性があります。

2 . 公民連携まちづくりに取 り組むプロセスと目指すべき 仕組み

「打席に立つつもりがある」ことの重要性

- 主体の性質に応じた「まちづくりの打席」についての議論を重視。
- どのような主体でも「まちづくりの打席」に立てる機会はある。
- まず、打席に立つつもりのある関係者同士が連携し、取組を始めることが重要。
- 立場や組織名でなく、「打席に立つつもりがある」ことを重視。（当事者意識の薄い様子見や下請けは「打席に立っている」ことにならない。）

【熊谷市の公民連携まちづくりに関わる主体の例】



公民連携まちづくりのプロセス

～以下のスマートシティ・データ活用まちづくりのプロセスは、システムやデータの重要性が異なるのみで、公民連携まちづくりのプロジェクトにおいても同様のプロセス・スキルを意識する必要あり～

持続サイクルの上で必要な9つのスキル（随時更新）



スマートシティにおいて【**目指すべき価値の調整・共有**】を行うスキル
必要な【**オープンガバナンスの場を設定**】し、得られた【**アイデアやどのような役割が必要かについての整理**】を行うスキル

既存のシステムやデータを見渡し、【**どうすれば実現できるかを考える**】スキル

実現のための仮説を、【**(必要なベンダー・有識者等の協力を得て) 実行可能な内容に落とし込む**】スキル

【**関係者と業務全体の要件・リスクを定義**】し、【**期間内に業務の成果が得られるようにマネジメント**】するスキル

【**個別のタスクの期限と要件の兼ね合いを管理**】し、同時並行的に業務手法を改善したり、段取り管理の中間目標を設定するスキル

政策のPDCA、EBPM等に【**どのようなデータが必要かを考え、取得方法や分析・活用手法を整理**】するスキル（市役所・大学等の政策企画関係者向けを想定）

【**データを用い、まちづくり等の課題をステークホルダーに伝えて理解を促す**】と共に、【**将来像や解決策の立案にステークホルダーを巻き込んで公民連携のまちづくりを促進**】するスキル

民間も含めた熊谷スマートシティの好循環のために【**地域（市役所内を含む）に必要なDX人材像・スキルを整理し育成手法を検討**】するスキル

公民連携まちづくりで目指すべき仕組み

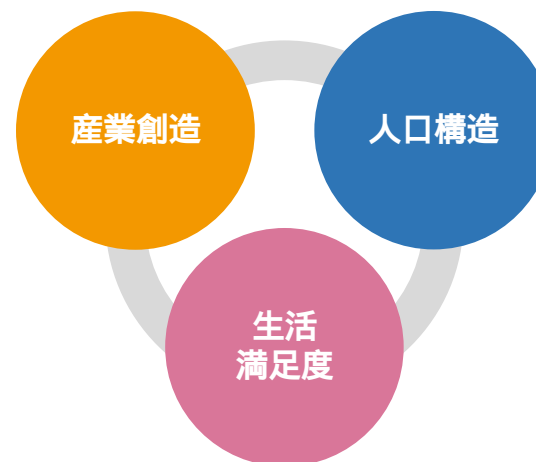
熊谷市の目指す持続可能な地域をつくるエコシステム

(産業DXに係る未来発見・地域づくり構想)

産業DXや公民連携により、産業を創造し、生活満足度を高め、人口構造を変えていくシステム

システムから得られるデータの活用や、事業者、大学との連携などの公民連携の取り組みなどから新たな産業の創造を目指す。

また、データを分析し市民ニーズに即した施策を行うことで生活満足度を高め、関係人口を含めた人口増加、転出抑制を図ることで、市民はもとより市外のファンも誇りに思える持続可能な地域づくりを行う。



**新たな事業が生まれ、生活の満足度が上がり、人口が増える
『地域の未来』をつくる**

3 . 公民連携まちづくりにおける目的、重視する点等の設定

目的と手段

【目的の設定】

熊谷市では、当該エリアに住まい、学び、働き、訪れ、期待する方たちと、当該エリアの目的を描き、さらにご意見をいただいて「ビジョン」としてブラッシュアップを図っていくまちづくりの取組を推進します。

【手段】

設定された目的・ビジョンを実現するために、「民間・公共の希望者がまちの一員としてまちづくりの打席に立てる機会」を、あらゆる手段を講じて増やすことに取組みます。

公民連携まちづくりに向けて市役所の政策企画方針（コンセプト）として重視する点

以下の点を重視しつつ、市役所の所管するインフラの管理、市民サービス等の面から、民間が活力を発揮できるように努めます。

コミュニティ

持続性

（まち、ひとの）ストーリー

（注）左記の政策企画方針（コンセプト）は「熊谷スマートシティ トータルブランディング方針」と連動。

公民連携まちづくりに向けて市役所として重視する基礎的なストーリー

「暑さ対策日本一」を掲げ、また「スマートシティ宣言」を行っている都市とし設定した以下の基礎的なストーリー、及び後に掲げる「特記事項」を踏まえたまちづくりに取組みます。

(ストーリーは随時修正・追加を検討します。また、エリアにおいて独自のストーリーを設定することも可能です。)

【ストーリー1】スマートクールシティへの市民参画

【ストーリー2】データ活用によるまちなかウェルカム、
コンパクト×スマートシティの取組み

(注) 上記の基礎的なストーリーは「熊谷スマートシティ トータルブランディング方針」と連動。

【特記事項 1】 公民連携まちづくりと熊谷スマートシティとの連動のメリット

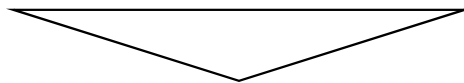
熊谷スマートシティでは、スマートシティ宣言(令和5年7月)の「デジタルと人の力で社会を前に進める」考え方の下、以下の内容に取り組んでいくことを「熊谷スマートシティトータルブランディング方針」「同 実行計画」に定めています。

以下の多くの内容は、これからの社会において、市民の誰もが自分なりの暮らし、生業、コミュニティ活動などを選んで満足度の高い生活を送っていく上で欠かせない要素となると考えており、熊谷スマートシティの提供する環境をぜひ活用いただきたいと考えています。

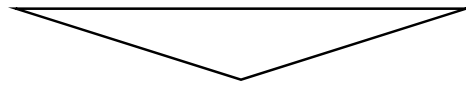
【熊谷スマートシティの取り組み例】

「クマぶら」などを通じて、市内の各種サービスの内容を位置情報と共に分かりやすく提供することに取り組めます。

デジタル地域通貨「クマPAY」システムの無償での提供、コミュニティバスの回数券のスマートフォンでの利用などにより、サービス利用者、提供事業者双方の利便性の向上に取り組めます。



【特記事項 1】 公民連携まちづくりと熊谷スマートシティとの連動のメリット



Web地図を活用し、市内のまちづくりの取組みを分かりやすくお伝えすることに取り組みます。

希望される方に向けて、Web地図ツールと、市役所がまちづくりの検討に用いているデータの提供に取り組みます。(原則として個人情報を含まないデータに限ります。)

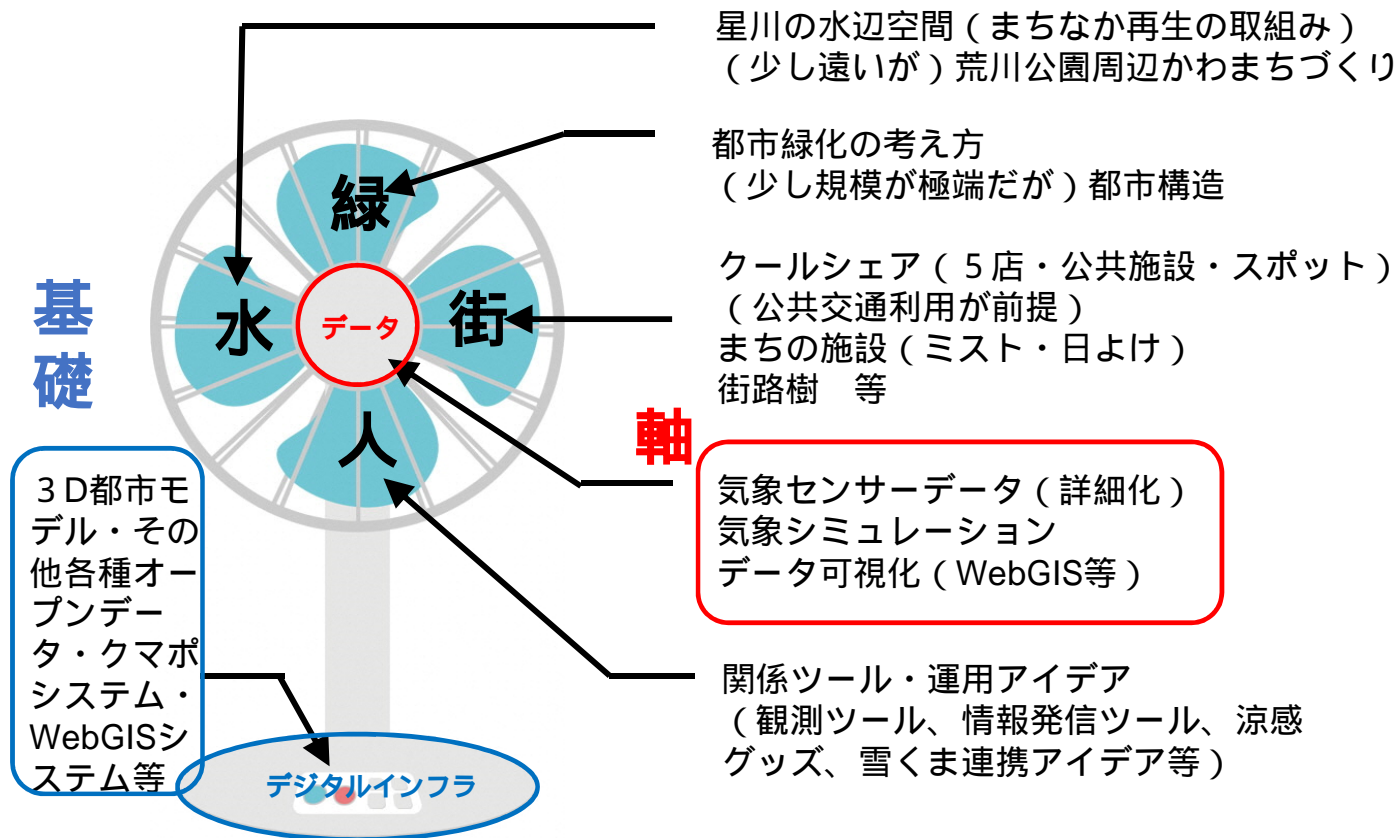
時間、場所に縛られずに市民同士がご意見を交わす機会となるWebコミュニティの形成に取り組みます。

換金性のないコミュニティポイント「クマポ」による、新たなつながりの形成に取り組みます。

デジタル技術によるサービスを受けることに苦手意識などによる格差が生じないように、講習の開催などに取り組みます。

その他、多様な市民のアイデアを実現しやすいシステムやデータ、その運用の仕組みなどを含めた環境づくりに努めます。

スマートクールシティへの市民参画ストーリーを構成する要素

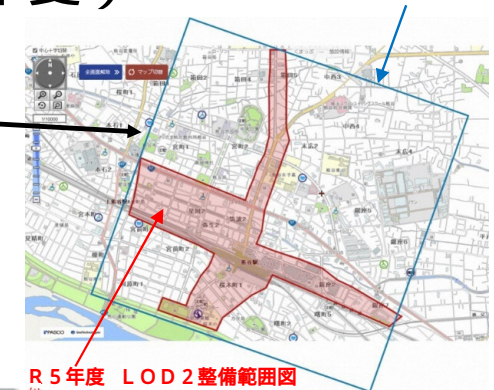


暑さ対策スマートパッケージ（令和6年、7年夏）

まちなか8か所に気象センサーを設置（令和5年度）
気象シミュレーションを実施

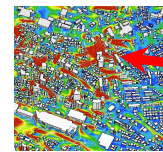


R5年度
気象シミュレーション範囲図
・シミュレーション範囲
熊谷駅を中心に徒歩15分圏内約2.0km
四方を想定



R5年度 LOD2整備範囲図
熊谷駅周辺エリア
面積：0.6km² 建物：2,100棟

気象シミュレーションから、**ヒートエリア**となる空間・
時間の情報を**スマホサービス（クマぶら）**で提供



ヒートエリア

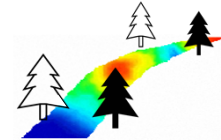
まちなかの**クールシェアスポット**を優先表示
暑い場所にある**クールシェアスポット**に**クマポ**を優遇付与



ポイント 2倍
ポイント 3倍

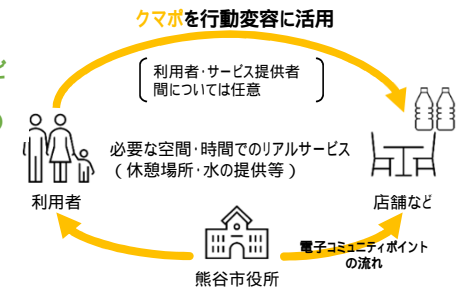
スマホサービス
（クマぶら）

まちなかでの暑い箇所を**緑陰・日陰**状況により回する
目安として**道路の温熱環境**を可視化



暑さ対策スマートパッケージ

今後の活用：気象データの研究活用や店舗利用者データの人流分析へ



市民・来訪者と店舗が
Win-Winのまちなかウェルカム

【特記事項 2】 公民連携まちづくりと交通まちづくりの連動の必要性

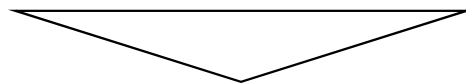
熊谷市では、公共交通網の環境が厳しさを増す中で、熊谷市地域公共交通会議における「地域公共交通計画」の検討などの場で、以下の方針を設定しています。

平成26年にコンパクト+ネットワークのまちづくりに向けた都市・交通の改正法が施行されてから十年、交通に係る課題の深刻化と、解決策となりうる各種技術の発展のバランスは、予断を許さない状況です。

熊谷市においては、個別の各エリアにおけるまちづくりビジョン等との連動の観点を重視しつつも、以下の整理の下、交通ネットワークのセーフティネットとしての側面と、人流確保による地域の活力維持の側面の両面において、対策の導入時期を失することのないよう、調整・実行に取り組みます。

【交通ネットワークのセーフティネットとしての側面と、人流確保による地域の活力維持の側面の整理について】

熊谷市はこれまで近隣自治体に比べて密度の高い路線バス・コミュニティバスの路線網を維持してきました。



【特記事項 2】 公民連携まちづくりと交通まちづくりの連動の必要性

しかし、運転士の人数の不足により、業務環境を確保しつつ、これまでどおりのサービスを提供することは困難な環境になりつつあります。

熊谷市では、この事により、「通院などに交通手段が必要な方へのサービス提供」（セーフティネットの側面）と、「自分らしく暮らす行動が制約されることでの地域の活力の低下」（地域の活力維持の側面）の両面の課題が生じるものと考えています。

具体的な対応としては、前者について、ICTを活用して必要な方へのサービス確保に取り組むと共に、後者について、まちなかを自転車や徒歩を含む様々な交通手段の結節点としてとらえ、市域全体のコンパクト&ネットワークの取り組みと連動しながら、活力のある地域づくりに取り組む方針です。

地域全体の交通ネットワークとコンパクトシティの両立による持続的な地域づくりは喫緊の課題であり、また取組みに影響を与える規制や技術の変化の速度が近年上がっているため、当面の間、上記の両面で積極的な情報収集、検討、実証などに取り組むべきと考えています。

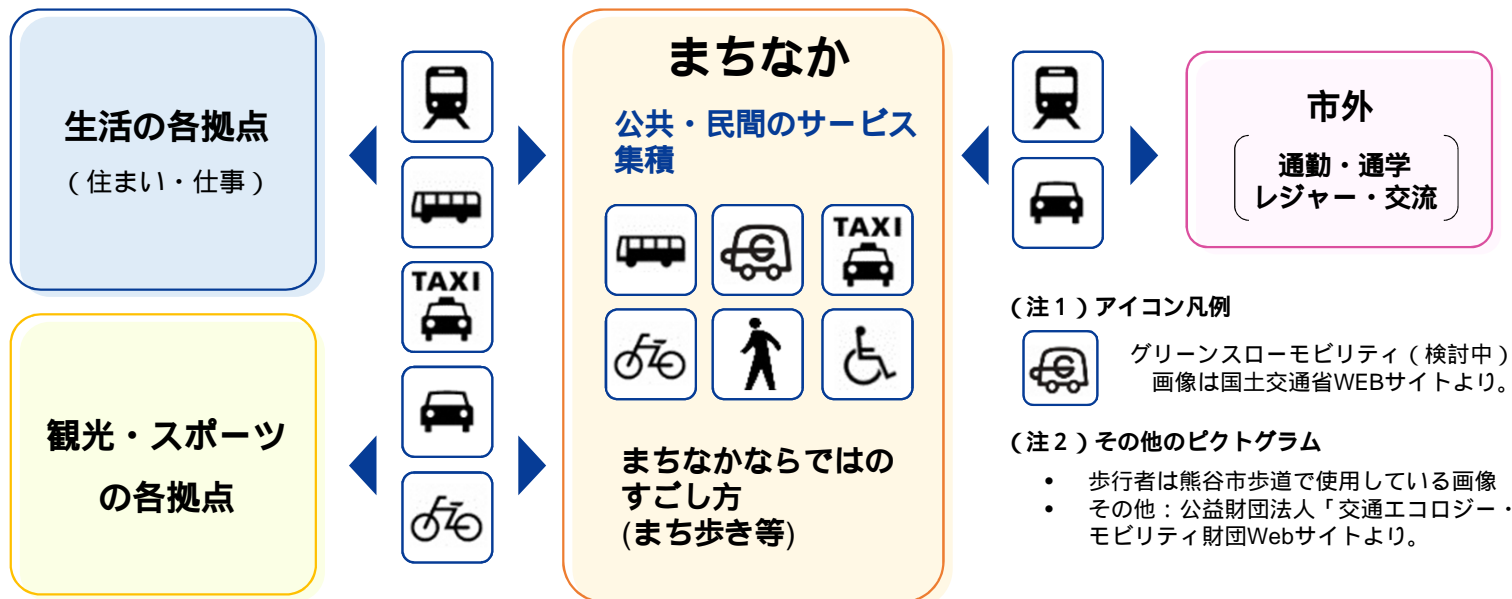
なお、検討にあたっては、生活の中での徒歩による移動の健康の維持に与える効果等についても、考慮するものとしします。

データ活用によるまちなかウェルカムのストーリー（１）

（人流データ活用まちづくりについて）

～まちなか再生の切り口からのアプローチ～

「まちなか」から見た人流のイメージ



データ活用によるまちなかウェルカムのストーリー（２）

（まちなかでの体験創造・実証の場の検討）

生活の各拠点（住
まい・仕事）との対流

観光・スポーツの
各拠点との対流

市外との対流（通勤・通
学・レジャー・交流等）

キーワード

『まちなかウェルカム』

まちなかへの人流
まちなかでの人流
まちなかからの人流

リアル

魅力あるサービスの提供
例：新規出店、店舗改善

+

歩きやすい・憩える空間づくり
と移動手段の確保

×

デジタル

オープンデータ化、デジタルを
活用した情報提供

+

スマートシティで取り組む各種
市民サービスとの連携

連携しての効果発揮のためには、人流データを活用した実施内容の検討・検証が不可欠

産業DXの取組について

- ・ けやき共創パートナーズ^()の取組（予定）
別添資料

() 「日本一アツい産業DXプロジェクト」採択事業者

熊谷市産業 DX 推進ふるさと納税型 CF 活用事業第一弾

「日本一アツい DX 人材育成プロジェクト」

クラウドファンディング開始

産業 DX に協賛・後援企業も同時募集

【募集期間】2023年12月15日～2月13日／クラウドファンディングサイト「ふるさとチョイス GCF」にて募集

産業支援する団体、（一社）けやき共創パートナーズ（代表理事:栗原志功／埼玉県熊谷市）は、熊谷市産業 DX 推進ふるさと納税型クラウドファンディング活用事業第 1 弾として、11 月 24 日（金）に事業認定を行われました。

VUCA 時代により社会環境が大きく変化し、農業、工業、商業、サービス業、その他の産業がさまざまな課題に直面しています。

そんな課題を解決するためにはどうしたら良いのか？ パーソナルコンピュータの父とも呼ばれるアラン・ケイの言葉で“The best way to predict the future is to invent it.（未来を予測する最良の方法は、それを発明してしまうことだ）”とする。そんな未来を担う人を共育しませんか？その運営資金をクラウドファンディングサイト「ふるさとチョイス GCF」にて募集を開始しました。産業 DX を共に創るため、同時に協賛・後援企業・団体・個人を募集します。



熊谷産業 DX プロジェクト

熊谷市産業 DX 推進ふるさと納税型クラウドファンディング第 1 号認定プロジェクトとは？

熊谷市内事業者のデジタルトランスフォーメーション（以下、DX）を応援する取組や、自社の DX を進める取組を、ふるさと納税型クラウドファンディングで支援するため、2023 年 10 月 2 日-10 月 31 日にて募集が行われました。

熊谷市産業 DX 推進ふるさと納税型クラウドファンディング活用事業として第 1 号プロジェクトとして、『日本一アツい事業“産業 DX 人材育成講座”』が認定されました。

本プロジェクトは熊谷市内外産業振興を目的とし、DX を推進するための人材育成及びコミュニティの生成を行うプロジェクトです。



<お問い合わせ先>

一般社団法人けやき共創パートナーズ広報担当原田 TEL : 048-528-0101MAIL : info@kcp.or.jp

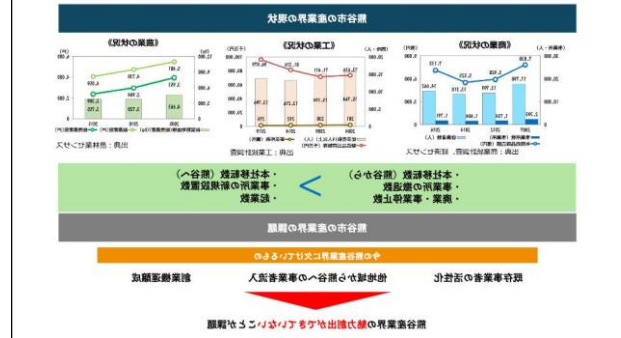
日本一アツイ事業“産業 DX 人材育成講座”とクラウドファンディング概要

プロジェクト名	『日本一アツイ事業“産業 DX 人材育成講座”』 (https://kkp.or.jp/)
クラウドファンディング実施期間	2023年12月15日(水)～2024年2月13日(火)
受付窓口	クラウドファンディングサイト「ふるさとチョイス GCF」 http://www.choisis.jp/
目標金額	1,000,000 円
その他	本プロジェクトにおける詳細は Web サイトにて発表します。

熊谷市産業界における現状の課題

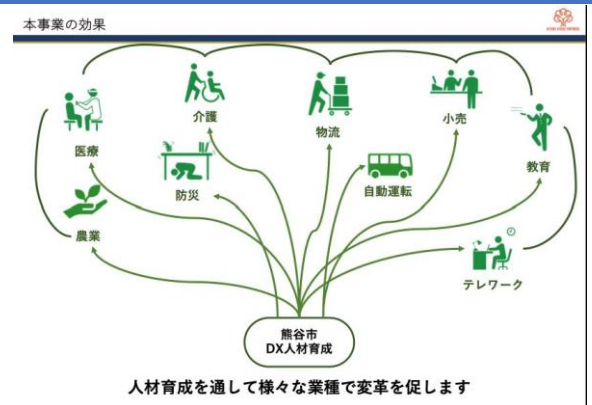
熊谷市の産業の現状として、本社移転数、事業所の撤退、廃業・事業停止数の増加が加速しています。

現在、熊谷市の産業における課題として、既存事業者の活性化、他地域から事業者流入、創業機運醸成が求められると考える。



DX（今回の施策）でどのような解決するのか？

1. DX 取組自体が低浸透（県内取組率推測 5%程度）
→生産性向上となる IT ツール使用法の教育
 2. DX 人材教育が進まず DX 人材が不足
→DX 支援を実行できる人材の育成推進
 3. IT ツールの使用法が不明瞭で定着化せず、逆にコスト高
→経営・事業課題を解決・伴走支援できるコミュニティ組成
- 本プロジェクトは、サービス提供、支援体制などを異なる企業が得意分野を生かして協力するスキームとした水平分業体制で実施します。



『日本一アツイ事業“産業 DX 人材育成講座”』とは？

熊谷市（以下、本市）はご存知の通り、2018年7月23日に最高気温 41.1°を記録しました。

本市は暑さで知られるまちですが、その理由として、地形的な理由の他に、厚い、熱い、敦い、そして、篤い人がいるからに他なりません。積み上げてきた歴史、助け合いの精神の伝統を活かした未来の担い手育成を行い、「日本一アツイ人が集う街」にしたいと考えています。

■〈産業 DX 育成講座運営〉

『日本一アツイ事業産業 DX 育成講座』では、“一緒に”をキーワードにして、これから DX を導入する、または導入したばかりで、何から始めたらよいかかわからない企業・事業者を対象とした「産業 DX 人材育成講座」を実施する。DX 化が自走する組織作り、DX を活用した経営、マインドセットなどを身につける人材育成講座と DX に必要なスキル、業務を想定した IT ツールの活用など身につける生産性向上講座を実施する。



<お問い合わせ先>

一般社団法人けき共創パートナーズ広報担当原田 TEL : 048-528-0101MAIL : info@kkp.or.jp

■ <地域密着型 DX コミュニティ運営>

DX 人材が地域に定着し、DX 人材を共通資産として地域企業が利用でき、中小規模事業者へ DX 定着化を図れる体制の構築に繋がっていきたい。

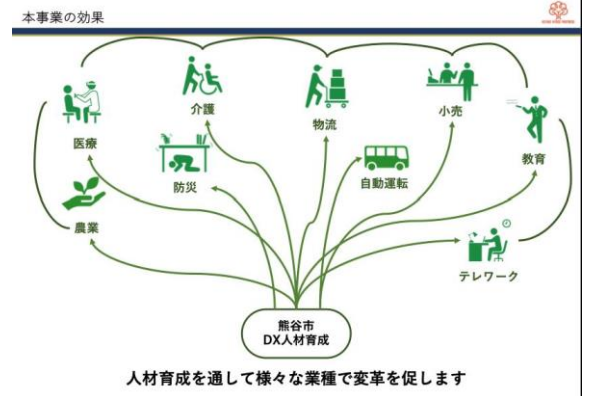
これから DX を導入する、または導入したばかりで何から始めたらよいかわからない中小規模事業者を対象とします。同じような悩みを抱えた受講生同士のグループワークも設けており、互いに相談することで、新たな気づきやつながりをつくることを目的とした地域密着型コミュニティを組成していきます。



本事業の効果

熊谷産業 DX 人材育成事業により、様々な業種で変革を促します。

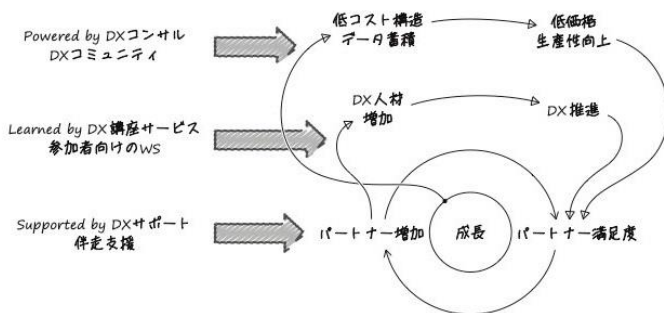
- 未来の担い手創出
- 市民生活利便性向上
- 元気で魅力的な産業の創出
- 人が集い活力ある産業が育つまち
- 地域経済や雇用へ好影響
- 市域外から資金を呼び込み、又は、市域内に資金を留め好循環させられる



熊谷フライホイール—DX 人材における目指す方向性

DX 人材育成の仕組み作りこそが、産業 DX の要諦となる。DX 人材育成事業は実施主体が計画と実行を行い、自己検証することで持続性の達成を目指していきます。本事業の成長はすなわち、人材の成長が産業の成長に寄与するものと定義します。

→産業 DX による“熊谷の魅力づくり”



<お問い合わせ先>

一般社団法人けやき共創パートナーズ広報担当原田 TEL : 048-528-0101MAIL : info@kcp.or.jp

寄付者の皆様へ

熊谷市長小林哲也コメント

熊谷市は、令和5年7月4日、「熊谷スマートシティ宣言」をいたしました。これは、デジタルと人の力で、社会を前に進めていく「熊谷スマートシティ」の実現に向けて取り組むことを表明したものです。

私は、スマートシティの実現には、自治体側のDXを進めるのに合わせ、民間の、とりわけ産業界のDXを進めることが必要と考え、新たに「産業DX推進事業」を実施することといたしました。この事業は、市内事業者のDXを応援するプロジェクトを募集・審査の上、認定したものをGCFを活用し支援するものです。このたび掲載しました、一般社団法人けやき共創パートナーズによる「DX推進人材育成講座@熊谷」は、本市初のGCFプロジェクトとして、DX推進に大いに貢献いただけるものと期待しておりますので、是非本プロジェクトのご支援をお願いいたします。



一般社団法人けやき共創パートナーズについて

令和5年4月には、産官学金連携により企業支援と伴走を目指し、一般社団法人けやき共創パートナーズを設立致しました。本法人の設立により地域の課題発見と解決を加速させていくつもりです。

【会社概要】



社名：一般社団法人けやき共創パートナーズ

本社所在地：埼玉県熊谷市筑波 3-202 ティアラ 214 階

代表理事：栗原志功

事業内容：

- ① 地域に根差したDX推進コミュニティ
- ② 産官学金連携を基軸とした事業者課題解決支援
- ③ 施策達成に向けた育成、伴走支援等のコンサル

設立：令和5年4月12日

HP：<https://kcp.or.jp/>



<お問い合わせ先>

一般社団法人けやき共創パートナーズ広報担当原田 TEL：048-528-0101MAIL：info@kcp.or.jp

日本一アツい!

DX 人材育成プロジェクトへ ご支援お願いいたします!



寄付募集期間

2023年

12/15 ~ 2024年 3/13

2024年

熊谷市の課題をDXで解決すべく 産業DX人材育成講座を開講します!

VUCA 時代と称されるように物事の不確実性が高く、将来の予測が困難な昨今、社会環境が大きく変化し、農業、工業、商業、サービス業、その他の産業がさまざまな課題に直面しています。そんな課題を解決するためにはどうしたら良いのか? パーソナルコンピュータの父とも呼ばれるアラン・ケイの言葉で” The best way to predict the future is to invent it.” (未来を予測する最良の方法は、それを発明してしまうことだ) とする。そんな未来を担う人を共育しませんか? その運営資金をクラウドファンディングサイト「ふるさとチョイス GCF」にて募集を開始しました。産業DXを共に創るため、同時に協賛・後援企業・団体・個人を募集します。

ガバメントクラウドファンディング (GCF) とは

ガバメントクラウドファンディングとは、ふるさとチョイスがふるさと納税制度を活用して行うクラウドファンディングです。

自治体が抱える問題解決のため、ふるさと納税の寄付金の「使い道」をより具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方から寄付を募る仕組みです。

GCFはこちら



【受託事業者 / お問い合わせ先】

一般社団法人けやき共創パートナーズ (担当: 原田)

埼玉県熊谷市筑波 3-202 ティアラ 21 4階

☎048-528-0101 Email : info@kkp.or.jp

WEB : <https://kkp.or.jp>

- Webコミュニティ等の取組について
- ・ 市民共創型 3 DGISプラットフォーム
（まちづくり用副読本作成）
別添資料

【準備中】1月26日案

- 本体は令和5年11月18日データ活用部会において公表済の資料を合成編集
- 令和6年1月26日に参考資料として行政関係者向け補遺を追加。

（熊谷スマートシティ版） 市民参加型WebGISの活用の手引き

令和6年1月26日版
熊谷市政策調査課

【目次】

(注)以下、「地図系データ」は、緯度・経度等の位置情報を持ち、地理空間情報システム(GIS)上で重ね合わせ等の加工が可能なデータを指す、熊谷市内でデータ活用まちづくりの説明に用いる略語。

- 【1】熊谷市がWebGISを通じた市民のまちづくり参画に取り組む理由
- 【2】地図系データを活用した市役所のまちづくりの方向性
- 【3】熊谷市が提供する地図系データの活用ツール
() WebGIS (リアース) による市民参加型 (双方向) の取り組みを想定。
- 【4】(参考)熊谷市データ活用まちづくりにおける地図系データの取扱い(案)
- 【5】(参考)データ活用まちづくりのためのデータ特性の把握について
- 【6】(仮)「市民共創型3D GIS (三次元地理情報)プラットフォーム」の取組について

【 1 】熊谷市がWebGISを通じた市民のまちづくり参画に取り組む理由

(行政が情報を提供するだけでなく、市民がGISを用いて情報を発信できるまちへ)

(1) 技術と社会の変化

○双方向の情報交換が時間や距離に縛られず双方向で可能に。
(皆で一か所に集まらなくても意見交換が可能。)

○取り扱える情報も文章だけでなく、二次元、三次元的な図や画像に。
(まちの構造や提案の内容を分かりやすく可視化することが可能。)

(2) まちづくりにおいて何が変わるか

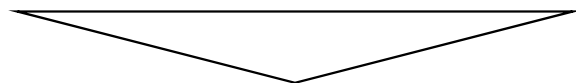
当面の手段

以下のメリットを市民に体験していただく機会の提供。

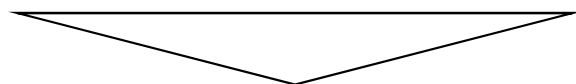
- ・発信や提案が容易に。
- ・二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現が容易に。

今後目指す方向性

・ 仮のアイデアや仮の計画の共有・修正のスピードの向上。



・ 「自分なりの快適さや楽しさ」を見つけたい市内・市外の方と
かみあつたまちづくりを誘発・促進するツールの運用。



・ 「住み続けたい」「住んでみたい」熊谷市の実現。

【 2 】 地図系データを活用した市役所のまちづくりの方向性

(注) 「地図系データ」は、緯度・経度等の位置情報を持ち、地理空間情報システム(GIS)上で重ね合わせ等の加工が可能なデータを指す、熊谷市内でデータ活用まちづくりの説明に用いる略語。

(1) 基本的な考え方

「仮のアイデアや仮の計画の共有・修正のスピードの向上」を目指すため、まずは市民がデータの重ね合わせ等を体験することのできるWebGISについて「市民に体験していただく機会の提供」に努め、「発信や提案」「二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現」が容易になっていることを実感していただく。

(2) 市民共創に向けた段取りとテーマの共有体験

共創への第一歩として、上記WebGISを活用した体験会については、準備の段取りを設定し、WebGISを用いて表現したい内容について事前に公民の意見交換を実施。

【3】熊谷市が提供する地図系データの活用ツール

() WebGIS (リアース) による市民参加型 (双方向) の取り組みを想定。

(1) 熊谷スマートシティにおける「コモンデータ」の考え方と WebGIS (リアース) による市民参加型の取り組み

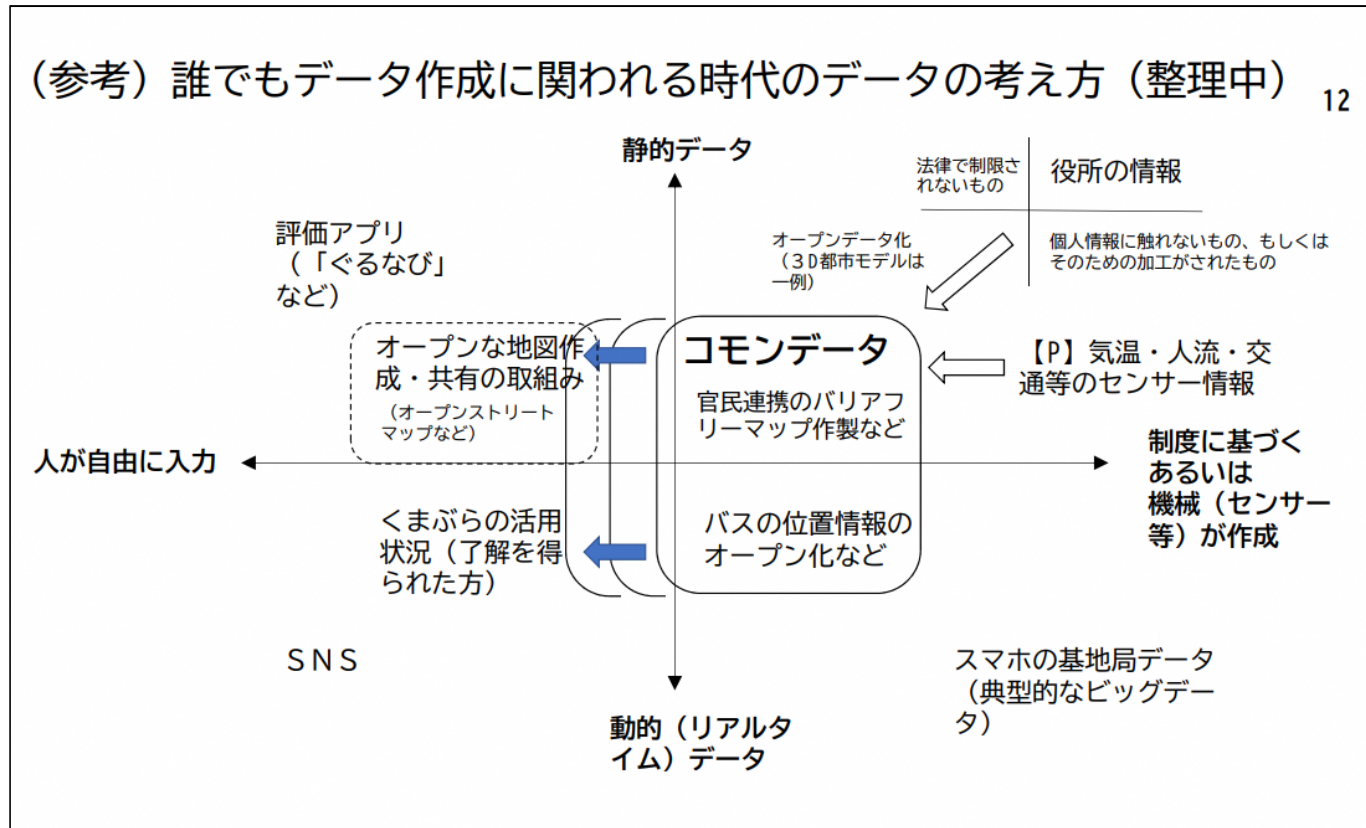
【データ全体の方針】市役所の保有するデータを順次市民に開放するオープンデータのみでなく、市民・民間団体と共有・共創するデータを含めた「コモンデータ」の充実を図る。



【WebGIS (リアース) 導入の考え方】

- ・より多くの市民にWeb上で各種の地図系データを重ね合わせる体験を提供することに適している。
- ・都市計画GISの標準となった3D都市モデルデータ形式の取り扱いが容易。

(2) 熊谷スマートシティにおける「コモンデータ」のイメージ



(出典) 令和4年8月17日 Web開催 熊谷スマートシティ推進協議会
データ活用部会 (R4年度第一回)

(3) 熊谷市の 3D都市モデルと市民作成データの重ね合わせイメージ

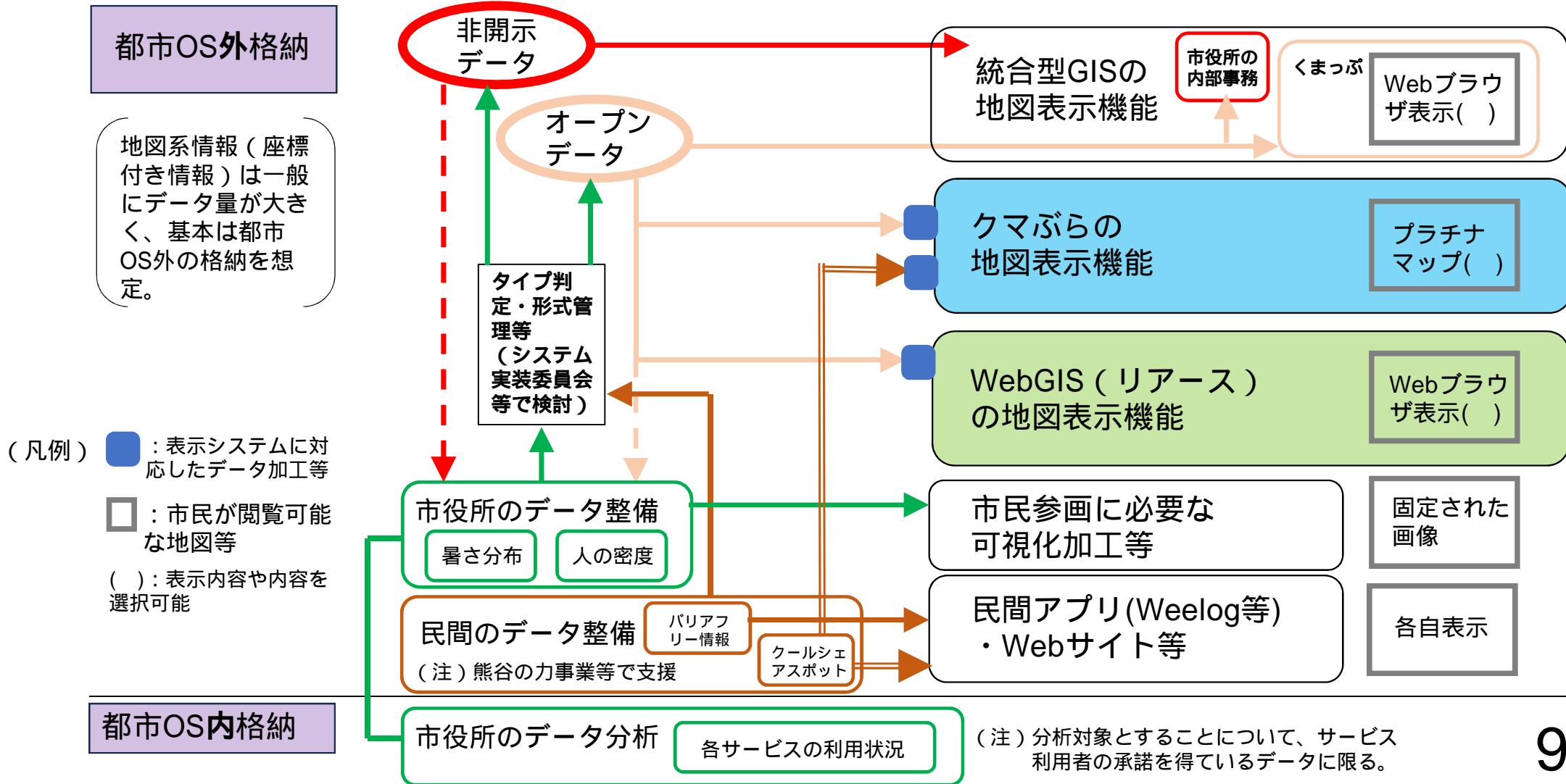


(出典) 共に令和 4 年 8 月 1 7 日 Web開催 熊谷スマートシティ推進協議会 データ活用部会 (R 4 年度第一回)

(参考 1-3) 3D都市モデルと市民作成データの重ね合わせのイメージ 6 (ユーカリヤ社より取材 R 4.8.9)



【4】(参考)熊谷市データ活用まちづくりにおける地図系データの取扱い(案)



【5】（参考）データ活用まちづくりのためのデータ特性の把握について（案）

令和5年11月13日

（目次案）

【1】基礎情報（デジタル推進課で確認）

- （1）当面の目標とするデータの用途
- （2）当該用途での活用予定・活用実績
- （3）当該データのオープン化の可否
- （4）現時点でのデータのフォーマット等（オープンデータと庁内データで異なる場合はそれぞれについて）

【2】基礎情報

- （5）成果の考え方 【Aコース】（デジタル推進課とりまとめ）
【Bコース】（デジタル推進課、スマートシティ班、関係課で協議）

【3】応用情報（システム実装委員会（スマートシティ戦略部会）で確認）

- （6）分析・可視化等のノウハウの市役所への蓄積の考え方
- （7）データの更新や拡充の想定
- （8）目的とする事業での活用方策・活用促進方策のアイデア等
- （9）目的とする事業以外での活用方策・活用促進方策のアイデア等

データ活用まちづくりのためのデータ特性の把握について（案）【 1 / 3 】

～まちづくりに関わる各種施策（注1）への活用などの目的があって取得あるいは作成されるデータ（注2）に関して整理しておくべき内容（案）～

（注1）まちなか再生のウォークアブル施策以外にも、暑さ対策スマートパッケージ、公共交通・自転車利用促進施策などが該当。

（注2）気象シミュレーション結果や、人流分析等のデータが該当。

【 1 】 基礎情報 （デジタル推進課とりまとめ）

（ 1 ） 当面の目標とする データの用途

（ 2 ） 当該用途での 活用予定・活用実績

（ 3 ） 当該データの オープン化の可否

- ・ 「可」の場合はオープン化の（予定）時期、オープンデータの格納（予定）場所
- ・ 「否」の場合はその理由。

（ ） 追加の加工等によりオープン化できる可能性がある場合は何がネックになっているのか。

（ 4 ） 現時点での データのフォーマット等（オープンデータと庁内データで異なる場合はそれぞれについて）

- ・ 適用されたフォーマットやデータ作成ガイドラインのバージョン・策定期間を記載。
- ・ 上記のバージョンアップの見込み等（設定主体が予定等と公表している内容があれば。）
- ・ 地図系情報について、外の団体のガイドラインがないデータを作成する場合は座標系などの活用に必要な事項を記載。
- ・ スマートシティ及び公民連携まちづくりの取り組みにおいて公開可能な地図系（地理空間）データが作成される場合には、WebGIS「リアース」で取り扱えるデータ形式の整備を原則とする。

データ活用まちづくりのためのデータ特性の把握について（案）【 2 / 3 】

～まちづくりに関わる各種施策（注1）への活用などの目的があって取得あるいは作成されるデータ（注2）に関して整理しておくべき内容（案）～

（注1）まちなか再生のウォークابل施策以外にも、暑さ対策スマートパッケージ、公共交通・自転車利用促進施策などが該当。

（注2）気象シミュレーション結果や、人流分析等のデータが該当。

【 2 】 基礎情報

（ 5 ） 成果の考え方

（ ）内容は「データ活用まちづくり」のサンプルとしてデータ活用部会（熊谷スマートシティ推進協議会）、まちなか・まちづくりプロジェクトチーム等に共有を想定。

【Aコース】（デジタル推進課とりまとめ）

- ・ あれば当該データや分析作業自体の成果指標
- ・ 未設定の場合は指標として検討される見込みの項目など

【Bコース】（デジタル推進課、スマートシティ班、関係課で協議）

- ・ もしくは目的とする事業等で設定されている成果指標
- ・ 設定困難な場合は当該データの活用によって目的とする事業等の効果・効率その他の価値（住民参画等）が向上するロジック。

データ活用まちづくりのためのデータ特性の把握について（案）【3 / 3】

～まちづくりに関わる各種施策（注1）への活用などの目的があって取得あるいは作成されるデータ（注2）に関して整理しておくべき内容（案）～

（注1）まちなか再生のウォークアブル施策以外にも、暑さ対策スマートパッケージ、公共交通・自転車利用促進施策などが該当。

（注2）気象シミュレーション結果や、人流分析等のデータが該当。

【3】応用情報（システム実装委員会（スマートシティ戦略部会）で協議）

（6）分析・可視化等のノウハウの市役所への蓄積の考え方

- ・デジタル推進課、スマートシティ班、国の研修等でノウハウ習得が困難な場合は、操作マニュアルの確保等の考え方等を記載

（7）データの更新や拡充の想定

- ・更新が想定される場合の更新頻度（国の調査・法定調査の周期等に律される場合はその旨付記）
- ・更新費用（費用面から現時点では更新の予定がない、あるいは未定の場合も概算を記入）
- ・更新が想定される場合の旧データの蓄積・保存・オープン化の範囲の限定などの考え方

（8）目的とする事業での活用方策・活用促進方策のアイデア等

（9）目的とする事業以外での活用方策・活用促進方策のアイデア等

【6】(仮)「市民共創型3D GIS(三次元地理情報)プラットフォーム」の取組について(1)

(仮)「市民共創型3D GIS(三次元地理情報)プラットフォーム」の取組

以下を総合的に市民に提供することで、「発信や提案」「二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現」が容易になっていることの普及を図ると共に、実践を促進します。

(1) レベル・関心に応じたガイド・テキストの公開

基礎講座資料・動画の公開

ワークショップ資料

基礎講座当日に使用した資料を公開しています。

[第1・2回基礎講座資料 \(PDF: 65,269KB\)](#)

アーカイブ動画

基礎講座の講師音声付き操作画面動画をYoutubeに限定公開しています。

<https://youtu.be/CMN0VTedps0> (外部サイト)


(出典)

https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/plateau/3dws_kiso.html

(参考) トップページからのリンクのたどり方

1. トップページ
2. 熊谷スマートシティ
3. 3D都市モデルオープンデータ化プロジェクト「PLATEAU(プラトール)」
4. 3D都市モデル市民ワークショップ(基礎講座)

市役所内での職員を講師とした研修資料の公開



Re:Earth画面 3D都市モデルデータと荒川洪水浸水想定区域データを重ね合わせたもの

[リアース+3D都市モデル活用講習会マニュアル \(PDF: 4,646KB\)](#)

[講習会テキストファイル \(テキストファイル: 1KB\)](#)

「リアース+3D都市モデル活用講習会マニュアル」では、Project PLATEAUの紹介をはじめ、3D都市モデルデータの利活用事例の紹介。Re:Earthを活用した3D都市モデルデータと荒川洪水浸水区域データの重ね合わせによる浸水シミュレーションを行う場合の操作方法を説明しています。また、「講習会テキストファイル」では、熊谷市3D都市モデルデータ、荒川洪水浸水想定区域データが保存されているURLを紹介しています。

(出典)

<https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/plateau/3dsyokuinkosyu.html>

(参考) トップページからのリンクのたどり方

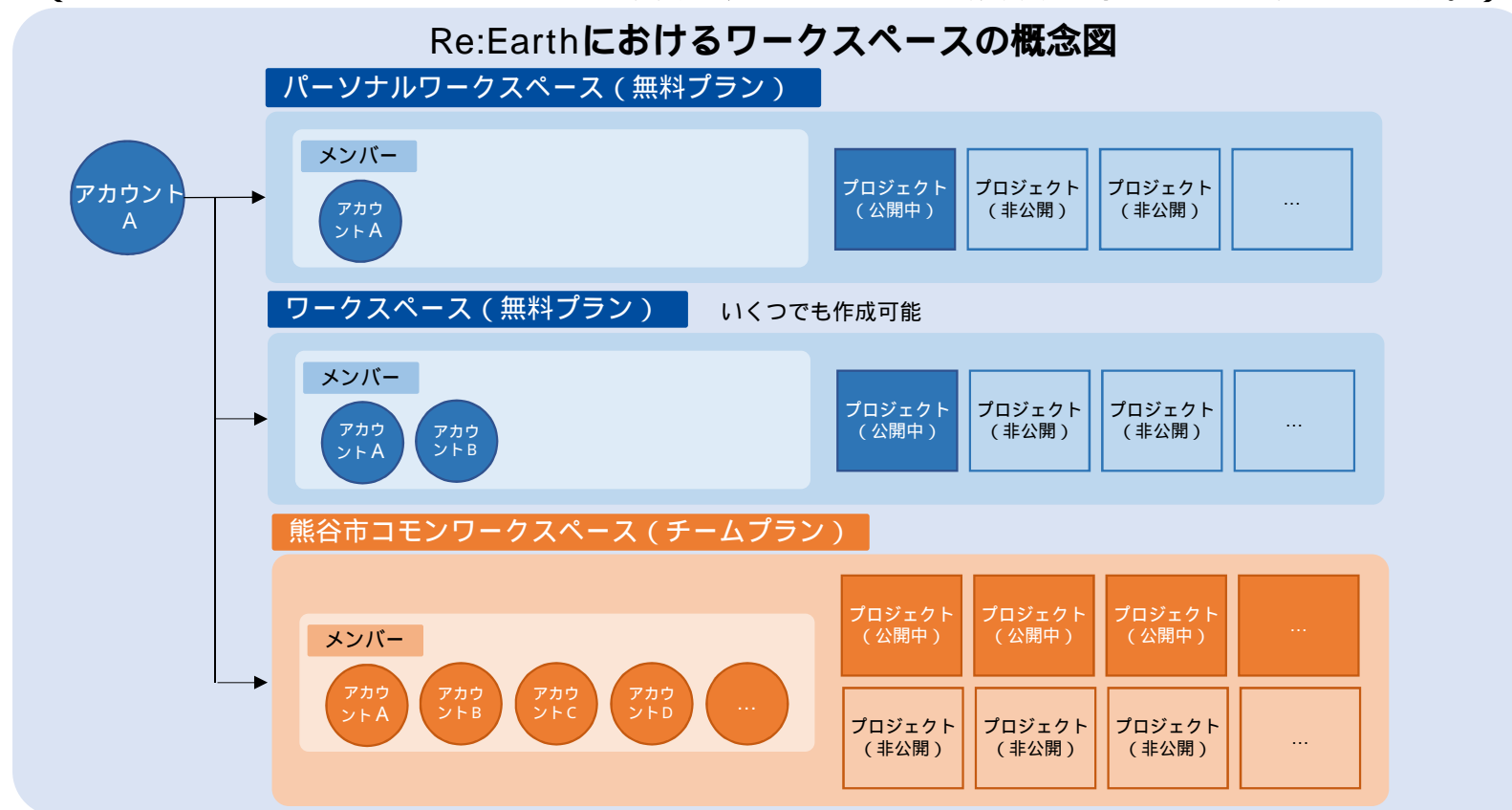
1. トップページ
2. 熊谷スマートシティ
3. 3D都市モデルオープンデータ化プロジェクト「PLATEAU(プラトール)」
4. 3D都市モデルを活用した市職員向け講習会

【6】(仮)「市民共創型3D GIS(三次元地理情報)プラットフォーム」の取組について(2)

(2) Web上で自由に使える作業の場(コモンワークスペース)の提供【準備中】

市役所には氏名とメールアドレスを登録いただく会員制を想定。(無償)

(他のメンバーのプロジェクトのデータを無断で加工しない等の会員規約に同意いただくことを想定。)



(注1)

Re:Earth(リアース)にはワークスペースと呼ばれる作業空間があり、プロジェクト(地図)はそれぞれワークスペース内に作成することとなります。

(注2)

ワークスペースは、そのメンバーとなることでプロジェクトの参照や編集が可能となります。

【6】(仮)「市民共創型3D GIS(三次元地理情報)プラットフォーム」の取組について(3)

・コモンワークスペースの設置目的について

コモンワークスペースは会員となった市民に以下のメリットを提供し、「発信や提案」「二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現」が容易になっていることを実感いただくと共に、公民連携により「仮のアイデアや仮の計画の共有・修正のスピードの向上」などが図られることを目的として熊谷市役所がWeb上でリアースの共有ワークスペースを提供するものです。

○Web上に複数の地図が公表可能

- ・リアースについて、提供元のユーカリヤ社は個人アカウントでの無償体験を提供していますが、その場合、公表できる地図は1件のみとなります。
- ・コモンワークスペースを利用いただくことにより、複数の地図を比較しながらの議論等も容易になります。

○他のコモンスペース参加者との連携が容易

- ・参加者は、他のメンバーのプロジェクトのデータを無断で加工しない等の会員規約に同意いただいています。逆に、合意があれば、共同で地図の加工に当たっていただけます。
- ・匿名でも活動することは可能ですが、氏名・メールアドレスを市役所に登録いただき、規約に従っていただけない場合は退会する措置を取りますので、安心して活動していただくことが可能です。
- ・参加者同士のコミュニティとしては、Discordにおいて、招待制のサーバーを設置することを検討中です。

【6】(仮)「市民共創型3D GIS(三次元地理情報)プラットフォーム」の取組について(4)

(3) 市役所の各種取組で作成されたデータの利用しやすい形での提供【準備中】

- ・スマートシティやまちづくりの取組みに際して作成されたデータ(現時点では検討用に作成された二次元データなどを想定)について、幅広い活用を促進すべく整理を行う予定。
- ・その一環として、熊谷市役所のスマートシティ及び公民連携まちづくりの取組みにおいて地図系データが作成される場合には、市民参加型WebGISとして利用する想定「リアース」で取り扱えるデータ形式の整備を原則とする予定。(WebGIS側での読み取りを可能とするプラグイン開発も同等の対応とみなす予定。)

(4) 市民向け講習会の提供・関係行事等の情報提供

- ・令和5年度は大学生、社会人向け基礎講座の他、防災、まちづくり、景観・環境をテーマに体験会を開催(一部は予定)。
- ・令和6年度は社会人向け防災テーマの体験会、高校生向けまちづくりテーマの体験会を検討中。(民間団体との研究会等についても検討中)
- ・その他、リアースのベンダーの開催する講習会、他自治体での取組事例の紹介、国の3D都市モデル関係者等が開催する各種行事の情報等を提供予定。

(参考資料)
行政関係者向け地図系データ
利活用に係る補遺

WebGISによる市民参画促進の分類

【熊谷市における取組の分類整理（随時更新）】

- 1．これまでの地図をデジタルで手軽に参照。
（行政の役割）
座標を持つ図形情報（点・線・面）と意味を整理
（差支えないものはオープンデータとして公開）
WebGISでの公開（くまっぴ）
- 2．地図の上に他のデータを重ねた分かりやすい情報を手軽に入手。
（行政の役割）
重ねるデータの作成（原則としてオープンデータとして公開）
データを重ねた画面での可視化（各政策担当課が準備 公表）
- 3．まちづくりに関わる地図の作成・公開に自主的に参加。
（行政の役割）
市民にもWebGIS等の環境を提供（WebGISは「リアース」を使用。）
操作手法や地図と重ねられる形式のデータを探しやすく整理し提供

地図系データ等の活用の2つの方向性

- データ活用まちづくりにおいて、以下の双方の取組が行政には求められる。
- (1) 利用者の地図から情報を読み取るリテラシーに関わらずわかりやすく便利な方向性。
 - (2) 関心のある方、使いこなせる方とは公民の協働等でよりよいまち（持続性・満足度等の面）を生み出すことに取り組む方向性。

()現時点では、一つのシステムで全ての目的を達することは困難であるため、熊谷スマートシティでは複数のGISシステムの長所を活かしつつ費用を抑える組み合わせを検討中。

【熊谷市における取組のパターン整理（随時更新）】

1. これまでの地図をデジタルで手軽に参照。
(行政の役割Ⅰ)
 - ①座標を持つ図形情報（点・線・面）と意味を整理
(差支えないものはオープンデータとして公開)
 - ②WebGISでの公開（くまっぶ）
2. 地図の上に他のデータを重ねた分かりやすい情報を手軽に入手。
(行政の役割Ⅱ)
 - ①重ねるデータの作成（原則としてオープンデータとして公開）
 - ②データを重ねた画面での可視化（各政策担当課が準備→公表）
3. まちづくりに関わる地図の作成・公開に自主的に参加。
(行政の役割Ⅲ)
 - ①市民にもWebGIS等の環境を提供（WebGISは「リアース」を使用。）
 - ②操作手法や地図と重ねられる形式のデータを探しやすい整理し提供

リテラシーに関わらずわかりやすく便利であるべき方向性

(例) 行政手続きに際し添付が必要な図面などは最小限の労力で揃え、相談できることが重要。

当該分野のまちづくりに関心の強い方と目指すべき方向性

～行政のオープンデータ化、市民協働のコモンデータ等により、よりよいまちづくりを目指す～

地図系データ取り扱いの市役所内位置づけ

R6年2月に公表予定の「熊谷スマートシティ トータルブランディング方針」等により、熊谷スマートシティの考え方の体系の中で、市民参画型のWebGISの活用に向けた取り組みの必要性等を以下のとおり整理。（「方針」～「手引き」～「テキスト・副読本」で構成）

1 熊谷スマートシティ宣言
(理念・目的(パーパス))

2 熊谷スマートシティ
トータルブランディング方針

3 熊谷スマートシティ実行計画

(1) デザインルール

- ・やさしい未来発見に向けた3つの好循環
- ・ビジュアルの統一について ←
- ・スマートシティ関係部局を中心にした熊谷市版ITスキルの整理と普及 ←
- ・「暑い」に類する表現の使い方について

SSID(スマートフォンサービスインターフェイスデザイン)ガイドライン

熊谷スマートシティスキルカタログ

(2) 政策企画方針(コンセプト)

- ・熊谷スマートシティの政策企画において重視するポイント
- ・DXアイデア・事業創造の流れ ←
- ・ウェルビーイング指標の政策検討への活用(EBPM)
- ・コモンデータ・Webコモンスペースの考え方による公民連携のデータ活用 ←

(仮)デジタル・デザインルートマップ

(熊谷スマートシティ版)市民参加型のWebGISの活用に向けた取組みの手引き

() 地図系データに係るテキスト・副読本は、トータルブランディング方針の「～重視するポイント」で示した2つのストーリーと、その他データ活用を必要とする実務を考え併せて設定。

【ストーリー1】スマートクールシティへの市民参画

【ストーリー2】データ活用によるまちなかウェルカム、コンパクト×スマートシティの取組み

(熊谷スマートシティ版)市民参加型のWebGISの活用に向けた取組みの手引き

(参考)行政関係者むけ地図系データ利活用に係る補遺

WebGIS(リアース)基礎講座操作テキスト

まちづくり活用体験会操作テキスト

同副読本

都市景観・都市環境分野活用体験会操作テキスト

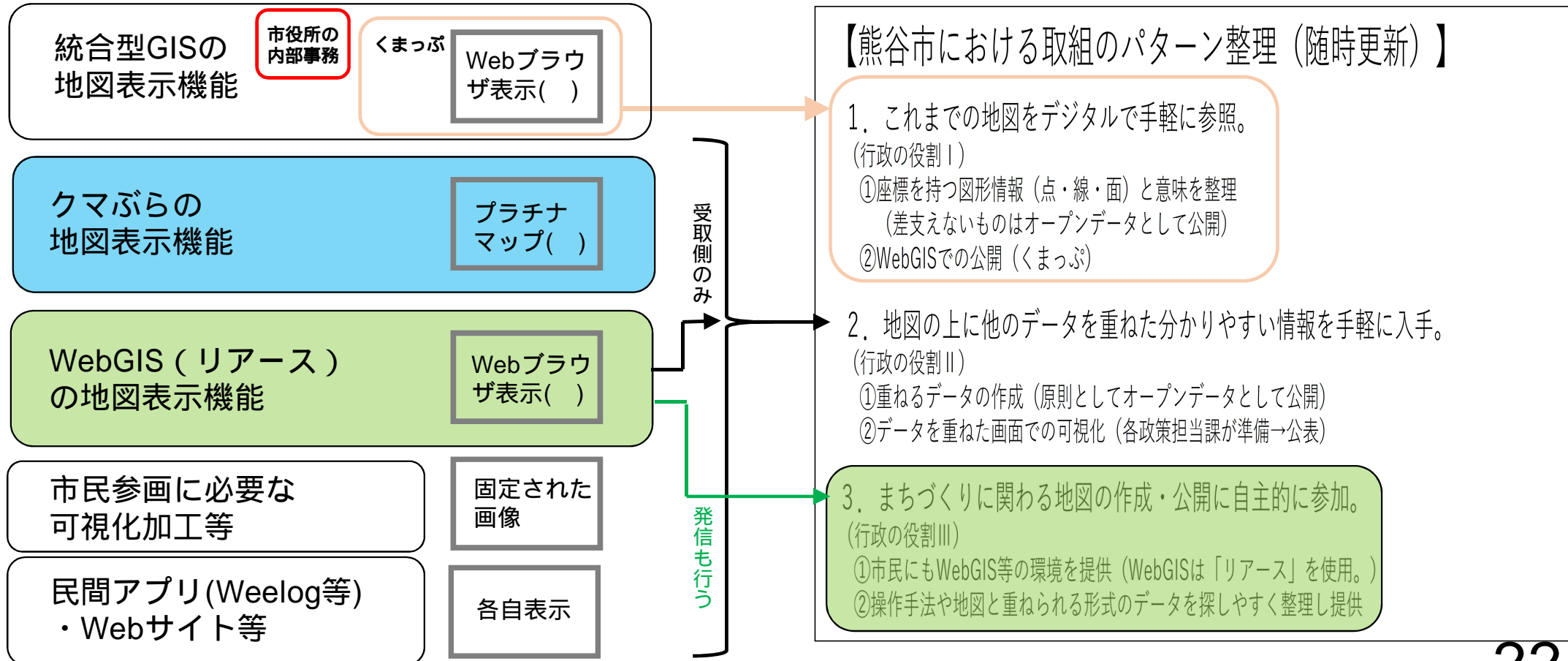
同副読本

(仮)人流・滞在者数等データ活用副読本

() R6年度は体験会・操作テキスト作成は行わず、データ活用副読本のみを職員が有識者等の意見を聞き取りつつ政策予定。

取組に必要なGISツール導入とその分担状況

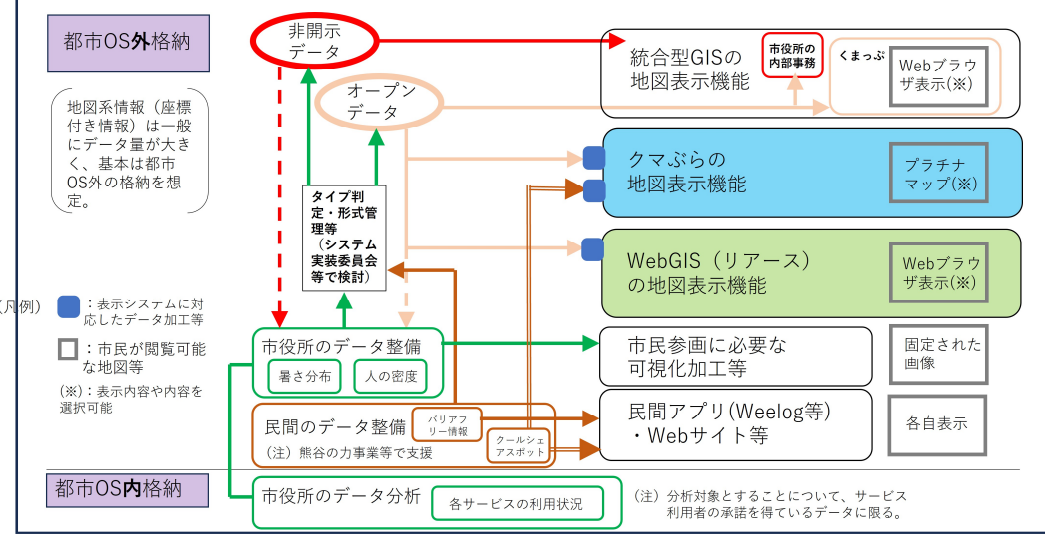
○R2年度～くまっぶ、R3年度～クマぶら、R5年度～WebGIS（リアース）を導入し、右図の各パターンの手段を確保。



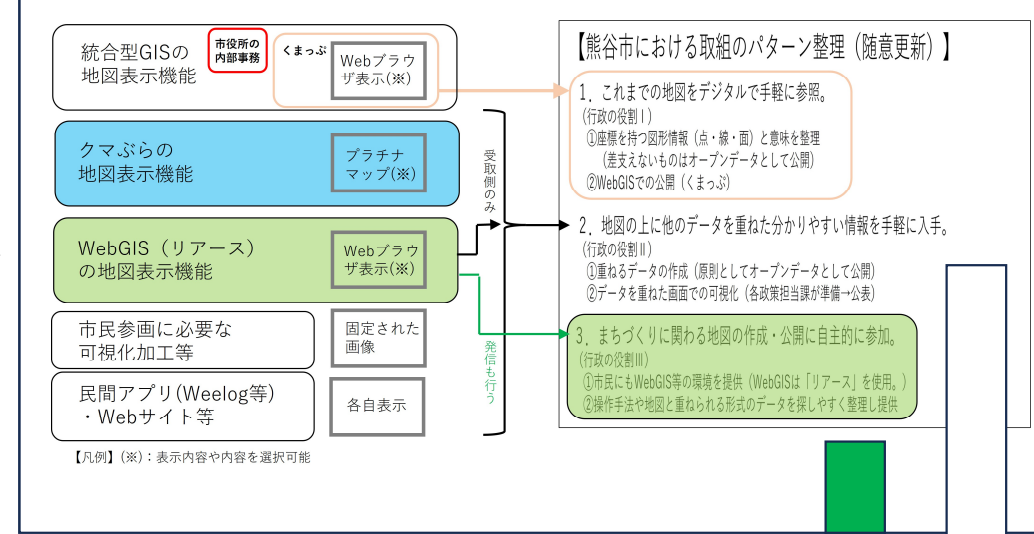
【凡例】() : 表示内容や内容を選択可能

地図系データの生成・活用サイクル

【地図系データを各システムで活用する流れ】



【各システムによる利便性向上・市民参画促進】



（ ）政策に関わる実証観察、分析等により地図系データとして利用可能なデータが生成される場合には、各システムにおける活用等を検討。

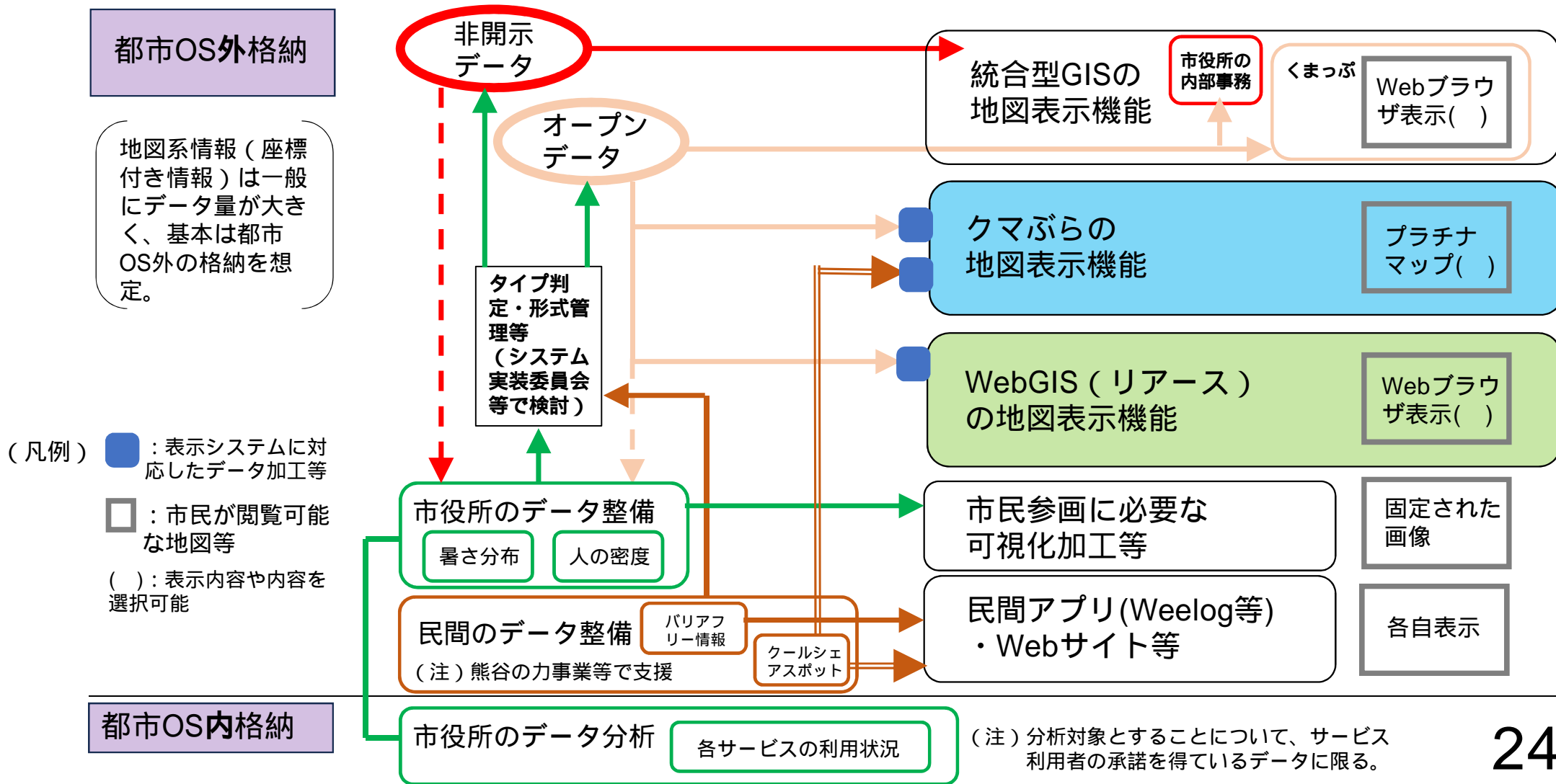
【政策の実証やその効果の観察、追加の分析等】

【市民WS、合意形成システム（ ）等を通じた政策企画の取組み】

（ ）WS参加の時間の制約を緩和しつつ、市民同士の対話を可能とするシステムの順次導入を予定。

【共通のWebGIS（リアース）等を活用した公民連携まちづくり等の検討】

(参考) 熊谷市データ活用まちづくりにおける地図系データの取扱い(案)

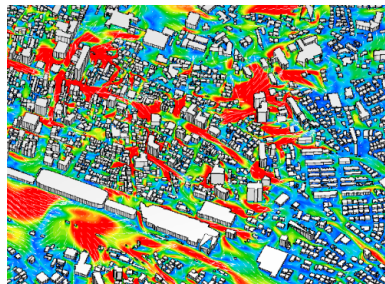


R6年度の滞在・人流加工データの取組概要

(注) 以下、「ウェブGIS」については、「リアース」を予定。「くまっぴ」の整理状況については後に添付。

ユースケースの概要

ユースケース名称	ウ 3D都市モデルを活用した人流可視化事業
創造したい価値 / 解決したい課題	歩行者に向けた施策の人流への影響を可視化し、ウォークブルシティの促進を図る。
具体的な施策	<ul style="list-style-type: none"> 熊谷市の中心市街地を東西に横断する星川周辺において、歩行者立ち寄りスポットを確保し、人流への影響を分析する。 3D都市モデル、気象シミュレーションデータ、歩行者立ち寄りスポット位置データを重ね合わせ、可視化する。 可視化されたデータをもとに、住民ワークショップや合意形成アプリ等で市民の意見を収集する。

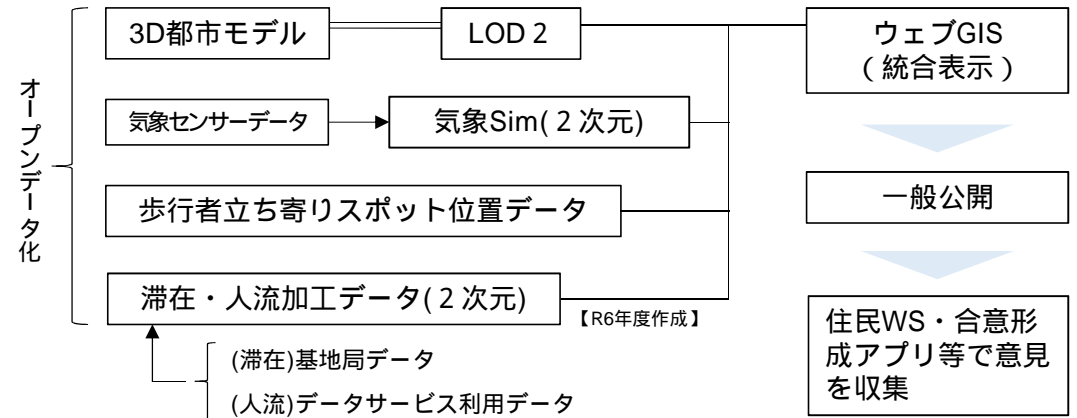


3D都市モデルを活用した風・温熱環境シミュレーション (イメージ)

滞在・人流データと3D都市モデルを重ね合わせ可視化し、住民WS等で活用



システム構成図



アウトカム (成果指標)

指標	目標値
歩行者立ち寄りスポットに関する意見の提案	100件 (2024年度)

想定ステークホルダ/技術企業へのヒアリング状況

データ作成	株式会社 ゼンリン 株式会社 パスコ
3D GISの重ね合わせ	株式会社 ゼンリン
モデル化の助言 (スマートシティアーキテクト)	株式会社 構造計画研究所

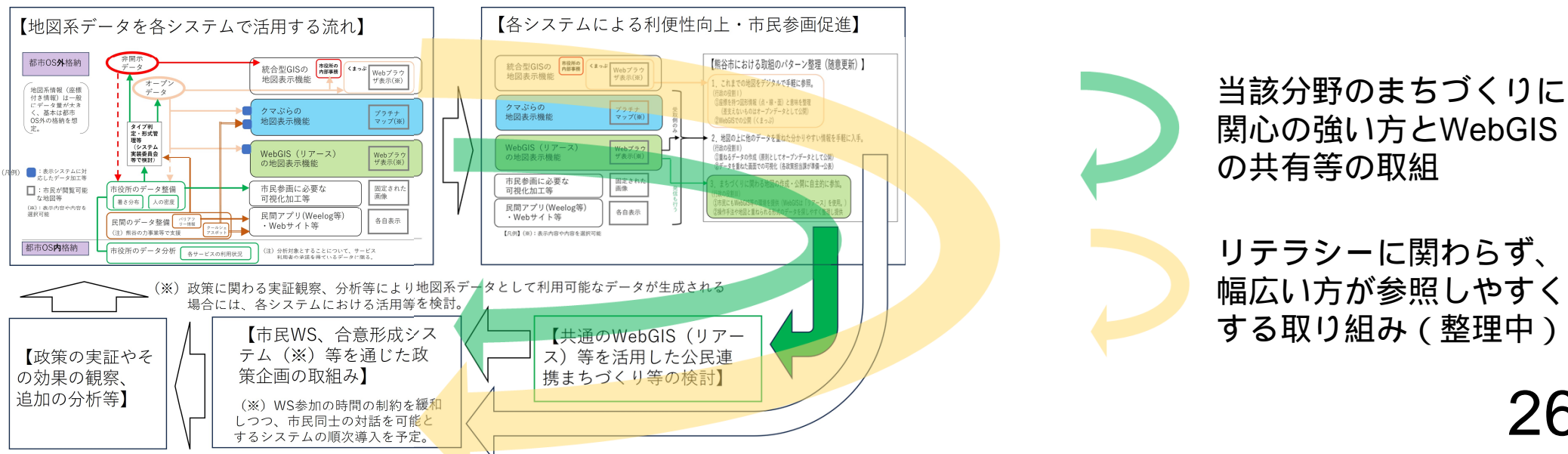
(整理中) 「くまっぴ」でのデータ活用

○公民の協働等の実現のためには共通理解等のための準備期間を要するため、行政のオープンデータ化、市民協働のコモンデータ等による、よりよいまちづくり（持続性、満足度等の面）の取組の基盤を整えることを先行させてきたところ。

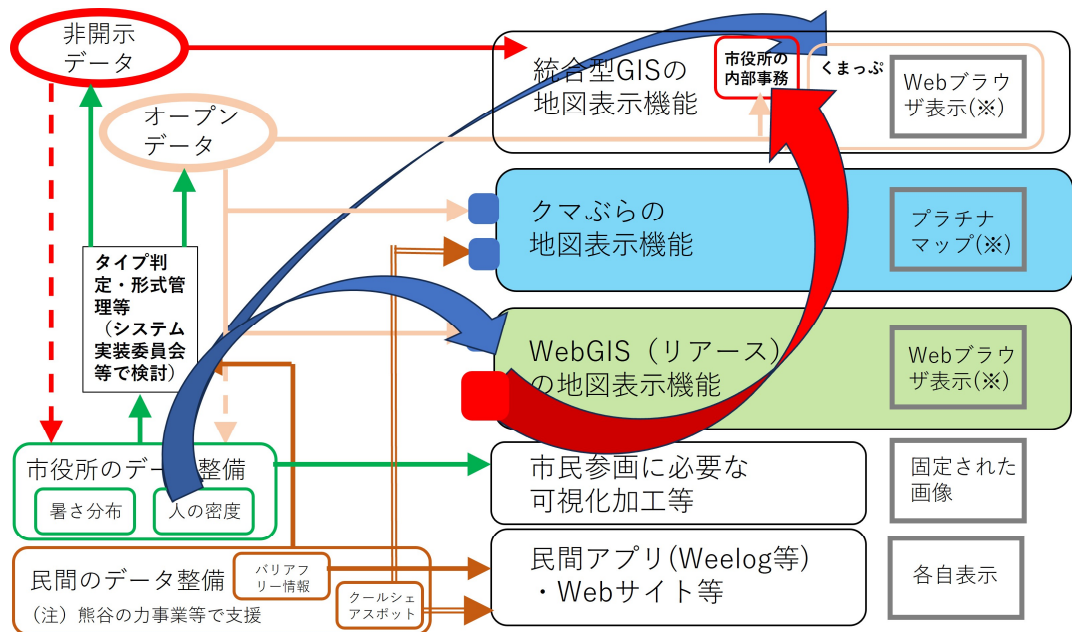
（「地図系データ等の活用の2つの方向性（2）関係）

○より広い市民が参照可能とする（同「～方向性」（1）関係）可能性についても、必要性、手順等を整理中。



地図系データの生成・活用サイクル



【調整中】熊谷市の統合型GIS等へのデータ流し込みにかかる実証内容



(注) 上図は「熊谷市データ活用まちづくりにおける地図系データの取扱い(案)」から必要な範囲を抜粋の上、帯状矢印を追記したもの。

- 【凡例】
-  右上【課題1】に該当するデータ受け渡し
 -  右上【課題2】に該当するデータ受け渡し

【課題1】滞在・人流加工データのリアース・熊谷市統合型GISへのデータ受け渡し可否
 : CSV、CZMLの形式のサンプルデータ(1月25日共有「混雑統計_サンプルデータ_240125」)により確認中。

【課題2】リアース作成データの熊谷市統合型GISへのデータ受け渡し可否
 : 1月26日現在、テーマ絞り込みのボールが熊谷市にある状態。
 : 当初、くまぶらへの流し込みを想定して市内での優先事項の検討を開始したが、市内事務上で個別避難計画検討のために、防災上でプラグイン開発、市民体験等に取り組んでいる避難路情報の取り込みが重要である可能性があり、今後協議予定

3D都市モデルのまちづくりへの活用について (12月16日体験会の内容を含む)

- 1 . 本年度市役所が提供する3D都市モデル体験会の中での12月16日の回の位置づけ
- 2 . 3D都市モデル及びWebGIS (_Re:Earth (リアース)) の熊谷市まちづくりの中での位置づけ
- 3 . 12月16日の体験会 (まちづくりの部) の提供内容 (概要)
 - まちづくりに関わるデータの基本
 - Re:Earthプラットフォームの活用
 - 「地域人財・交流拠点等 Webマップ (星川) 」について
 - (イ) 星川エリアのビジョン案づくりと今回の体験の関わり
 - (ロ) (参考) 益田市の「ひとマップ」
(まちづくりの取組みとGISマップを連動させている好事例)
 - (ハ) 12月16日以降の運用や留意点
(「市民共創型3DGIS (三次元地理情報) プラットフォーム」のご利用にあたって)
- 4 . 具体のWebGIS (_Re:Earth (リアース)) 操作について
- 5 . 参考資料

1 . 本年度市役所が提供する3D都市モデル体験会
の中での12月16日の回の位置づけ

3D都市モデル体験会の状況について(1)

政策調査課

取組概要

Re:Earth（リアース）を使い、デジタル立体地図を活用した中心市街地のまちづくりや防災・減災についての市民ワークショップを開催します。

Re:Earthとは

インターネット上にて利用可能な地理情報システム（WebGIS）であり、国土交通省が進める3D都市モデルプロジェクトPLATEAU（プラトー）データ対応のオープンソースソフトウェア。

アカウント発行（無料）すれば誰でも利用でき、地図の作製や更新・公開設定などで難しいプログラミングを行う必要がないことが特長。

スケジュール



回	日時	内容	場所	対象
第1回	令和5年9月22日（金） 14:30～16:00	Re:Earth基礎講座	立正大学熊谷キャンパスPCルーム	立正大学学生
第2回	令和5年9月30日（土） 10:30～12:00	Re:Earth基礎講座	立正大学熊谷キャンパスPCルーム	防災関係団体 まちづくり関係団体
第3回	令和5年11月18日 （土）10:30～12:00	浸水シミュレーションを活用した防災・減災体験会	熊谷市役所本庁舎6階603会議室東	防災関係団体
第4回	令和5年12月16日 （土）10:30～12:00	まちづくりマップ作製体験会	熊谷市役所本庁舎3階303会議室	まちづくり関係団体
第5回	令和6年3月2日（土） 10:30～12:00	景観・環境マップ表示体験会	熊谷市役所本庁舎会議室（調整中）	まちづくり関係団体

3D都市モデル体験会の状況について(2)

政策調査課

市民向け基礎講座の様子 (R5年10月30日Web掲載情報)



基礎講座 (学生向け)



基礎講座 (防災・まちづくり関係者向け)

(注) 大人数の受講のため、以下画像は立正大学熊谷キャンパスのコンピュータールームをお借りして開催していますが、ご自宅や職場のパソコン・回線での利用も可能です。

(出典) https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/plateau/3dws_kiso.html

(参考) トップページからのリンクのたどり方

1. トップページ
2. 熊谷スマートシティ
3. 3D都市モデルオープンデータ化プロジェクト「PLATEAU (プラトー)」
4. 3D都市モデル市民ワークショップ (基礎講座)

参加者へのインタビュー

第1回の学生向け基礎講座に参加いただきました立正大学の学生にインタビューを行いました!

★ Re:Earthに触ってみて、面白いと感じたところはどこですか?

- まず、好きな地図が作れるところが楽しかったです。ほかにも熊谷の地形、水害範囲が見られるところや、ピンを打って自分で説明書きを加えた地図を作って友達や家族に見せられるところも面白いと感じたところです。
- 作った地図を公開できるところがいいですね。



2 . 3 D都市モデル及びWebGIS (_Re:Earth (リアース)) の熊谷市まちづくりの中での位置づけ

3D都市モデルの概要

- 3D都市モデルデータは、行政機関が都市計画業務で用いている都市計画図に建物の高さを与えたデータとなります。（国土交通省では、都市計画デジタル化の標準的なデータ形式として、3D都市モデルの標準形式（CityGML）を用いることとしています。）
- 都市計画図のデジタル化の標準データ形式であることで、今後、建築物のデジタル情報（BIM）や各種不動産情報と連携して活用されていく見込みであり、民間も含め、早期に活用方策の普及を図り、熊谷市のまちづくりDX・不動産DXの取組みの基礎としたいと考えています。
- なお、熊谷市以外での3D都市モデルデータ整備について、現在埼玉県庁で検討中であり、今後、周辺の市町においても3D都市モデルが整備されていく見込みです。それらのデータが整備されていくことで、市町の境界についても連続した取扱いが可能となり、また近隣の各市町がお互いのデータ活用方策を共有することで、効率的にまちづくりDX・不動産DXが進められると考えます。

WebGISのRe:Earth活用方針と「市民共創型 3 DGIS（三次元地理情報）プラットフォーム」の取組みについて

- 熊谷市では、東京大学大学院情報学環渡邊英徳研究室と、株式会社ユーカリヤが共同で汎用的WebGISプラットフォームとして開発し、オープンソース・ソフトウェアとして公している『Re:Earth（リアース）』を、市民と共にデータ活用まちづくりに向かう上で活用する方針です。
- 具体的には以下のメリットがあると考えています。（令和5年10月現在）
 - Web上で利用可能であること。（インターネットに接続可能なパソコンがあれば、GISアプリやデータをダウンロードしなくても利用可能です。）
 - 個人として試用する場合、Web公表できる地図プロジェクトは一件となるが、無料で利用可能であること。
- 熊谷市では上記の特性を活かしつつ、他のチャットアプリを組み合わせることで機能を補う等の運用により、複数の方が共同で地図プロジェクトを運用したり、複数の地図プロジェクトをWeb公表できる「市民共創型 3 DGIS（三次元地理情報）プラットフォーム」の取組みを開始します。

くまっぷでの情報提供との役割分担について

- 熊谷市が市民向けに行っている『くまっぷ』の取組みも引き続き継続します。
- 『Re:Earth（リアース）』では市民の地図データへの書き込み・Web公表が可能となる点が『くまっぷ』との大きな違いとなります。
- 熊谷市では、「市役所が地図データとして作成した成果物（個人情報に関わる内容を除く）について、原則としてGISで利用可能な形で公表」する方針により、市民が利用可能なデータを増やしていきます。

容量が大きいなどの理由により市役所がWeb上で公表し続けることが難しいデータについては、くまっぷあるいはそれ以外の他のアプリケーション上での閲覧、「地理空間情報センター」での公表、ハードディスク等へのコピーによる提供などの代替手段を取らせていただく場合があります。

- 「市民の地図データへの書き込み・Web公表」を可能とするWebのサービス提供と、市役所側の上記の地図データのオープンデータ化方針により、市民のデータ活用まちづくりへの参画を促進していきます。

3 . 1 2 月 1 6 日 の 体 験 会 (ま ち づ く り の 部) の 提 供 内 容

まちづくりに関わるデータの基本ー 1

・ GISデータと統計データの基本的な理解

ア GISデータ

山や川、道路、建物などの位置や形状などを含んだデータ



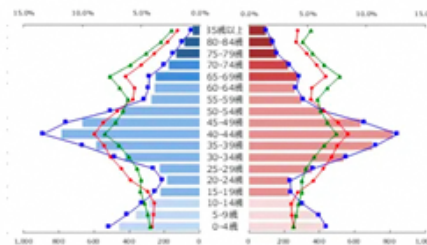
(出典 : <https://www.esri.com/gis-guide/gis-datamodel/gis-datamodel/>)

まちづくりに関わるデータの基本ー 1

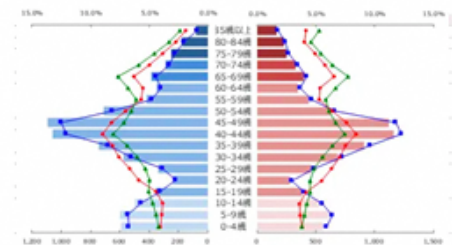
・ GISデータと統計データの基本的な理解

イ 統計データ

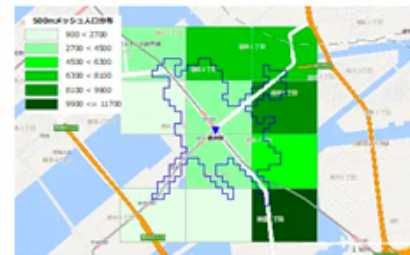
人口統計、天候、経済成長率、教育水準など



江東区豊洲周辺の人口ピラミッド（国勢調査2015年版）



江東区豊洲周辺の人口ピラミッド（人口統計マスター2018年版）



江東区豊洲周辺の人口分布（500mメッシュ単位）



江東区豊洲周辺の人口分布（125mメッシュ単位）

(出典 : <https://markezone.jp/article/detail/30980>)

まちづくりに関わるデータの基本ー 1

- ・ GISデータと統計データの基本的な理解

- GISデータと統計データの取得方法

- オープンデータとしてインターネット上に公開されている

GISデータ（地理情報システムデータ）

- ・ 「くまっぷ」熊谷市オープンデータ
- ・ ひなた GIS
- ・ 地理院タイル
- ・ G空間情報
- ・ 国土数値情報
- ・ 都市構造化可視化計画(kml)

統計データ

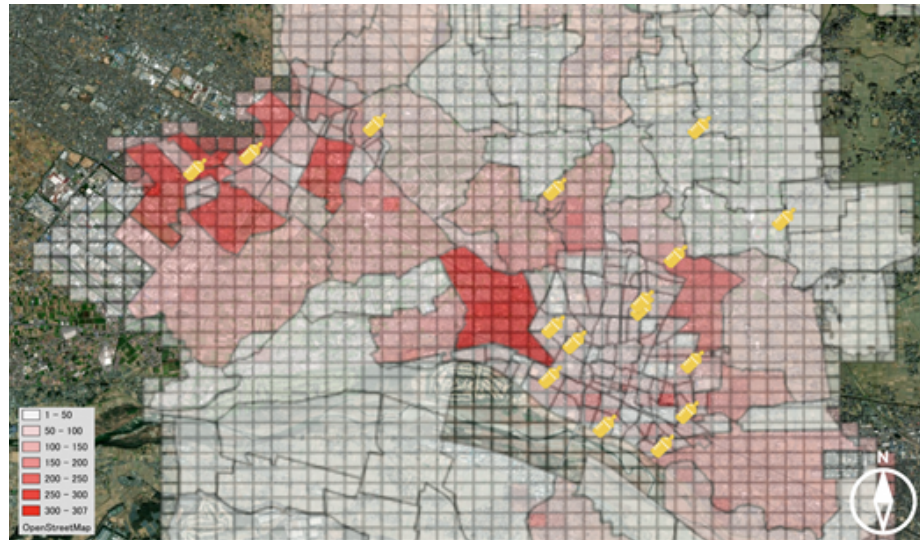
- ・ 統計データ e-Stat

まちづくりに関わるデータの基本－2

• GISデータ × 統計データの分析方法

GISデータと統計データを使って、都市計画や開発、環境保全、市場分析、公衆衛生等の分析を行うことができます。その方法としては以下の流れが一般的です。

- ア 地図を見る
- イ 地理的な関係を見つける
- ウ パターンや傾向を発見する
- エ 問題や改善点を考える



例：保育園のオープンデータ × 5歳未満の人口データ

Re:Earthプラットフォームの活用

- データセットのインポート・可視化・重ね合わせ
 - ア 滞在交流拠点データのインポート
 - イ 統計データのインポート
 - ウ 熊谷市オープンデータのインポート

「地域人財・交流拠点等 Webマップ（星川）」について

（イ）星川エリアのビジョン案づくりと今回の体験の
関わり

（ロ）（参考）益田市のひとマップ

（まちづくりの取組みとGISマップを連動させている
好事例として参照）

（ハ）12月16日以降の運用や留意点

(イ) 星川エリアのビジョン案づくりと
今回の体験の関わり

熊谷市（仮称）「地域人財・交流拠点等Webマップ（星川）」企画（案）

【企画説明】

・熊谷市内では、現在星川エリアのまちなか再生について、（仮）星川将来ビジョン編集委員会により、市内の各種団体等からの星川のイメージ等に関する聞き取りが実施されている。そのご意見も踏まえつつ、滞在交流拠点に位置付けての市民への開放などの公民連携事業が検討されているところ。

・ただし、それらの場はあくまで器であって、まちの由来を知る市民や周辺の魅力ある事業者等の存在があつてこそ、拠点として機能する。

・それらの人材（地域人財）と、新たに整備される交流拠点等（文化や景観のストックを含む）のWebマップ上での発信の試行のキックオフとして、今回の体験会を位置付ける。具体的には、今回は星川を含むまちなかウォークブルエリア（未公表）及び周辺を操作体験の対象として運営し、今後星川将来ビジョン関連プロジェクトとして、ビジョンの更新等と本件マップの整備・公開等を並走させていくことを検討する。



（参考）益田市のひとマップの事例

<https://www.city.masuda.lg.jp/soshikikarasagasu/seisakukakukyoku/renkeinomachizukurisuishinka/3/7153.html>

星川（まちなか）の賑わいを生むためには

公共（市役所）だけの取組では限界がある

公民が連携した取組が必要

公民で連携したまちづくりの「**将来ビジョン**」が必要

「将来ビジョン」作成には、市民の意見を反映させることが必要

星川関連の団体への**ワークショップ**や**ヒアリング**のほか、
地域の方や「クマぶら」を利用し、**アンケート**も実施

意見を反映し、「将来ビジョン」へ記載
併せて、タイムスケジュールを検討

タイムスケジュールで比較的短期での取組が可能なものを選択

いくつかの取組を「**ウォークابل推進事業（国庫補助）**」へ申請

国庫補助事業と併せ、事業相互のコーディネート、国庫補助事業の準備作業や補助対象とならない事業などを、市単独費の「**星川まちなか再生推進事業**」でフォローしていく

将来ビジョンに沿って、取組を順次進めていく（見直しも必要）

➤星川通線の舗装打替工事を実施し、道路用地はきれいになるが、民地側での動きがなければ賑わいは生まれない。

➤熊谷まちなか再生エリアプラットフォームが「未来ビジョン」を作成しているが、市としてのビジョンは無い。また、エリア等も異なる。

➤ヒアリング先としては、星川周辺でイベントを実施している団体のほか、小・中・高校生、大学生、商店街など、約30団体。現在も進行中。

➤意見については、現在、中間とりまとめの段階
将来ビジョンについては、作成中

➤市として取組可能なものや、熊谷まちなか再生エリアプラットフォームの「未来ビジョン」に記載された民間の取組を中心に選択

令和5年度の取組



令和4年度に策定された
「未来ビジョン」

本シートの内容は検討中のイメージです。

- Chapter 1 背景と目的
- Chapter 2 熊谷駅周辺の現状
- Chapter 3 ビジョンづくりに向けての課題・価値の整理
- Chapter 4 エリアの目指す姿**
- Chapter 5 ビジョンを実現するためのアクション

まちづくりの6つの目標

星川の未来ビジョンの実現に向けてアンケートや、ワークショップで得た意見をもとに6つの目標を設定します。

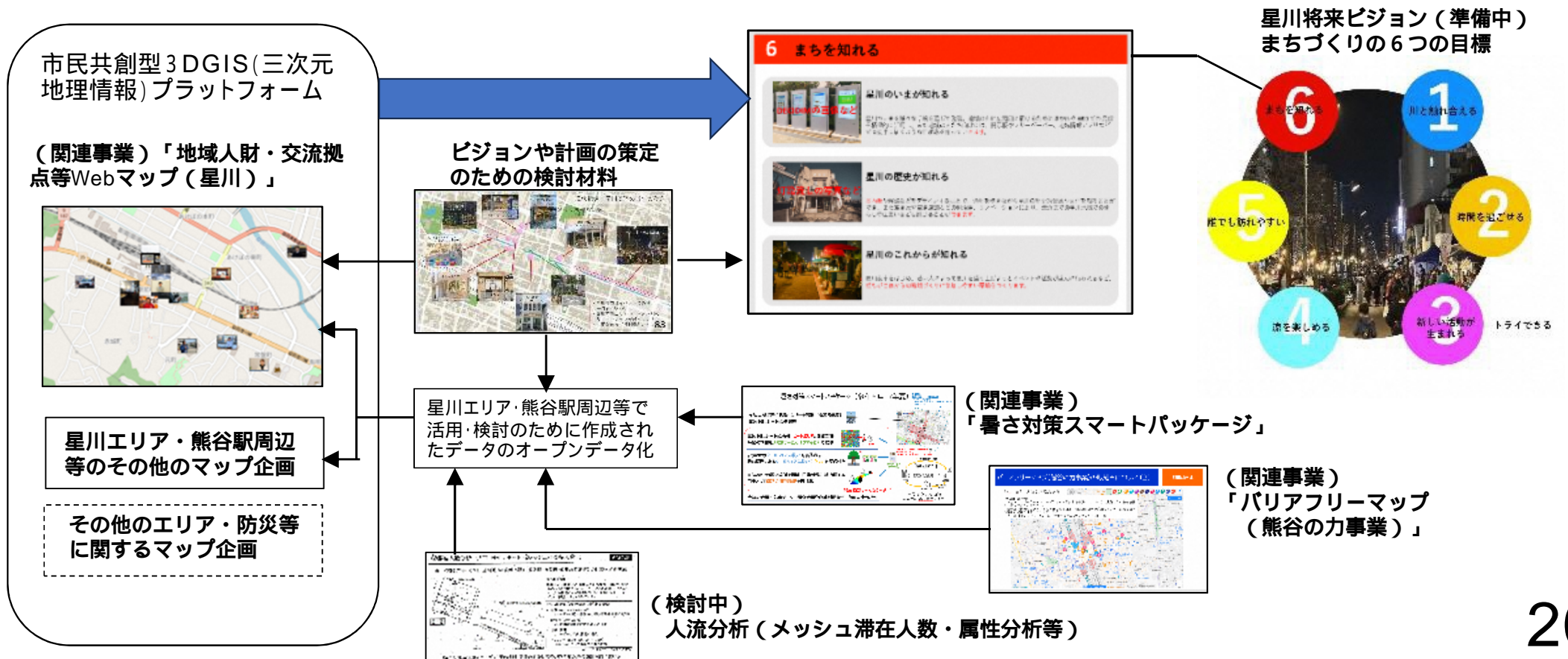


本シートの内容は検討中のイメージです。

熊谷市（仮称）「地域人財・交流拠点等Webマップ（星川）」企画（案）

【ビジョン等との関わり】

（再掲）熊谷市内では、現在星川エリアのまちなか再生について、（仮）星川将来ビジョン編集委員会により、市内の各種団体等からの星川のイメージ等に関する聞き取りが実施されている。そのご意見も踏まえつつ、滞在交流拠点に位置付けての市民への開放などの公民連携事業が検討されているところ。



(口) (参考) 益田市の「ひとマップ」

(まちづくりの取組みとGISマップを
連動させている好事例)



益田のひとマップを作成しました

いいね! シェアする ツイート

更新日：2022年08月04日

**「益田のひと」「益田の暮らし」のコンテンツを、デジタルマップ上でも
ご覧いただけます。**

ひとが育つまち益田ウェブサイトにおいて、ひとづくりや移住・定住に関する情報発信を行っています。

このたび、人と人とのつながりを創出し、関係人口及び移住・定住の促進を図ることを目的として、サイト内の「益田のひと」「益田の暮らし」のコンテンツをデジタルマップに表示した「益田のひとマップ」を開設しました。

[益田のひとマップ](#)

「益田のひとマップ」では、閲覧した方がコメントを入力したり「いいね」をつけることができます。ぜひご覧ください。

利用にあたっては、[利用規約](#)をご覧ください。

[益田市RE:earth利用規約\(PDFファイル:1.2MB\)](#)

地域の大人が対話の機会を届ける、中学校カタリ場



益田市では主に3つのパターンで年間30以上のカタリ場プログラムを実施しています。

1つ目は、地域の大人が中学生に対話の機会を届ける、中学校カタリ場です。公民館と連携して地域の大人を集め、コーディネーターが研修を行います。研修を受けた地域の大人が中学校に出張し、先輩として自分の経験を語り、対話を通じて中学生の自己理解を促していく。このプログラムによって、中学生の成長はもちろん、地域に家族以外の大人の知り合いがいなかった中学生と、これまで地域行事に参加してこなかった20代・30代の地域住民が繋がり、公民館とも繋がり、その後の地域づくりに関わる新たなコミュニティづくりにもなっています。

カタリ場をきっかけに繋がった地域を舞台に、子どもたちの活動機会をつくる



地域の大人と子どもが語り合うことで生まれた繋がりを、一過性のものにせず、地域で子どもたちが活動できる舞台づくりに繋がるように。カタリ場をきっかけに生まれた地域コミュニティをいかし、コーディネーターは多世代の想いを交差させながら、地域づくりや行事について熟議をする場のファシリテーションも行います。想いのこもった地域行事が子どもたちの活躍舞台となり、関係性が深まるほどに住民も地域の子どもの教育への関心が高まって、学校が地域に開かれていく。そんな好循環に繋がっています。

出典：益田市Webサイト



<https://masudanohito.reearth.io/>

(八) 12月16日以降の運用や留意点

○ 今後について

- 「地域人材・交流拠点等Webマップ（星川）」制作についての運用及び注意点

制作はRe:Earthのコモンワークスペース上で行います

ア コモンワークスペースのご利用について

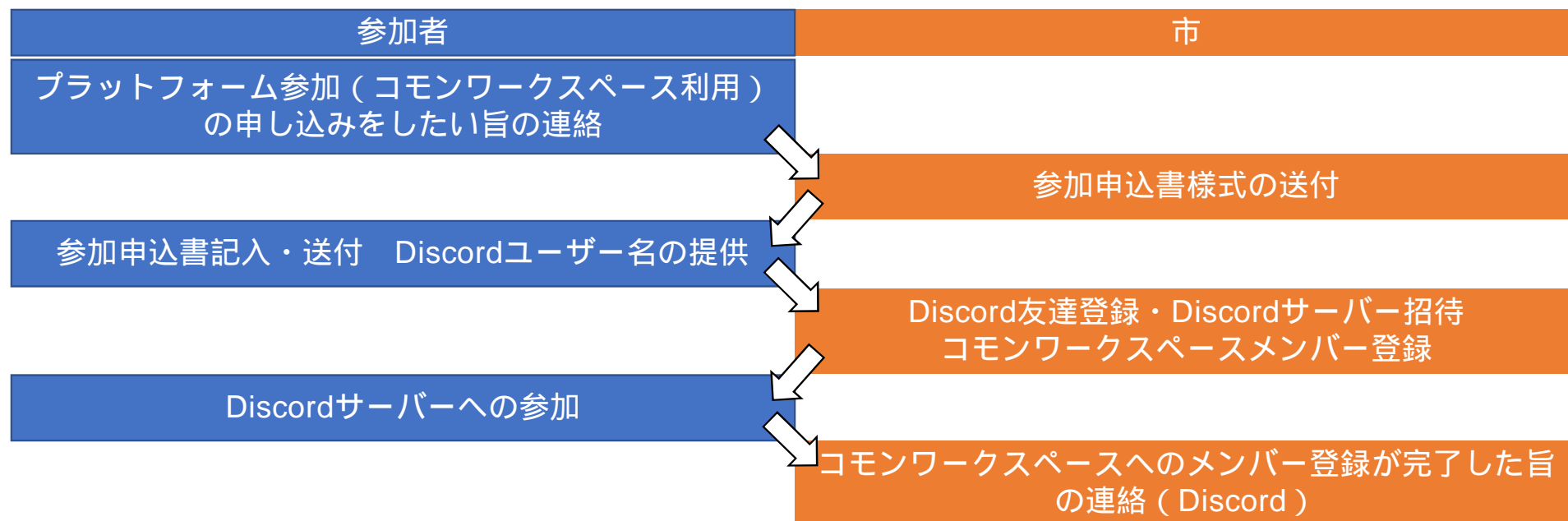
ご利用には「市民共創型3DGIS（三次元地理情報）プラットフォーム」への参加が必要です。

（このプラットフォームでは公式のコミュニケーション手段としてDiscordを採用予定です。そちらのコミュニティへの参加が、実質的なプラットフォームへの参加を意味します）

○ 今後について

- 「地域人材・交流拠点等Webマップ（星川）」制作についての運用及び注意点

ア コモンワークスペースのご利用について（申込手順・予定）



○ 今後について

- 「地域人材・交流拠点等Webマップ（星川）」制作についての運用及び注意点

イ Discordでの編集宣言について

同じプロジェクトへの編集タイミングが重なると不具合が生じてしまうため、複数人が編集する可能性のあるプロジェクトを編集する際には、Discordで編集する旨の宣言をお願いします。

4 . 具体のWebGIS (_Re:Earth (リアース)) 操作

インプットするデータその CSVデータ

データ入手後、Re:Earthにインプットする前に行うこと 例として、熊谷市オープンデータを用いる場合を示す。

- オープンデータをCSVでダウンロード
- 緯度をlatに、経度をlngに書き換え
- 項目を左から、施設名称、lat、lngの順に並べる
- データの数量調整

大量（100件以上）のcsvをインポートするとサーバーに負荷がかかり、Re:Earthの動作が著しく低下する可能性がありますので、お控えください。

- データセットのインポートからCSVファイルをインポートして下さい。

施設名称	住所	電話番号	lat	lng	リンク先URL
熊谷図書館	熊谷市桜木町2丁目33番地2	048-525-4551	36.1371242389259	139.38670318268	http://www
大風図書館	熊谷市津田1番地1	0493-36-1126	36.1031934797604	139.411082869103	http://www
妻沼図書館	熊谷市妻沼東1丁目1番地	048-588-6878	36.2230204174005	139.381954409169	http://www
江南図書館	熊谷市千代325番地1	048-536-6303	36.1177815577575	139.333711696327	http://www
文化会館	熊谷市桜木町2丁目33番地2	048-525-4553	36.1369597149197	139.387005428888	http://www
熊谷文化創造館「さくらめいと」	熊谷市拾六間111番地1	048-532-0002	36.1660722910979	139.327802735237	http://www
春日文化センター	熊谷市小八林103番地7	0493-39-0234	36.0767327805101	139.426581196477	
長島記念館	熊谷市小八林1022番地	0493-39-2025	36.0795614344335	139.436976843343	
井田記念館	熊谷市妻沼1706番地1		36.222652421242	139.376895390245	
市民ギャラリー	熊谷市桜木町二丁目33番地2	048-525-4553 (文化会館)	36.13695971493	139.387005431665	http://www
妻沼展示館	熊谷市妻沼東1丁目1番地	048-567-0355	36.223087417744	139.381297407362	http://www
プラネタリウム館	熊谷市桜木町2丁目33番地2	048-525-4554	36.1371242397544	139.386703182974	http://www
星溪園	熊谷市鎌倉町32番地	048-522-9389	36.1445715036763	139.381253967302	http://www
熊谷市ムサシミヨ保護センター	熊谷市久下2148番地		36.1317464352401	139.396247155616	http://www
コミュニティセンター	熊谷市本町一丁目9番地1	048-523-9941	36.1460235002548	139.383994985353	http://www
市民活動支援センター	熊谷市曙町五丁目67番地	048-522-1592	36.1367954931792	139.396040981316	http://www
大里コミュニティセンター	熊谷市中曾根640番地1	0493-39-2602	36.103023482548	139.409207861444	http://www
大里ふれあいセンター	熊谷市船台3丁目4番地4	0493-39-0177	36.0775564662282	139.41755477169	http://www
大里生涯学習センター「あすねっと」	熊谷市津田1番地1	0493-36-1122	36.1030125397698	139.411078468205	http://www
江南総合文化会館「ピピア」	熊谷市千代325番地1	048-536-6262	36.1177875577616	139.333864696587	http://www
江南コミュニティセンター	熊谷市成沢1138番地1	048-536-1522	36.1152595530464	139.352255721176	http://www
江南第二コミュニティセンター	熊谷市千代293番地10	048-536-1522	36.1199235566178	139.33185270313	http://www

インプットするデータその CSVデータ

CSVインポートのやり方

- CSVデータを一括登録します。
- 編集画面でデータセットタブを選択し、青いデータセットを追加ボタンをクリックし、用意したCSVを追加



インプットするデータその CSVデータ

CSVインポートのやり方

- 左パネルに追加された新規ファイルをクリックすると、右パネルにデータの内容が表示されます
- [レイヤータイプ]のプルダウンをクリックし、今回は[Marker]を選択。
ここで、選択するものを変えると地図上での表現が変わります。
- [インポート]をクリック

CSVインポートは以上で完了です。



インプットするデータその CSVデータ

アイコンを画像に変更する

- 左パネルのレイヤーでデータセット全体を選択します
- 右パネルの[画像URL]欄の未設定になっている部分をクリックします



インプットするデータその CSVデータ

アイコンを画像に変更する

- アイコンにしたい任意の画像をアップロードして選択したのち、下の[選択]ボタンをクリックで、アイコンの画像を変更できます



インプットするデータその CSVデータ

ベースマップを変更する

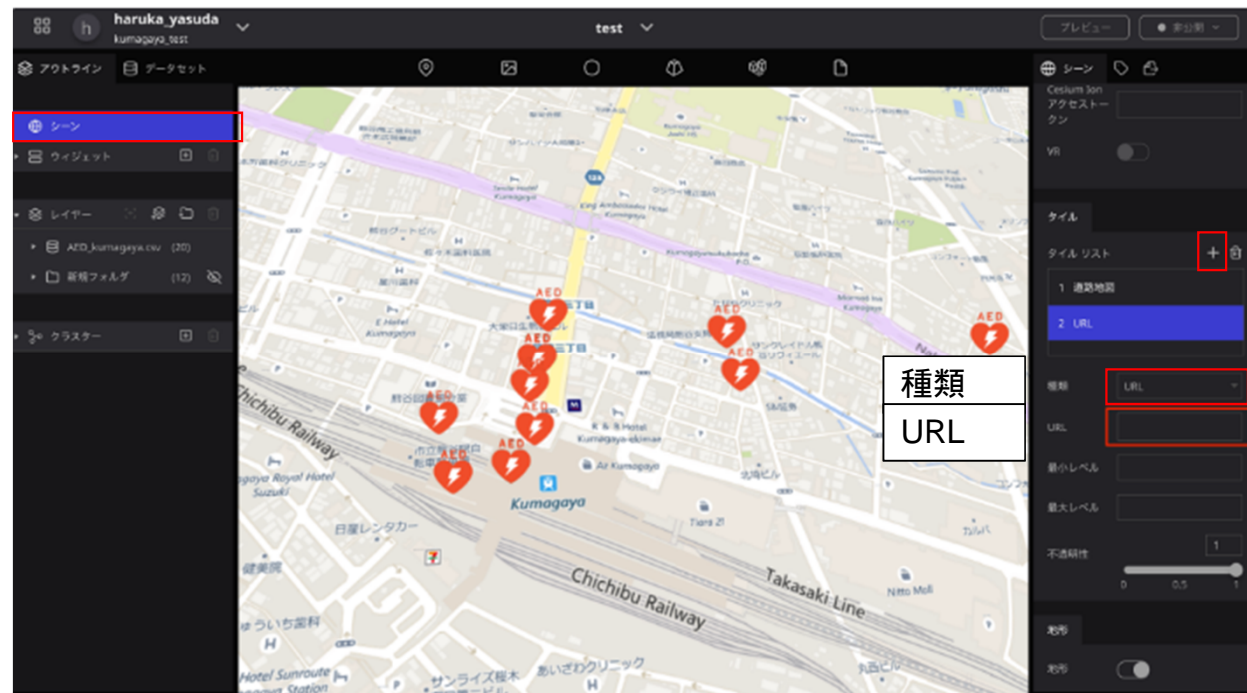
- 背景が衛星画像で見づらい場合はベースマップの変更を試みましょう。
- [シーン]を選択 [1 デフォルト]をクリック
- [種類]の[デフォルト]をクリックする
- 道路地図に変更すると画像のように反映されました



インプットするデータその 統計データ

人口統計データ

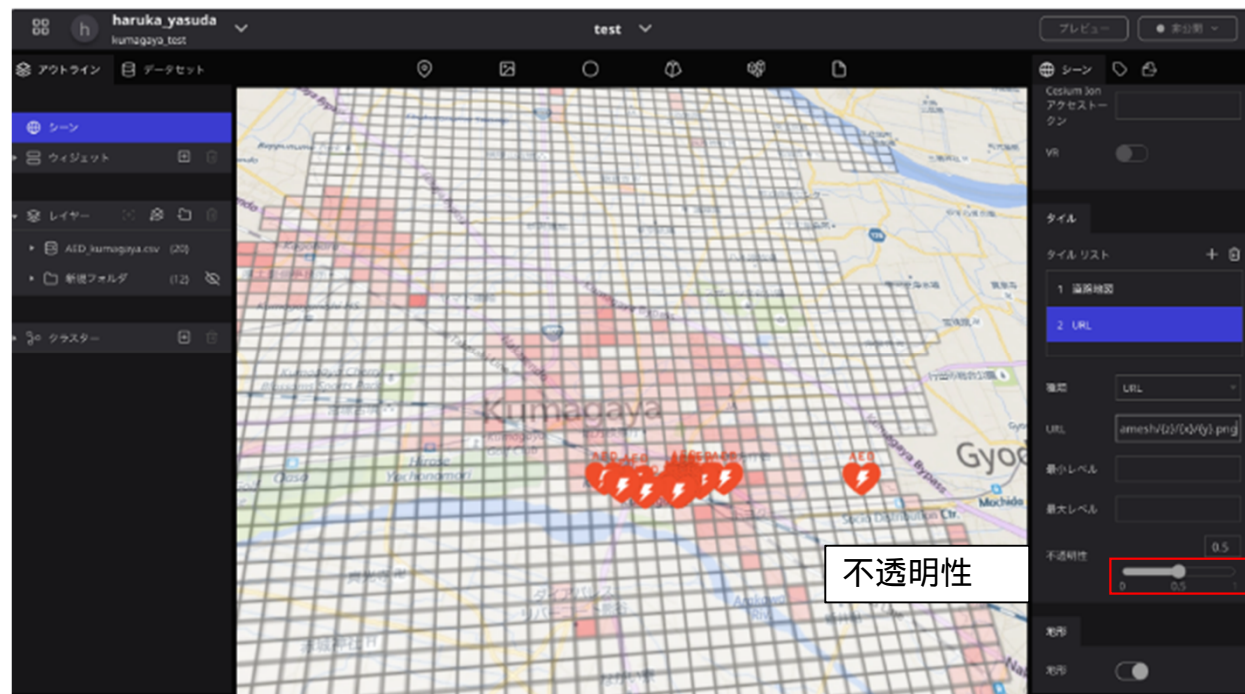
- まず左パネルの[シーン]をクリックし、右パネルの[タイル]から+マークをクリックします
- [種類]欄で[URL]を選択します
- [URL]欄に下記URLを入力します。
以下のURLは Re:Earthに貼り付ける目的で作成されています。Webブラウザでアクセスしても正しくページを開くことはできません。
- 熊谷市全域メッシュデータ
<https://bufoyama.github.io/Kumagayashi/kumagayamesh/{z}/{x}/{y}.png>
- 熊谷市全域ポリゴンデータ
<https://bufoyama.github.io/Kumagayashi/kumagaya/{z}/{x}/{y}.png>



インプットするデータその 統計データ

人口統計データ

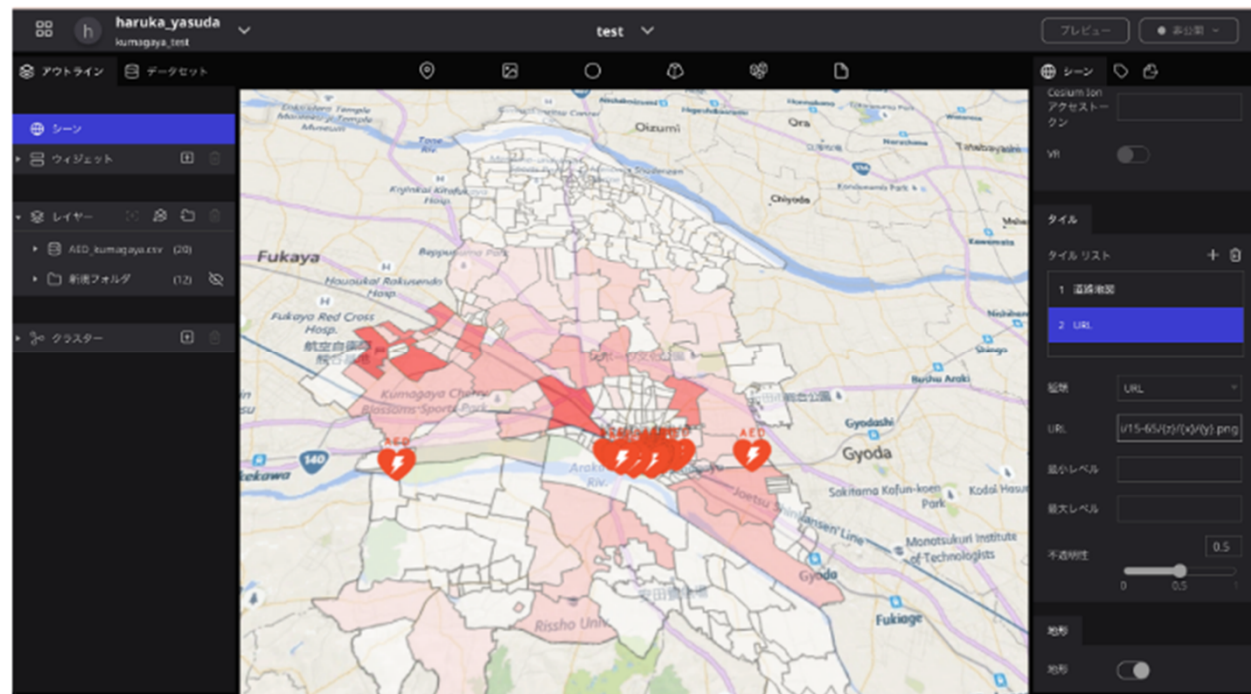
- メッシュデータの場合は画像のように表示されます。
- [不透明性]の項目の数値を編集、またはバーを操作すると透明度が編集できます。背景のマップを薄く見たい場合は編集することをお勧めします。



インプットするデータその 統計データ

人口統計データ

- ポリゴンデータは画像のように表示されます。
- これでオープンデータに人口統計データを重ねることができました。



5 . 參考資料

○ Re:Earthで可能な地図表現

- ・ 既存のRe:Earthでできる表現の紹介
ア マーカー（地図上のピン）での表現

～人の顔をアイコンで表示～



【やり方】

- 1．画像を丸くトリミング
- 2．背景を透過しpng形式で保存
- 3．アイコンの画像を変更

【活用案】

- ・ まちなかのキーマンの活動場所や出没場所を表示
- ・ まちなかの自分のお気に入りの場所にピンを打ってもらう
- ・ 店長さんの顔を見せて利用者が立ち寄りやすくする

○ Re:Earthで可能な地図表現

・ 既存のRe:Earthでできる表現の紹介

ア マーカー（地図上のピン）での表現

～ 文字だけ浮き上がらせる～



【やり方】

1. 文字の画像を作成
2. 文字以外の背景を透過しpng形式で保存
3. アイコンの画像を変更

【活用案】

- ・ その場所で「できる」ことや「売り」を端的に表示
- ・ 場所の利用者の感想を短く表示
- ・ 場所にちなんだクイズなどを掲載してイベント化

○ Re:Earthで可能な地図表現

・ 既存のRe:Earthでできる表現の紹介

イ その他 その1

機能	内容	活用案
ボタン機能	ボタンに外部リンクのURLを設定して、関連するサイトへ誘導できる。	各施設やお店のHPなどへ誘導する。
カメラ	特定のボタンをクリックすると、指定したカメラ位置へ移動することができる。	地図の範囲を指定（西の核ゾーン・中央ゾーンなど）して関心のある部分に移動しやすくする。
他の Re:Earth プロジェクトへのリンク	ボタン（他プロジェクトURLが貼られている）を押すことにより他のプロジェクトに移動ができる。	コモンワークスペースの複数のプロジェクト間で（それぞれのプロジェクト合意のもとで）連携がとりやすくなる。
ストーリーテリング機能	見せたい順序に合わせて表示をすることができる。	まちなかのイベントの概要説明など

○ Re:Earthで可能な地図表現

・ 既存のRe:Earthでできる表現の紹介

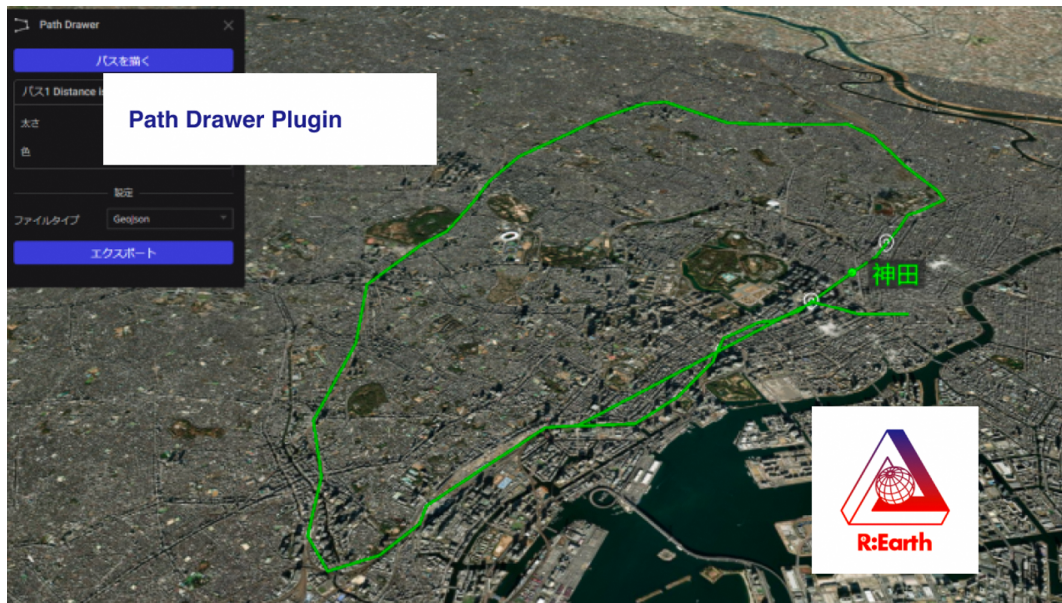
イ その他 その2

機能	内容	活用案
フォトオーバーレイ機能	写真を重ねて表示することができる。	昔と今の星川の写真を重ねて比べる。マップの目的や概要を表示する。
スプラッシュスクリーン	Re:EarthのURLを開いたときに出てくる画面。一般的には画像を挿入する。	まちづくりに興味を持っていただける画像を配置する（GIF動画を配置することも可能）。
3Dモデル	ネット上で取得または作成した3Dモデルを表示する。	建物や植物などの3Dモデルによって、景観や日よけなどのイメージをしやすくする。

○ Re:Earthで可能な地図表現

・プラグインでできることの紹介

ア 地図上に線を引く【Path Drawer Plugin】



【使い方】

マーケットプレイスから無料で利用可能

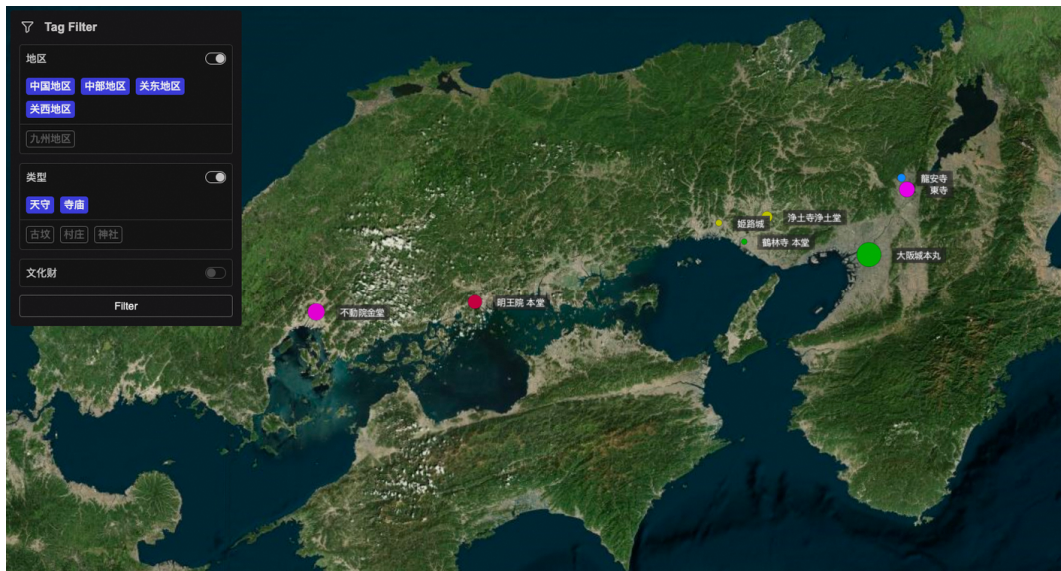
【活用案】

- ・暑さ対策スマートパッケージの範囲の表示
- ・グリスロの稼働範囲の表示
- ・まちなかでイベントをやっている範囲の表示

○ Re:Earthで可能な地図表現

・プラグインでできることの紹介

イ マーカーにタグをつける【Tag Filter プラグイン】



【使い方】

マーケットプレイスから無料で利用可能

条件に一致するレイヤーを絞り込んで表示することができる、フィルターの機能を果たすプラグイン

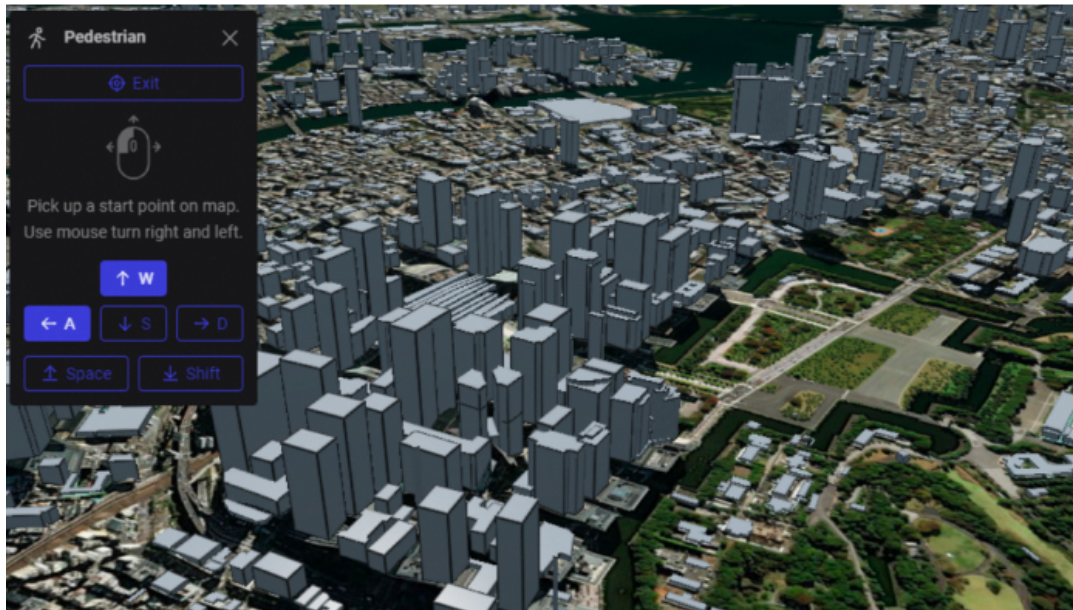
【活用案】

・施設ごとに属性（交流広場、店舗、駐車場、公園など？）を設定して、利用者が絞り込みにより使いやすいようにする。

○ Re:Earthで可能な地図表現

・プラグインでできることの紹介

ウ 歩行者目線で Re:Earth上を歩ける【Pedestrian Plugin】



【使い方】

マーケットプレイスから無料で利用可能
キーボード及びマウス操作でカメラを操作し、3D地図上を移動することができる。

【活用案】

- ・利用者にまちなかのイメージをダイレクトに伝えられる。
- ・マップ作成者にとっても、まちなかの課題発見（経路の検討、広さの感覚、視界など）につながる可能性がある。

○ Re:Earthで可能な地図表現

- ・ プラグインでできることの紹介
- エ その他 その1

プラグイン	機能	活用案
東京ドームと大きさを比較する	東京ドームの3Dモデルを並べるもの(無料)	
ポイントや画像、3Dモデルを動かす	指定した地点間を移動するアニメーションを作成するもの(無料)	グリッドをマップ上で動かす。
視野領域を可視化する	マップで選択した地点に視野領域を示すオブジェクトを配置するもの(無料)	交差点の視認性の再現(誘導したい星溪園までのルート上の危険な場所の洗い出しなど)
3Dモデルの色を変える	複数の条件の設定で3D都市モデルの色分けなどをノーコードで行うことができるもの(無料)	まちなかの建物を高さごとに色分けができる。「ある位置(座標)よりも北に配置された建物」などの色分けができる。
レイヤーをCSVエクスポートする	レイヤー情報をファイルに出力するもの(無料)	共通ワークスペースで、ベースとなるマップを作製した後、そのレイヤー情報をエクスポートして、他のプロジェクトで活用する。

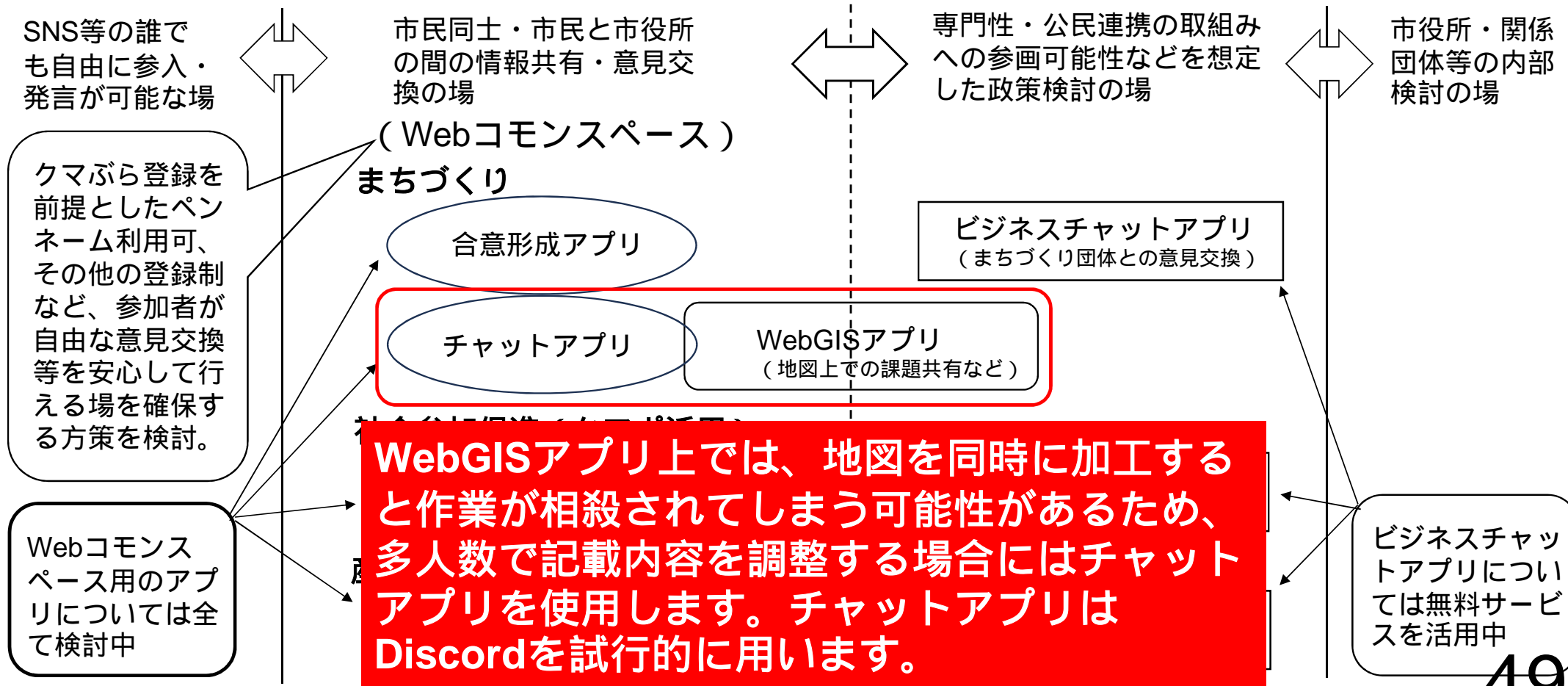
○ Re:Earthで可能な地図表現

- ・ プラグインでできることの紹介
- エ その他 その2

プラグイン	機能	活用案
Re:Earth上で距離を測る	Re:Earth上で距離を測るもの（無料）	まちなかの施設ごとの距離を測ることで、徒歩で続けて利用いただけるか、交通手段の検討が必要かを考えることができる。
場所検索	名前から場所を検索したり、その逆をしたりするもの（無料）	マップ上の施設等が増えてきた際に、利用者が目的の施設が探しやすい。初めて星川周辺を訪れる方に便利（星溪園という単語だけ知っているような方）
コメント・いいね機能	閲覧した人がコメントを加えられるもの（益田市の例。Eukaryaが独自に作成したもの）	市民のまちづくり参加へのきっかけにする。利用者のリアルタイムの感想が反映されることで、マップ内の情報の鮮度や詳細さも向上する。
表示・非表示切り替え	建物の表示・非表示の切り替えを行うことができるもの（Eukaryaが独自に作成したもの）	取り壊しが決まった建物のその後の景観を取り壊し前に想定できる。

(参考) Webコミュニケーションツール等の活用について(案)

まちづくり、社会参加促進(クマポ活用)、産業創造(データ活用)等の分野における、公民連携や民間主導の取組みを促進するためWeb上の情報共有・意見交換の場(Webコモンスペース)の設定を積極的に検討。



取組内容

以下を総合的に市民に提供することで、「発信や提案」「二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現」が容易になっていることの普及を図ると共に、実践を促進します。

(1) レベル・関心に応じたガイド・テキストの公開

基礎講座資料・動画の公開

ワークショップ資料

基礎講座当日に使用した資料を公開しています。

[第1・2回基礎講座資料 \(PDF: 65,269KB\)](#)

アーカイブ動画

基礎講座の講師音声付き操作画面動画をYoutubeに限定公開しています。

<https://youtu.be/CMNOVTedps0> (外部サイト)


(出典)


https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/plateau/3dws_kiso.html

(参考) トップページからのリンクのたどり方

1. トップページ
2. 熊谷スマートシティ
3. 3D都市モデルオープンデータ化プロジェクト「PLATEAU(プラトール)」
4. 3D都市モデル市民ワークショップ(基礎講座)

市役所内での職員を講師とした研修資料の公開

 **Re:Earth画面**

 **3D都市モデルデータと荒川洪水浸水想定区域データを重ね合わせたもの**

[リアース+3D都市モデル活用講習会マニュアル \(PDF: 4,646KB\)](#)

[講習会テキストファイル \(テキストファイル: 1KB\)](#)

「リアース+3D都市モデル活用講習会マニュアル」では、Project PLATEAUの紹介をはじめ、3D都市モデルデータの利活用事例の紹介。Re:Earthを活用した3D都市モデルデータと荒川洪水浸水区域データの重ね合わせによる浸水シミュレーションを行う場合の操作方法を説明しています。また、「講習会テキストファイル」では、熊谷市3D都市モデルデータ、荒川洪水浸水想定区域データが保存されているURLを紹介しています。

(出典)

<https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/plateau/3dsyokuinkosyu.html>

(参考) トップページからのリンクのたどり方

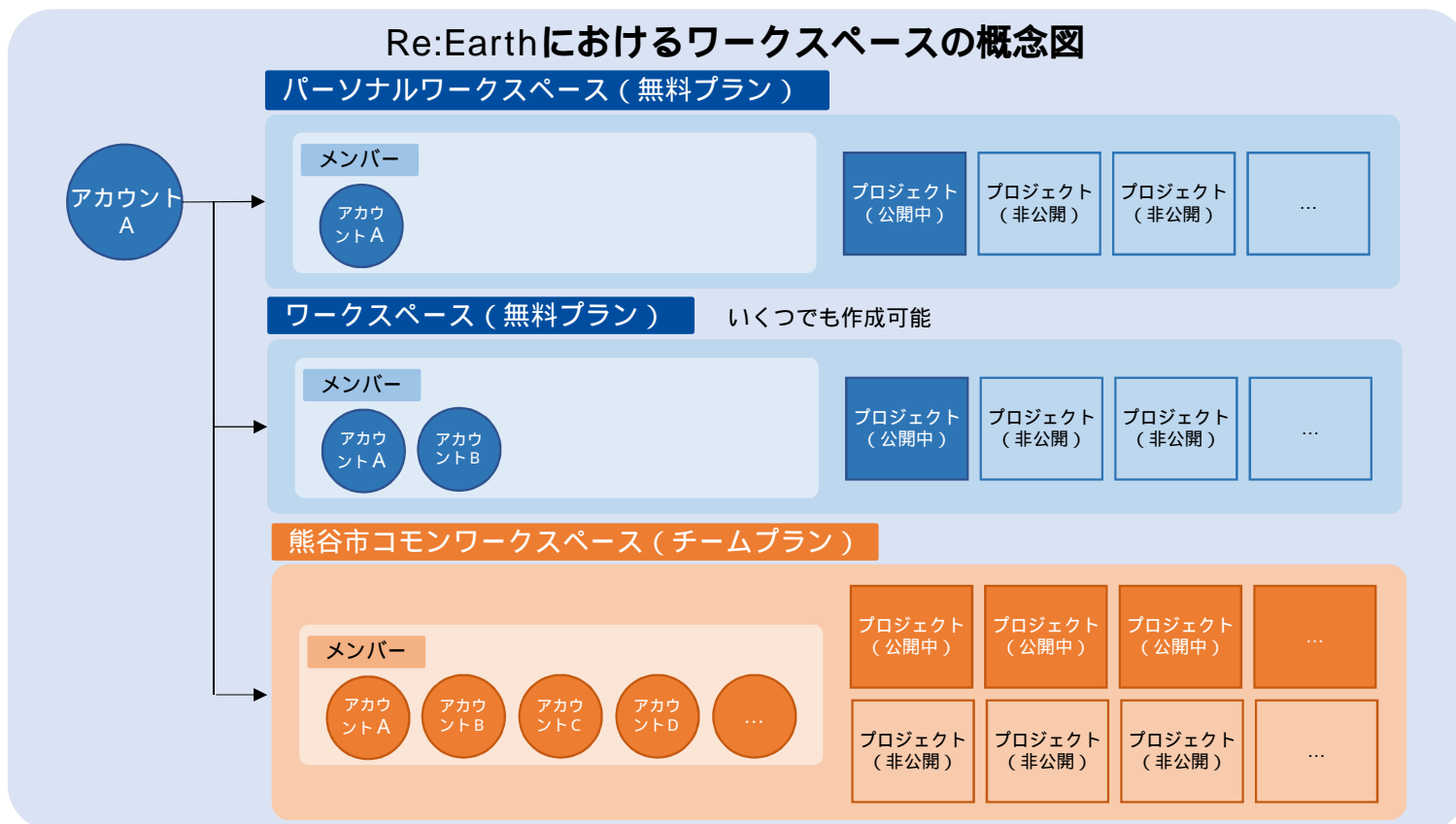
1. トップページ
2. 熊谷スマートシティ
3. 3D都市モデルオープンデータ化プロジェクト「PLATEAU(プラトール)」
4. 3D都市モデルを活用した市職員向け講習会

(2) Web上で自由に使える作業の場(コモンワークスペース)の提供【準備中】

市役所には氏名とメールアドレスを登録いただく会員制を想定。(無償)

(他のメンバーのプロジェクトのデータを無断で加工しない等の会員規約に同意いただくことを想定。)

Re:Earthにおけるワークスペースの概念図



ワークスペースの主な違い

	メンバー (人)	公開 プロジェクト (個)
パーソナル ワークスペース	1	1
ワークスペース	2	1
熊谷市コモン ワークスペース	無制限	無制限

(注1)

Re:Earth(リアース)にはワークスペースと呼ばれる作業空間があり、プロジェクト(地図)はそれぞれワークスペース内に作成することとなります。

(注2)

ワークスペースは、そのメンバーとなることでプロジェクトの参照や編集が可能となります。

・ **コモンワークスペースの設置目的について**

コモンワークスペースは会員となった市民に以下のメリットを提供し、「発信や提案」「二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現」が容易になっていることを実感いただくと共に、公民連携により「仮のアイデアや仮の計画の共有・修正のスピードの向上」などが図られることを目的として熊谷市役所がWeb上でリアースの共有ワークスペースを提供するものです。

○ **Web上に複数の地図が公表可能**

- ・ リアースについて、提供元のユーカリヤ社は個人アカウントでの無償体験を提供していますが、その場合、公表できる地図は1件のみとなります。
- ・ コモンワークスペースを利用いただくことにより、複数の地図を比較しながらの議論等も容易になります。

○ **他のコモンスペース参加者との連携が容易**

- ・ 参加者は、他のメンバーのプロジェクトのデータを無断で加工しない等の会員規約に同意いただいています。逆に、合意があれば、共同で地図の加工に当たっていただけます。
- ・ 通常のワークスペースと異なりメンバーは無制限となっておりますので、共同編集する人数に制限なくご利用いただけます。
- ・ 匿名でも活動することは可能ですが、氏名・メールアドレスを市役所に登録いただき、規約に従っていただけない場合は退会する措置を取りますので、安心して活動していただくことが可能です。
- ・ 参加者同士のコミュニティとしては、Discordにおいて、招待制のサーバーを設置することを検討中です。

(3) 市役所の各種取組で作成されたデータの利用しやすい形での提供【準備中】

- ・スマートシティやまちづくりの取り組みに際して作成されたデータ(現時点では検討用に作成された二次元データなどを想定)について、幅広い活用を促進すべく整理を行う予定。
- ・その一環として、熊谷市役所のスマートシティ及び公民連携まちづくりの取り組みにおいて地図系データが作成される場合には、市民参加型WebGISとして利用する想定「リアース」で取り扱えるデータ形式の整備を原則とする予定。(WebGIS側での読み取りを可能とするプラグイン開発も同等の対応とみなす予定。)

(4) 市民向け講習会の提供・関係行事等の情報提供

- ・令和5年度は大学生、社会人向け基礎講座の他、防災、まちづくり、景観・環境をテーマに体験会を開催(一部は予定)。
- ・令和6年度は社会人向け防災テーマの体験会、高校生向けまちづくりテーマの体験会を検討中。(民間団体との研究会等についても検討中)
- ・その他、リアースのベンダーの開催する講習会、他自治体での取組事例の紹介、国の3D都市モデル関係者等が開催する各種行事の情報等を提供予定。

やさしい未来



発見都市 熊谷



<https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/index.html>



利用登録はこちらの
熊谷市公式LINEから

■ 「クマぶら」の入手方法

1 熊谷市
公式LINEを
友達登録



2 続けて
「クマぶら」の
登録をするだけ



3D都市モデルのまちづくりへの活用について (景観・環境まちづくり体験会の内容を含む)

1. 本年度市役所が提供する3D都市モデル体験会の中での3月2日の回の位置づけ
2. 3D都市モデル及びWebGIS (_Re:Earth (リアース)) の熊谷市まちづくりの中での位置づけ
3. 3月2日の体験会 (景観・環境) の提供内容 (概要)
 - まちなかの暑いエリアマップを作ろう
 - 日陰の形成・オープンカフェの設置をしよう (3Dモデルの配置)
 - 自分が作った地図を歩行者目線で見よう (景観シミュレーション)
4. 具体のWebGIS (_Re:Earth (リアース)) 操作について
5. Re:Earthで可能な地図表現の紹介
6. Re:Earthの機能上の注意点 (更新日現在)
7. 市民共創型3DGIS (三次元地理情報) プラットフォームについて

1 . 本年度市役所が提供する3D都市モデル体験会
の中での3月2日の回の位置づけ

3D都市モデル体験会の状況について(1)

政策調査課

取組概要

Re:Earth (リアース) を使い、デジタル立体地図を活用した中心市街地のまちづくりや防災・減災についての市民ワークショップを開催します。

Re:Earthとは

インターネット上にて利用可能な地理情報システム (WebGIS) であり、国土交通省が進める3D都市モデルプロジェクトPLATEAU (プラトー) データ対応のオープンソースソフトウェア。

アカウント発行 (無料) すれば誰でも利用でき、地図の作製や更新・公開設定などで難しいプログラミングを行う必要がないことが特長。

スケジュール



回	日時	内容	場所	対象
第1回	令和5年9月22日 (金) 14:30 ~ 16:00	Re:Earth基礎講座	立正大学熊谷キャンパスPCルーム	立正大学学生
第2回	令和5年9月30日 (土) 10:30 ~ 12:00	Re:Earth基礎講座	立正大学熊谷キャンパスPCルーム	防災関係団体 まちづくり関係団体
第3回	令和5年11月18日 (土) 10:30 ~ 12:00	浸水シミュレーションを活用した防災・減災体験会	熊谷市役所本庁舎6階603会議室東	防災関係団体
第4回	令和5年12月16日 (土) 10:30 ~ 12:00	まちづくりマップ作製体験会	熊谷市役所本庁舎3階303会議室	まちづくり関係団体
第5回	令和6年3月2日 (土) 10:30 ~ 12:00	景観・環境まちづくり体験会	熊谷市役所本庁舎6階603会議室東	まちづくり関係団体

3D都市モデル体験会の状況について(2)

政策調査課

市民向け基礎講座の様子 (R5年10月30日Web掲載情報)



基礎講座 (学生向け)



基礎講座 (防災・まちづくり関係者向け)

(注) 大人数の受講のため、以下画像は立正大学熊谷キャンパスのコンピュータールームをお借りして開催していますが、ご自宅や職場のパソコン・回線での利用も可能です。

(出典) https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/plateau/3dws_kiso.html

(参考) トップページからのリンクのたどり方

1. トップページ
2. 熊谷スマートシティ
3. 3D都市モデルオープンデータ化プロジェクト「PLATEAU (プラトー)」
4. 3D都市モデル市民ワークショップ (基礎講座)

参加者へのインタビュー

第1回の学生向け基礎講座に参加いただきました立正大学の学生にインタビューを行いました!

★ Re:Earthに触ってみて、面白いと感じたところはどこですか?

- まず、好きな地図が作れるところが楽しかったです。ほかにも熊谷の地形、水害範囲が見られるところや、ピンを打って自分で説明書きを加えた地図を作って友達や家族に見せられるところも面白いと感じたところです。
- 作った地図を公開できるところがいいですね。



2 . 3 D都市モデル及びWebGIS (_Re:Earth (リアース)) の熊谷市まちづくりの中での位置づけ

3D都市モデルの概要

- 3D都市モデルデータは、行政機関が都市計画業務で用いている都市計画図に建物の高さを与えたデータとなります。（国土交通省では、都市計画デジタル化の標準的なデータ形式として、3D都市モデルの標準形式（CityGML）を用いることとしています。）
- 都市計画図のデジタル化の標準データ形式であることで、今後、建築物のデジタル情報（BIM）や各種不動産情報と連携して活用されていく見込みであり、民間も含め、早期に活用方策の普及を図り、熊谷市のまちづくりDX・不動産DXの取組みの基礎としたいと考えています。
- なお、熊谷市以外での3D都市モデルデータ整備について、現在埼玉県庁で検討中であり、今後、周辺の市町においても3D都市モデルが整備されていく見込みです。それらのデータが整備されていくことで、市町の境界についても連続した取扱いが可能となり、また近隣の各市町がお互いのデータ活用方策を共有することで、効率的にまちづくりDX・不動産DXが進められると考えます。

WebGISのRe:Earth活用方針と「市民共創型 3 DGIS (三次元地理情報)プラットフォーム」の取組みについて

- 熊谷市では、東京大学大学院情報学環渡邊英徳研究室と、株式会社ユーカリヤが共同で汎用的WebGISプラットフォームとして開発し、オープンソース・ソフトウェアとして公している『Re:Earth (リアース)』を、市民と共にデータ活用まちづくりに向かう上で活用する方針です。
- 具体的には以下のメリットがあると考えています。(令和5年10月現在)
Web上で利用可能であること。(インターネットに接続可能なパソコンがあれば、GISアプリやデータをダウンロードしなくても利用可能です。)
個人として試用する場合、Web公表できる地図プロジェクトは一件となるが、無料で利用可能であること。
- 熊谷市では上記の特性を活かしつつ、他のチャットアプリを組み合わせることで機能を補う等の運用により、複数の方が共同で地図プロジェクトを運用したり、複数の地図プロジェクトをWeb公表できる「市民共創型 3 DGIS (三次元地理情報)プラットフォーム」の取組みを開始します。

くまっぷでの情報提供との役割分担について

- 熊谷市が市民向けに行っている『くまっぷ』の取組みも引き続き継続します。
- 『Re:Earth（リアース）』では市民の地図データへの書き込み・Web公表が可能となる点が『くまっぷ』との大きな違いとなります。
- 熊谷市では、「市役所が地図データとして作成した成果物（個人情報に関わる内容を除く）について、原則としてGISで利用可能な形で公表」する方針により、市民が利用可能なデータを増やしていきます。

容量が大きいなどの理由により市役所がWeb上で公表し続けることが難しいデータについては、くまっぷあるいはそれ以外の他のアプリケーション上での閲覧、「地理空間情報センター」での公表、ハードディスク等へのコピーによる提供などの代替手段を取らせていただく場合があります。

- 「市民の地図データへの書き込み・Web公表」を可能とするWebのサービス提供と、市役所側の上記の地図データのオープンデータ化方針により、市民のデータ活用まちづくりへの参画を促進していきます。

3 . 3月2日の体験会（景観・環境まちづくり） の提供内容

まちなかの暑いエリアマップを作ろう

「風・温熱環境シミュレーションデータ」と「クールシェアスポット」のデータを重ね合わせる。

では環境に応じて、3Dモデルを配置し日陰形成やオープンカフェ設置を行うので、このマップが暑い・比較的涼しいなどの環境を示すベースマップとなる。

レイヤーの表示・非表示プラグインを活用し「風・温熱環境シミュレーションデータ」が持つ3つの時間帯のデータを参加者が選択し表示・非表示の切り替えができるようにする。



地表面に半透明にした
風・温熱環境シミュレーション
画像を重ねて表示

雪の結晶アイコンはクール
シェアスポットの位置



左上のプラグイン画面の拡大表示

< 参考 > 風・温熱環境シミュレーションの概要

ミサワ総研担当者に作成依頼中（～2/7）

今の記述は市側担当のメモ程度（内容が正確とは限らない）

WBGT（熱中症指標 = 暑さ）の高低を配色のグラデーションで表した画像

熊谷市の夏季の標準的な気象条件であった2023年8月24日を代表日として、風向きと時間帯が変わった場合どうなるかをシミュレーションしたもの

時間帯3種類（8時、12時、17時）と風向8方位（北・北東・東・・・）の3×8で24パターンのシミュレーション結果がある

風の強さ、雲の多さ、湿度、などの変化は考慮されていないため、あくまで赤色の箇所は緑色の箇所よりも高温の傾向があるといった、相対的な分布を読み取ることにしか使えない

降雨時などの極端な気象条件ではその傾向も崩れる

・シミュレーションソフト：FlowDesigner

・採用した指標：WBGT（推定値）

放射熱温度と相対湿度、日射積算量を掛け合わせて算出？

単なる気温ではなく、複数の指標を考慮した値となっているため、より高度な指標である。

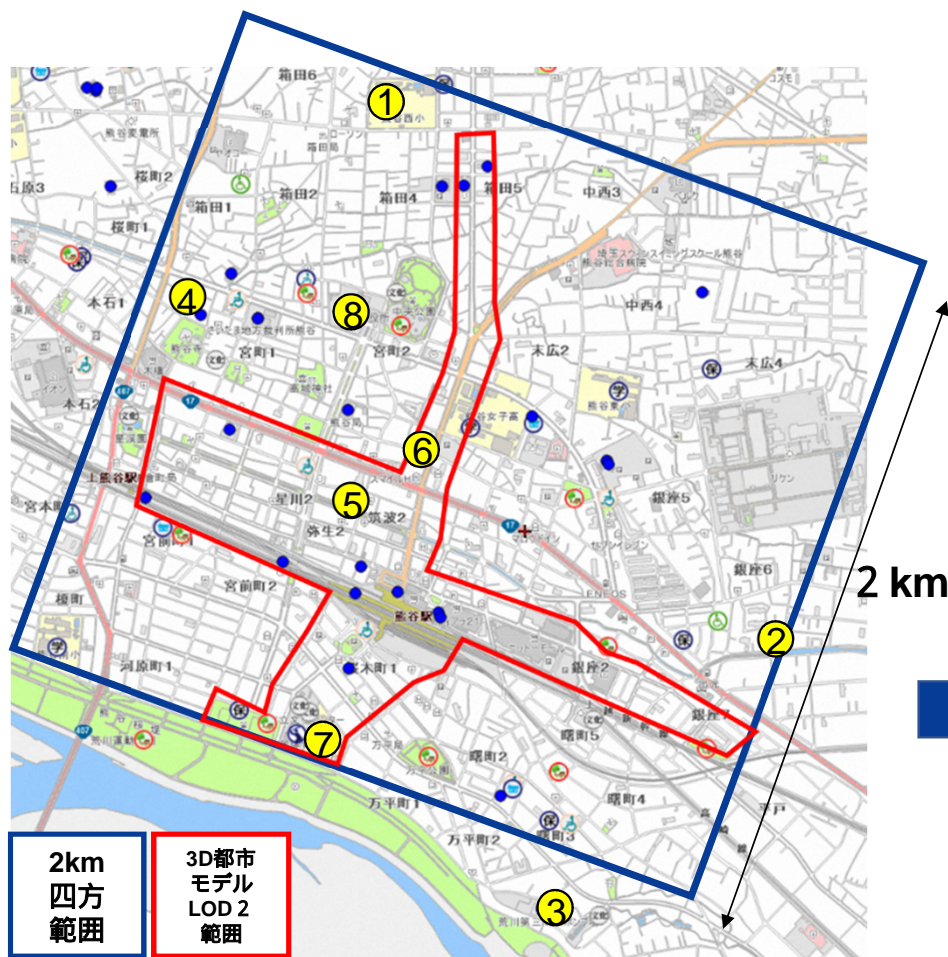
ただし、環境省・気象庁の発表する熱中症指標のWBGTとは算出式が異なる。（WBGT値は実測値についてISO規格があるが、推定値は様々な算出式が提唱されている。）

・2023年8月24日を代表日として、その日の気象台観測データを元に数値計算

・代表日の選定について

極端に暑い・曇っている・風が強い などのない日？

< 参考 > 風・温熱環境シミュレーション範囲 (= 今回の体験会で取り扱う範囲)

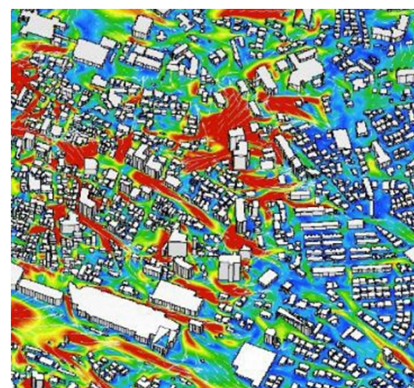
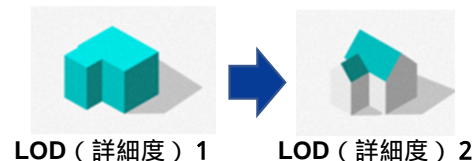


気象センサーの設置と活用

- ・主旨に賛同を得た民間ビルの協力も得つつ、8か所に設置。
- ・気象データはサーバーの負荷も考慮しつつ研究等に提供を予定。

3D都市モデルの詳細化

➡ 気象シミュレーションの精緻化



2 km 四方

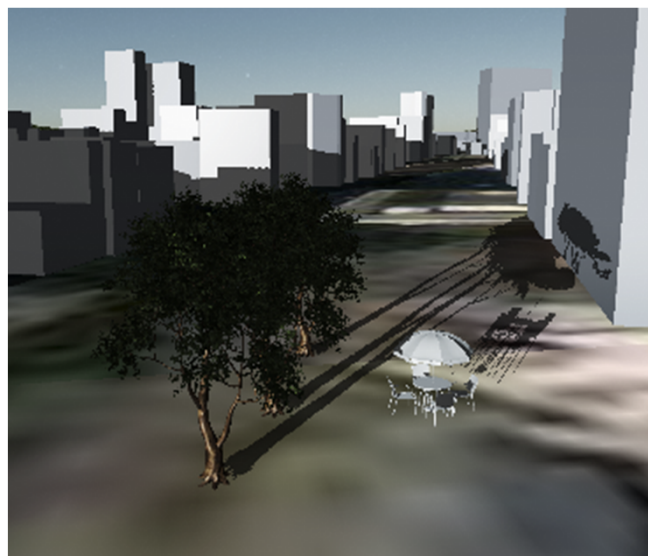
シミュレーション結果 (イメージ)

日陰の形成、オープンカフェの設置をしよう

で作成した「まちなかの暑いエリアマップ」を参照し、暑いエリアに3Dモデルを配置し日陰の形成を行ってもらう。

使用する3Dモデルは日除け・テーブル/椅子の他にも都市にあるもの：乗り物・自然などを想定。参加者が自ら好きなものを選ぶようにする。

この際に、「暑いエリアに日陰を形成」だけでなく「比較的涼しいエリアにオープンカフェ」の設置等も考えてもらう。



街路樹とオープンカフェセット(午前8時頃)の配置イメージ

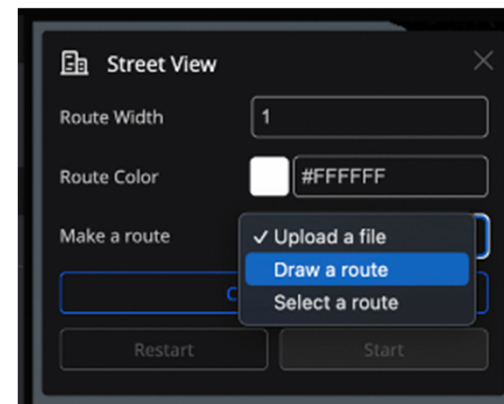
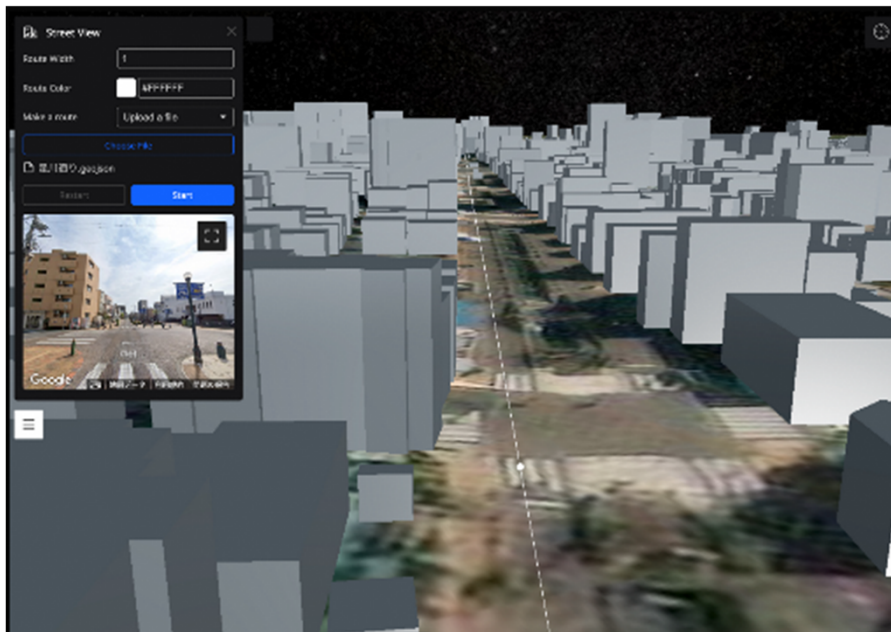


使用する3Dモデル案

自分が作った地図を歩行者目線で見よう

自らが配置した3Dモデル周辺の景観をシミュレーションする。

Re:EarthのGoogle street view Pluginを使用し、実際の歩行者歩行者目線で景観のシミュレーションを行う。

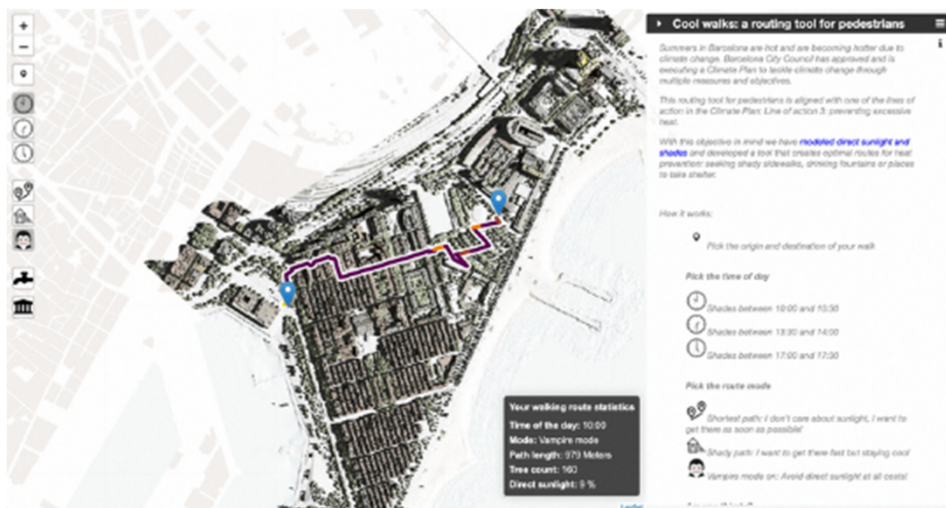


線を書くモード選択

< 参考事例 > 暑さに関連したマップ事例

Cool walks

日陰の多い道をルートしてくれる(スペイン バルセロナ)
最短経路・日陰と最短の経路・日陰最優先の経路の3つのルートを案内してくれる。
(Re:Earthで作成されたプロジェクトではありません。)



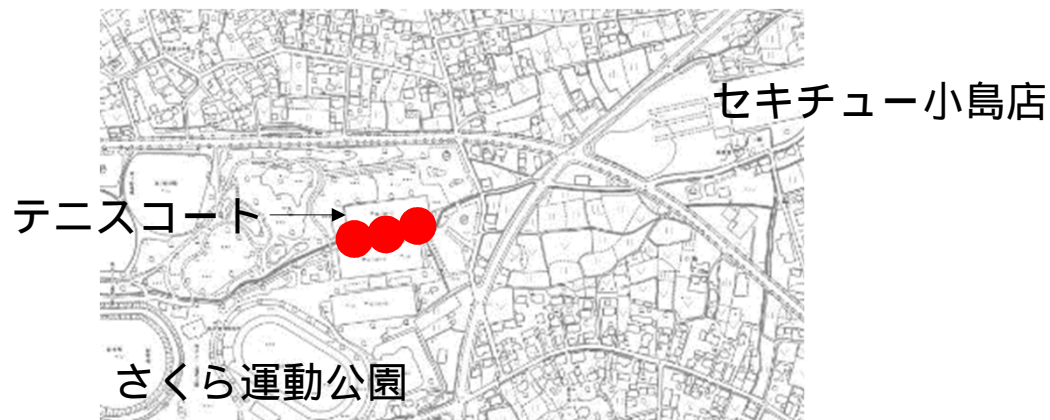
(出典)Cool walks - Barcelona Regional(<https://cool.bcnregional.com/>)

< 参考 > その他暑さ × GIS アイディア (注意) 実現性は未検討

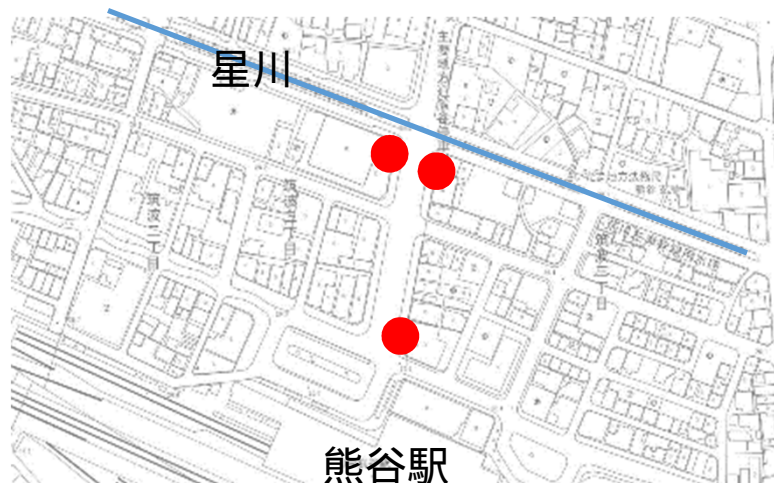
- うちわ祭の暑さ対策
 - 暑さのデータと山車・屋台の巡行ルートと重ねて検討
- 熱交換塗料、塗布前と塗布後の温度比較
 - [「暑さ対策」保育所ひんやりペタペタ事業](#)関連アイディア
 - 実際の効果を可視化、もしくはシミュレーション
 - 塗布希望者を募ることも可能
- 壁面緑化ポテンシャル計測による適正地の選定
 - [「暑さ対策」壁面緑化推進事業](#)関連アイディア
 - 日射量の多いところやその他植物の生育条件に最適なところを特定し、緑化候補地とする

< 参考 > 既に市内で見られる類似の取組（暑さ対策）

- 熊谷さくら運動公園日陰創出事業（フラクタル日除け）



- 藤の parasol 事業（藤棚）



● 設置箇所

4 . 具体のWebGIS (_Re:Earth (リアース)) 操作 (体験会前の暫定版)

まちなかの暑いエリアマップを作ろう

風・温熱環境シミュレーションデータを重ねる

- レイヤーの表示・非表示プラグインをインストールする
- クールシェアスポットのCSVデータをインポートする

まちなかの暑い場所とクールシェアスポットの位置関係が可視化されたマップが作製できる



日陰の形成、オープンカフェの設置をしよう

3Dモデル配置プラグインを使用して3Dモデルを設置する

- 3Dモデル配置プラグインをインストールする
- 暑い場所や比較的涼しい場所を考慮して、日除けやオープンカフェセットの3Dモデルを設置する



日陰の形成、オープンカフェの設置をしよう

Time simulator Pluginを使用して日差しと影のシミュレーションをする

- Time simulator Pluginをインストールする
- シミュレーションしたい日時を設定すると、日差しと影の向きが設定した状況に変化する

シミュレーションしたい日付・時間があれば、より正しい日陰の様子が見られる。

時間変化によってどのように状況が変わるかもシミュレーションできる。

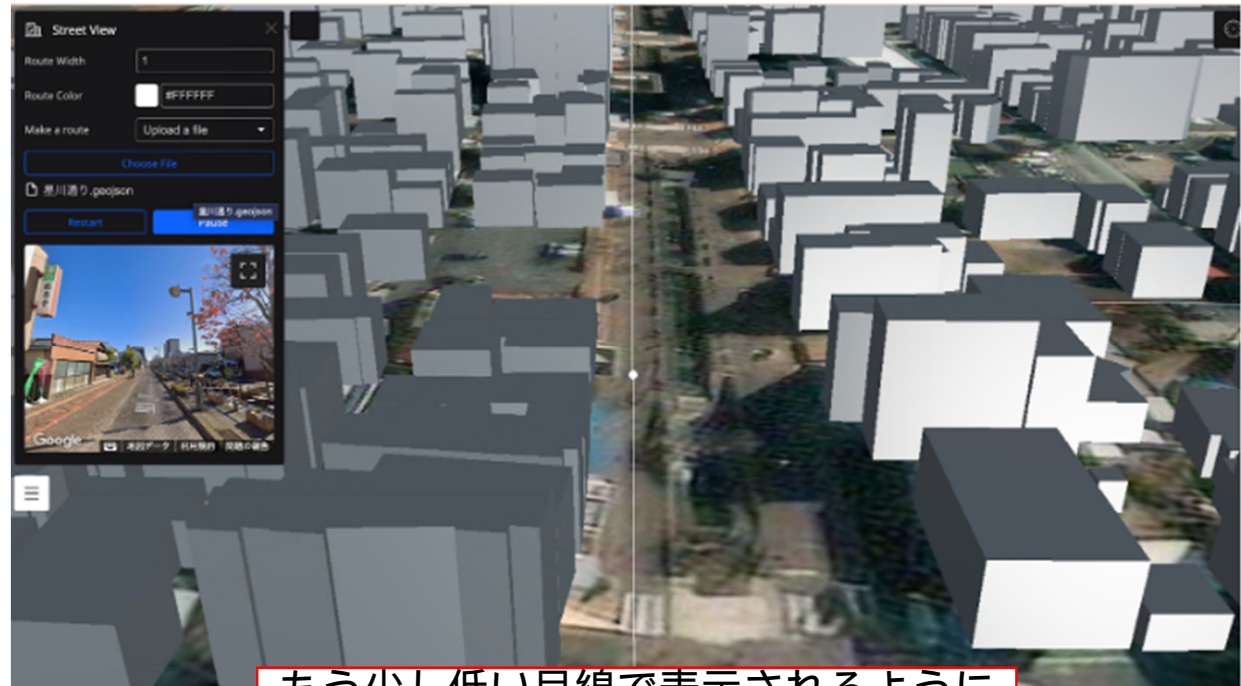


実際のプラグインを使用している状況
がわかるものに差し替え予定

自分が作った地図を歩行者目線で見よう

Street View プラグインを使用して歩行者目線で見える

- Street Viewプラグインをインストール
- 見たいルートを設定する
- ルートに合わせてRe:Earth上の位置とストリートビューの景色が移動する



もう少し低い目線で表示されるように
機能改善中

5 . Re:Earthで可能な地図表現の紹介

○ Re:Earthで可能な地図表現

・ 標準機能でできる表現の紹介

マーカー（地図上のピン）での表現

人の顔をアイコンで表示



【やり方】

- 1．画像を丸くトリミング
- 2．背景を透過しpng形式で保存
- 3．アイコンの画像を変更

【活用案】

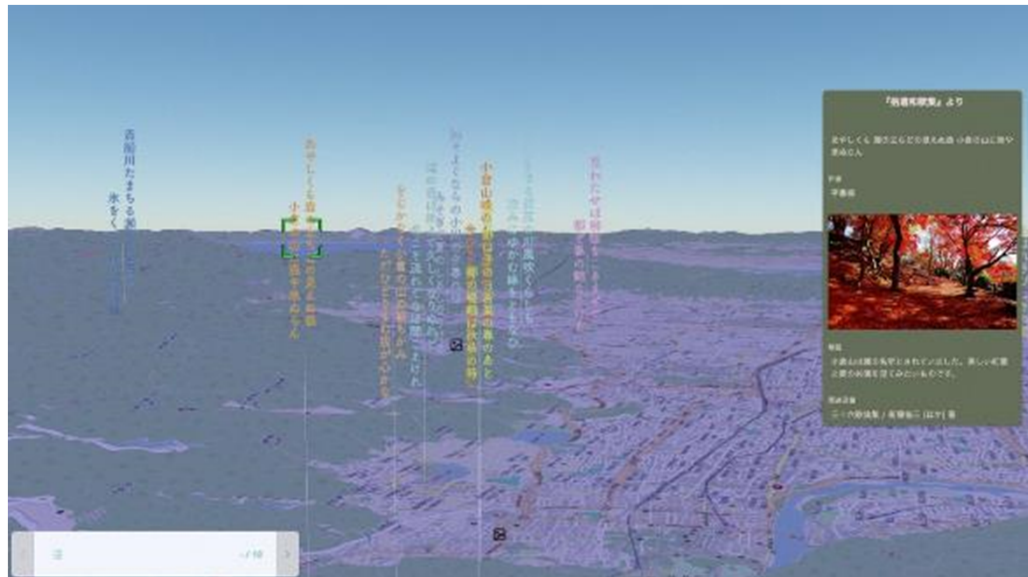
- ・ まちなかのキーマンの活動場所や出没場所を表示
- ・ まちなかの自分のお気に入りの場所にピンを打ってもらう
- ・ 店長さんの顔を見せて利用者が立ち寄りやすくする

○ Re:Earthで可能な地図表現

・標準機能でできる表現の紹介

マーカー（地図上のピン）での表現

文字だけ浮き上がらせる



【やり方】

- 1．文字の画像を作成
- 2．文字以外の背景を透過しpng形式で保存
- 3．アイコンの画像を変更

【活用案】

- ・その場所で「できる」ことや「売り」を端的に表示
- ・場所の利用者の感想を短く表示
- ・場所にちなんだクイズなどを掲載してイベント化

○ Re:Earthで可能な地図表現

・標準機能でできる表現の紹介

その他

機能	内容	活用案
ボタン機能	ボタンに外部リンクのURLを設定して、関連するサイトへ誘導できる。	各施設やお店のHPなどへ誘導する。
カメラ	特定のボタンをクリックすると、指定したカメラ位置へ移動することができる。	地図の範囲を指定（西の核ゾーン・中央ゾーンなど）して関心のある部分に移動しやすくする。
他の Re:Earth プロジェクトへのリンク	ボタン（他プロジェクトURLが貼られている）を押すことにより他のプロジェクトに移動ができる。	コモンワークスペースの複数のプロジェクト間で（それぞれのプロジェクト合意のもとで）連携がとりやすくなる。
ストーリーテリング機能	見せたい順序に合わせて表示をすることができる。	まちなかのイベントの概要説明など

○ Re:Earthで可能な地図表現

・標準機能でできる表現の紹介

その他

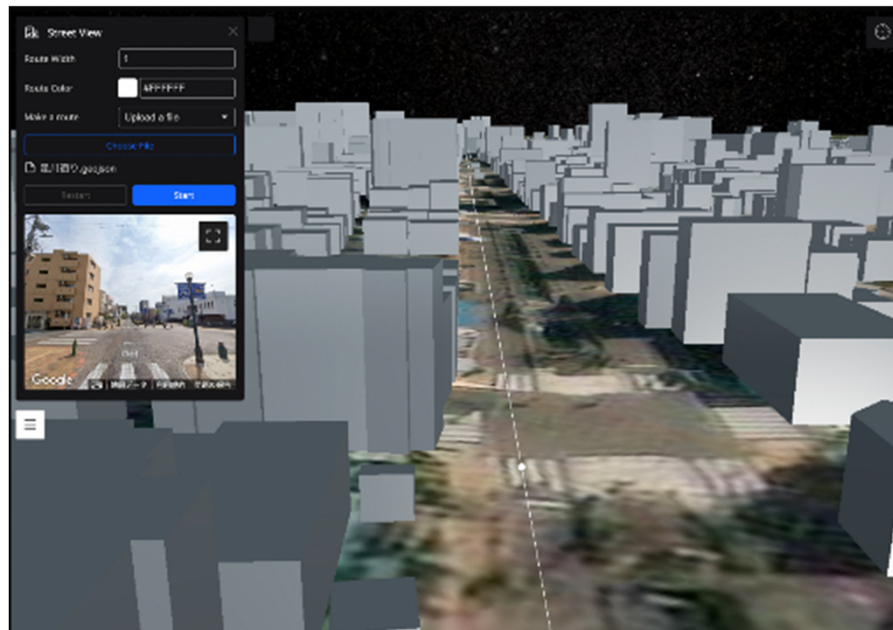
機能	内容	活用案
フォトオーバーレイ機能	写真を重ねて表示することができる。	昔と今の星川の写真を重ねて比べる。マップの目的や概要を表示する。
スプラッシュスクリーン	Re:EarthのURLを開いたときに出てくる画面。一般的には画像を挿入する。	まちづくりに興味を持っていただける画像を配置する（GIF動画を配置することも可能）。
3Dモデル	ネット上で取得または作成した3Dモデルを表示する。	建物や植物などの3Dモデルによって、景観や日よけなどのイメージをしやすくする。

○ Re:Earthで可能な地図表現

・プラグイン（追加機能）の紹介

マーケットプレイス未公開
後日公開により無料で利用可能となる予定

ストリートビューと照らし合わせる【Street View Plugin】



【使い方】

- 1 . Street View Pluginプラグインをインストール
- 2 . 線を描くモードでルートを設定する
- 3 . ルートに合わせてRe:Earth上のマーカーとストリートビューの景色が移動する

【活用案】

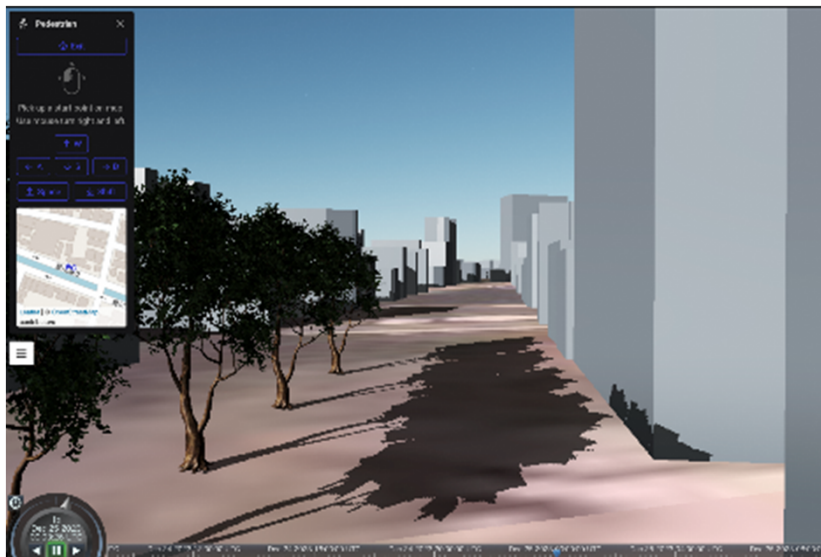
- ・実際に現地に行かなくてもルートの検証などが可能

○ Re:Earthで可能な地図表現

・プラグイン（追加機能）の紹介

マーケットプレイス未公開
後日公開により無料で利用可能となる予定

太陽と影のシミュレーション【Time Simulator Plugin・開発中】



【使い方】

- 1 . Time Simulator Pluginをインストール
- 2 . 3Dモデルを配置する

【活用案】

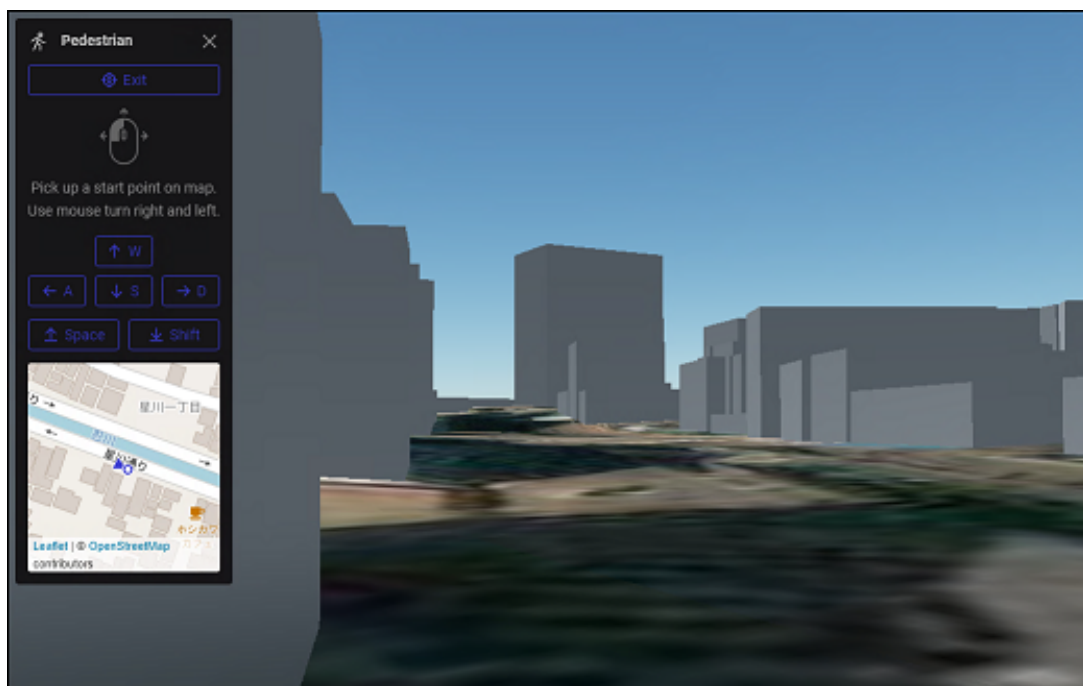
- ・ 涼しい場所はどこか、日当たりのいい物件はどこかなどを探ることができる

○ Re:Earthで可能な地図表現

・プラグイン（追加機能）の紹介

マーケットプレイスから
無料で利用可能

歩行者目線で Re:Earth上を歩ける【Pedestrian Plugin】



【使い方】

- 1 . Pedestrian Pluginをインストール
- 2 . キーボード及びマウス操作でカメラを操作し、3D地図上を移動することができる

【活用案】

- ・ 利用者にまちなかのイメージをダイレクトに伝えられる
- ・ マップ作成者にとっても、まちなかの課題発見（経路の検討、広さの感覚、視界など）につながる可能性がある

○ Re:Earthで可能な地図表現

・プラグイン（追加機能）の紹介

マーケットプレイスから
無料で利用可能

地図上に線を引く【Path Drawer Plugin】

【使い方】

マーケットプレイスから無料で利用可能

- 1 . Path Drawer Pluginインストール
- 2 . マウスクリックにより、地図上に線を引くことができる

【活用案】

- ・ 暑さ対策スマートパッケージの範囲の表示
- ・ グリス口の稼働範囲の表示
- ・ まちなかでイベントをやっている範囲の表示
- ・ 道案内マップの作製（移動ルートの表示）



○ Re:Earthで可能な地図表現

・プラグイン（追加機能）の紹介

マーケットプレイスから
無料で利用可能

フォームを埋め込む【Location Reservation Plugin】



【使い方】

- 1 . Location Reservation Pluginをインストール
- 2 . リンクさせたいフォームをRe:Earth上に追加する

【活用案】

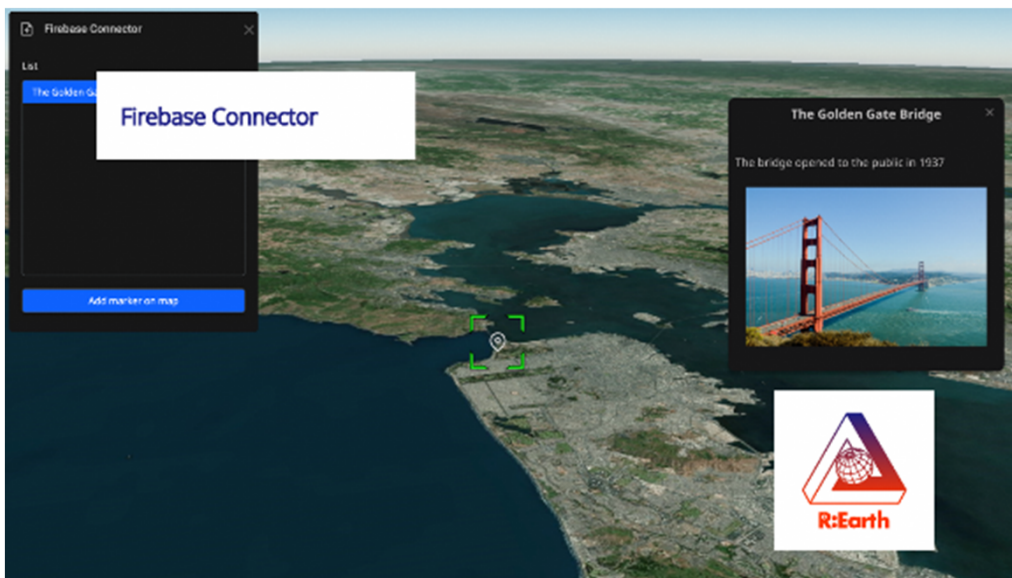
- ・ Re:Earth上でまちづくりのアイデアや改善要望などの情報の収集が可能

○ Re:Earthで可能な地図表現

- ・プラグイン（追加機能）の紹介

マーケットプレイスから
無料で利用可能

データベースを作成する【Firebase Connector Plugin】



【使い方】

- 1 . Firebase Connector Pluginをインストール
- 2 . データベースに追加したい地点にマーカーを落とす

【活用案】

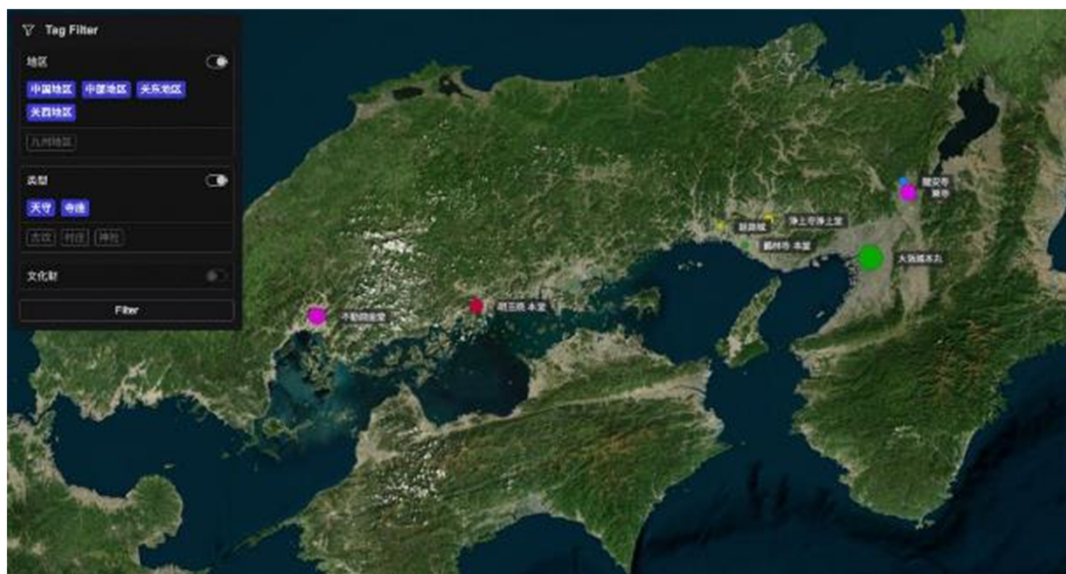
- ・ 出たアイデアや情報をまとめたデータベース作成が可能

○ Re:Earthで可能な地図表現

- ・プラグイン（追加機能）の紹介

マーケットプレイスから
無料で利用可能

マーカーにタグをつける【Tag Filter Plugin】



【使い方】

- 1 . Firebase Connector Pluginをインストール
- 2 . 条件に一致するレイヤーを絞り込んで表示することができる

【活用案】

- ・施設ごとに属性（交流広場、店舗、駐車場、公園など？）を設定して、利用者が絞り込みにより使いやすいようにする

○ Re:Earthで可能な地図表現

・プラグイン（追加機能）の紹介

その他

プラグイン	機能	活用案
東京ドームと大きさを比較する	東京ドームの3Dモデルを並べるもの（無料）	
ポイントや画像、3Dモデルを動かす	指定した地点間を移動するアニメーションを作成するもの（無料）	グリッドをマップ上で動かす。
視野領域を可視化する	マップで選択した地点に視野領域を示すオブジェクトを配置するもの（無料）	交差点の視認性の再現（誘導したい星溪園までのルート上の危険な場所の洗い出しなど）
3Dモデルの色を変える	複数の条件の設定で3D都市モデルの色分けなどをノーコードで行うことができるもの（無料）	まちなかの建物を高さごとに色分けができる。「ある位置（座標）よりも北に配置された建物」などの色分けができる。
レイヤーをCSVエクスポートする	レイヤー情報をファイルに出力するもの（無料）	コモンワークスペースで、ベースとなるマップを作製した後、そのレイヤー情報をエクスポートして、他のプロジェクトで活用する。

○ Re:Earthで可能な地図表現

・プラグイン（追加機能）の紹介

その他

プラグイン	機能	活用案
Re:Earth上で距離を測る	Re:Earth上で距離を測るもの（無料）	まちなかの施設ごとの距離を測ることで、徒歩で続けて利用いただけるか、交通手段の検討が必要かを考えることができる。
場所検索	名前から場所を検索したり、その逆をしたりするもの（無料）	マップ上の施設等が増えてきた際に、利用者が目的の施設が探しやすい。初めて星川周辺を訪れる方に便利（星溪園という単語だけ知っているような方）
コメント・いいね機能	閲覧した人がコメントを加えられるもの（益田市の例。Eukaryaが独自に作成したもの）	市民のまちづくり参加へのきっかけにする。利用者のリアルタイムの感想が反映されることで、マップ内の情報の鮮度や詳細さも向上する。
表示・非表示切り替え	建物の表示・非表示の切り替えを行うことができるもの（Eukaryaが独自に作成したもの）	取り壊しが決まった建物のその後の景観を取り壊し前に想定できる。

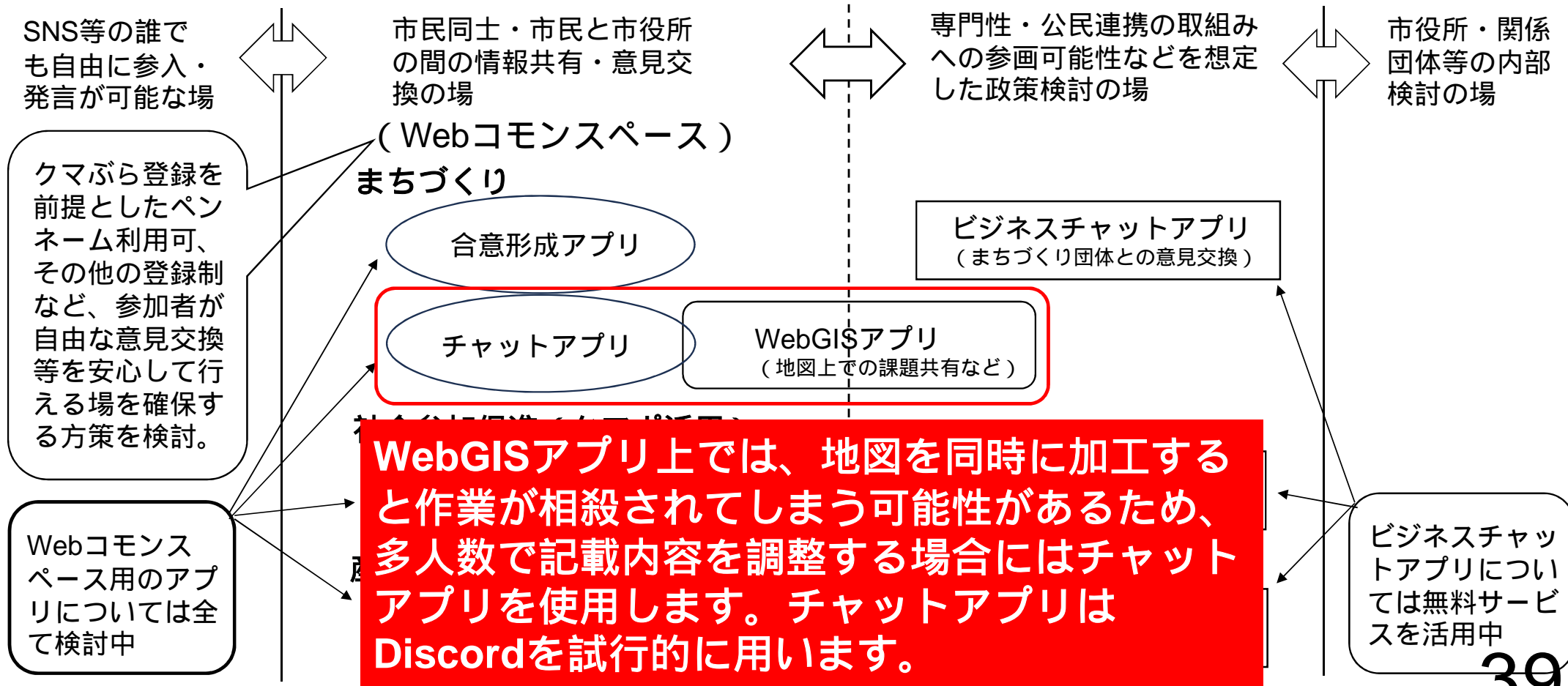
6 . Re:Earthの機能上の注意点

- Discordでの編集宣言について

コモンワークスペースの利用におきまして、同じプロジェクト（地図）への編集タイミングが重なると不具合が生じてしまうため、複数人が編集する可能性のあるプロジェクトを編集する際には、Discordで編集する旨の宣言をお願いします。

(参考) Webコミュニケーションツール等の活用について(案)

まちづくり、社会参加促進(クマポ活用)、産業創造(データ活用)等の分野における、公民連携や民間主導の取組みを促進するためWeb上の情報共有・意見交換の場(Webコモンスペース)の設定を積極的に検討。



• 配置する3Dモデルの詳細度によるパフォーマンスの低下について

3Dモデルの詳細度が高いほど、その容量が増加します。したがって、詳細度の高い3Dモデルを配置する場合は、その数に一定の制限を設け、Re:Earthのパフォーマンスが低下しないように留意する必要があります。一方で、複数の3Dモデルを配置したい場合は、詳細度の低いモデルを使用することで実現が可能です。

限界数はPCの性能・回線速度により異なる

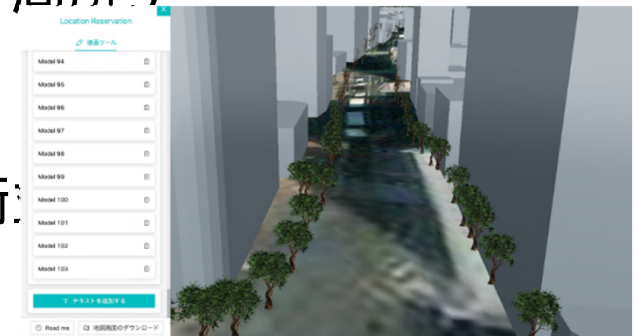
詳細度の高い3Dモデルをいくつか配置

特定オブジェクトの設置場所を検討できる（周所）

（参考）回線速度上り402Mbps、下り742Mbpsで
詳細度の高い（1本1.9MB）街路樹を100本程度置いて
もPC性能が十分であれば問題なし

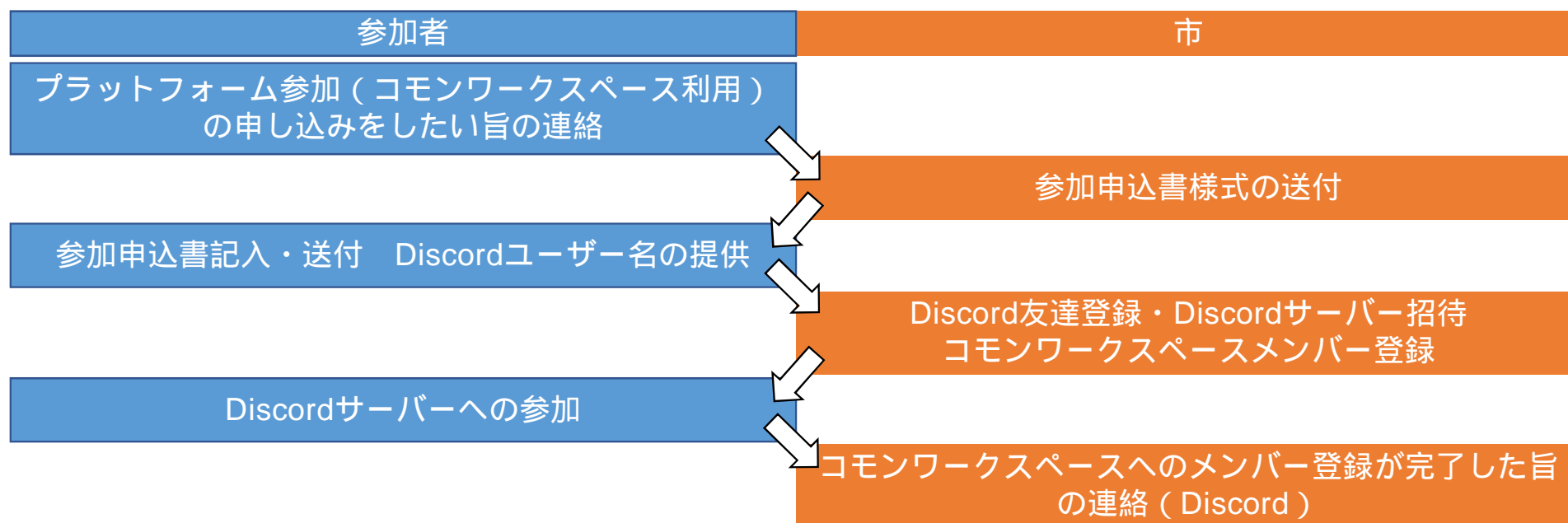
詳細度の低い3Dモデルを複数配置

街にまつわる様々なオブジェクトを配置し街
検討できる（広域）



7 . 市民共創型3DGIS（三次元地理情報） プラットフォームについて

・参加申し込み手続の流れ



- コモンワークスペースのご利用について

ご利用には「市民共創型3DGIS（三次元地理情報）プラットフォーム」への参加が必要です。

（このプラットフォームでは公式のコミュニケーション手段としてDiscordを採用予定です。そちらのコミュニティへの参加が、実質的なプラットフォームへの参加を意味します）

取組内容

以下を総合的に市民に提供することで、「発信や提案」「二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現」が容易になっていることの普及を図ると共に、実践を促進します。

(1) レベル・関心に応じたガイド・テキストの公開

基礎講座資料・動画の公開

ワークショップ資料

基礎講座当日に使用した資料を公開しています。

[第1・2回基礎講座資料 \(PDF: 65,269KB\)](#)

アーカイブ動画

基礎講座の講師音声付き操作画面動画をYoutubeに限定公開しています。

<https://youtu.be/CMNOVTedps0> (外部サイト)



(出典)

https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/plateau/3dws_kiso.html

(参考) トップページからのリンクのたどり方

1. トップページ
2. 熊谷スマートシティ
3. 3D都市モデルオープンデータ化プロジェクト「PLATEAU(プラトール)」
4. 3D都市モデル市民ワークショップ(基礎講座)

市役所内での職員を講師とした研修資料の公開

Re:Earth画面 3D都市モデルデータと荒川洪水浸水想定区域データを重ね合わせたもの

[リアース+3D都市モデル活用講習会マニュアル \(PDF: 4,646KB\)](#)

[講習会テキストファイル \(テキストファイル: 1KB\)](#)

「リアース+3D都市モデル活用講習会マニュアル」では、Project PLATEAUの紹介をはじめ、3D都市モデルデータの活用事例の紹介。Re:Earthを活用した3D都市モデルデータと荒川洪水浸水区域データの重ね合わせによる浸水シミュレーションを行う場合の操作方法を説明しています。また、「講習会テキストファイル」では、熊谷市3D都市モデルデータ、荒川洪水浸水想定区域データが保存されているURLを紹介しています。

(出典)

<https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/plateau/3dsyokuinkosyu.html>

(参考) トップページからのリンクのたどり方

1. トップページ
2. 熊谷スマートシティ
3. 3D都市モデルオープンデータ化プロジェクト「PLATEAU(プラトール)」
4. 3D都市モデルを活用した市職員向け講習会

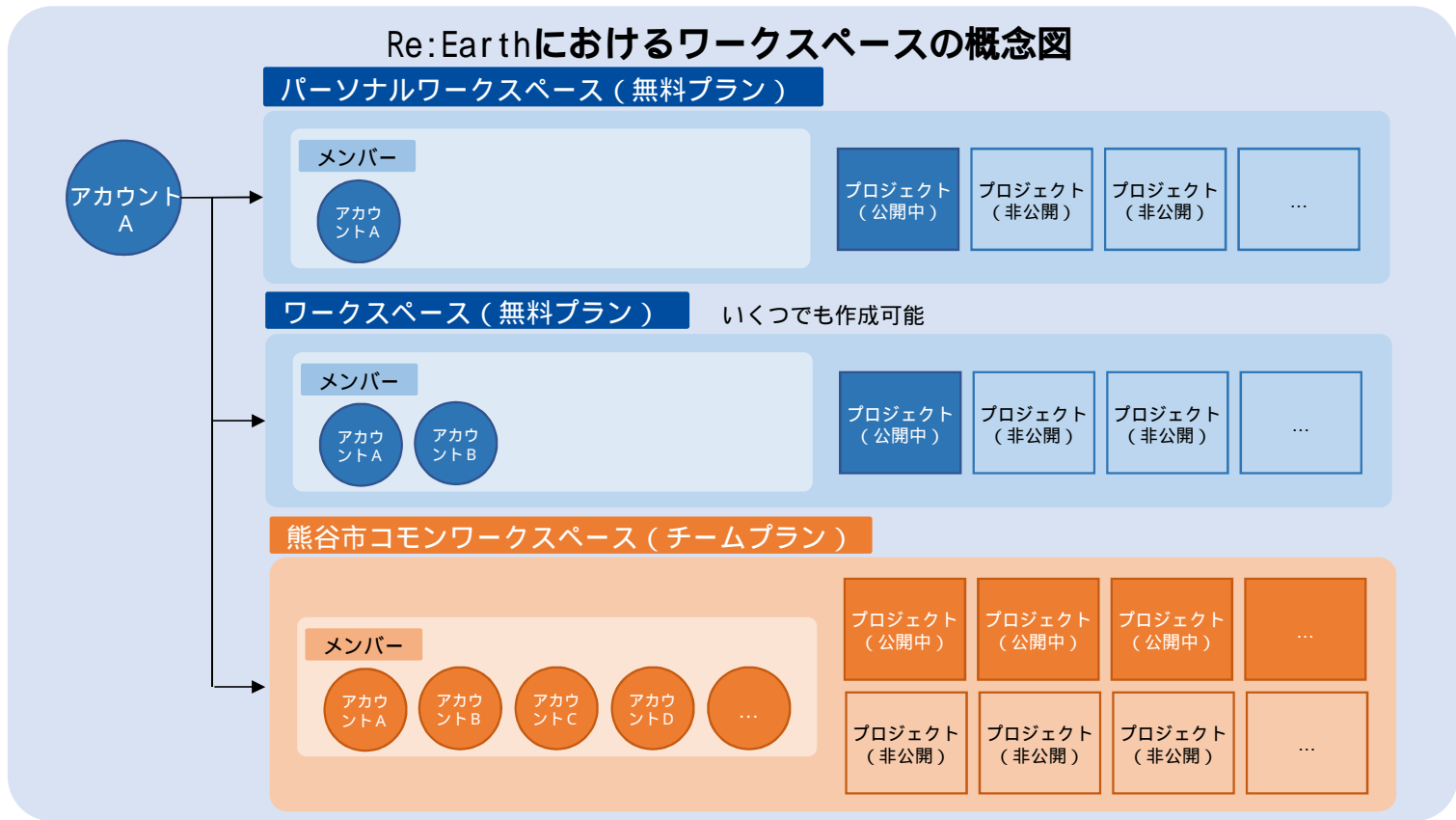
「市民共創型3D GIS(三次元地理情報)プラットフォーム」の取組について(2)

政策調査課

(2) Web上で自由に使える作業の場(コモンワークスペース)の提供【準備中】

市役所には氏名とメールアドレスを登録いただく会員制を想定。(無償)

(他のメンバーのプロジェクトのデータを無断で加工しない等の会員規約に同意いただくことを想定。)



ワークスペースの主な違い

	メンバー(人)	公開プロジェクト(個)
パーソナルワークスペース	1	1
ワークスペース	2	1
熊谷市コモンワークスペース	無制限	無制限

(注1)
Re:Earth(リアース)にはワークスペースと呼ばれる作業空間があり、プロジェクト(地図)はそれぞれワークスペース内に作成することとなります。

(注2)
ワークスペースは、そのメンバーとなることでプロジェクトの参照や編集が可能となります。

・ コモンワークスペースの設置目的について

コモンワークスペースは会員となった市民に以下のメリットを提供し、「発信や提案」「二次元、三次元的に加工された図や画像を用いた表現」が容易になっていることを実感いただくと共に、公民連携により「仮のアイデアや仮の計画の共有・修正のスピードの向上」などが図られることを目的として熊谷市役所がWeb上でリアースの共有ワークスペースを提供するものです。

○Web上に複数の地図が公表可能

- ・ リアースについて、提供元のユーカリヤ社は個人アカウントでの無償体験を提供していますが、その場合、公表できる地図は1件のみとなります。
- ・ コモンワークスペースを利用いただくことにより、複数の地図を比較しながらの議論等も容易になります。

○他のコモンスペース参加者との連携が容易

- ・ 参加者は、他のメンバーのプロジェクトのデータを無断で加工しない等の会員規約に同意いただいています。逆に、合意があれば、共同で地図の加工に当たっていただけます。
- ・ 通常のワークスペースと異なりメンバーは無制限となっておりますので、共同編集する人数に制限なくご利用いただけます。
- ・ 匿名でも活動することは可能ですが、氏名・メールアドレスを市役所に登録いただき、規約に従っていただけない場合は退会する措置を取りますので、安心して活動していただくことが可能です。
- ・ 参加者同士のコミュニティとしては、Discordにおいて、招待制のサーバーを設置することを検討中です。

(3) 市役所の各種取組で作成されたデータの利用しやすい形での提供【準備中】

- ・スマートシティやまちづくりの取り組みに際して作成されたデータ(現時点では検討用に作成された二次元データなどを想定)について、幅広い活用を促進すべく整理を行う予定。
- ・その一環として、熊谷市役所のスマートシティ及び公民連携まちづくりの取り組みにおいて地図系データが作成される場合には、市民参加型WebGISとして利用する想定「リアース」で取り扱えるデータ形式の整備を原則とする予定。(WebGIS側での読み取りを可能とするプラグイン開発も同等の対応とみなす予定。)

(4) 市民向け講習会の提供・関係行事等の情報提供

- ・令和5年度は大学生、社会人向け基礎講座の他、防災、まちづくり、景観・環境をテーマに体験会を開催(一部は予定)。
- ・令和6年度は社会人向け防災テーマの体験会、高校生向けまちづくりテーマの体験会を検討中。(民間団体との研究会等についても検討中)
- ・その他、リアースのベンダーの開催する講習会、他自治体での取組事例の紹介、国の3D都市モデル関係者等が開催する各種行事の情報等を提供予定。

やさしい未来



発見都市 熊谷



<https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/index.html>



利用登録はこちらの
熊谷市公式LINEから

■ 「クマぶら」の入手方法

- 1 熊谷市公式LINEを友達登録
- 2 続けて「クマぶら」の登録をするだけ



3

地図系データ活用説明会 次第（案）

日時 令和6年3月22日（金）
15時00分～16時30分
場所 熊谷市立商工会館3の3

1 開会

2 説明

（1）市民参加型 GIS の活用に向けた取組

（2）まちづくり副読本 / 景観・環境副読本のご紹介

（3）暑さデータの活用事例のご紹介（暑さ対策スマートパッケージ事業）

（4）その他情報提供

埼玉県も提供開始している電子地図サービス（埼玉県 GIS）も含めた熊谷市の電子地図を活用した政策についての整理。

3 質疑応答

4 閉会

- Webコミュニティ等の取組について
- ・ リンクルールの取扱い（アクセス制限）
- + 春のクマぶら上でのクマポ重点取扱い
別添資料

熊谷市コミュニティポイント

クマポ 始まります!

協力団体募集中

(店舗や事業者、市民活動団体等です。)

「クマポ」とは？

「クマポ」は、ボランティアや地域活動等の「まちを元気にする」活動の参加者に配布されるポイントです。「クマポ」に換金性はありません。

ためた「クマポ」は市や協力団体の提供するサービスや記念品と交換できます。また利用者間でもらったり、あげたりすることもできます。「クマポ」の循環で人のつながりをつくり、共助やコミュニティ活動の活性化を図ります。

「クマポ」でできること

ためる

イベント会場等に設置された二次元コードをスマートフォンで読み取ることで、「クマポ」を受け取ることができます。

つかう

ためた「クマポ」を使い、市や協力団体の提供するサービスや記念品を受け取ることができます。

わたす

「クマポ」は、もらったり、あげたりできます。利用者間で感謝や応援の気持ちを伝える手段としての利用もできます。

「クマポ」協力団体に登録しませんか？

協力団体に登録することで、「クマポ」の取引が可能になります。

「クマポ」でサービスを行うことでお店を宣伝したり、**お客さんにお手伝いをお願いする**など、工夫次第で様々な使い方が可能です。

「クマポ」を利用してお店のPRをしませんか？



詳しくはこちら
市ホームページ



お問合せ

熊谷市役所 市民活動推進課

〒360-8601 熊谷市宮町二丁目47-1 本庁舎4階

電話：048-524-1348